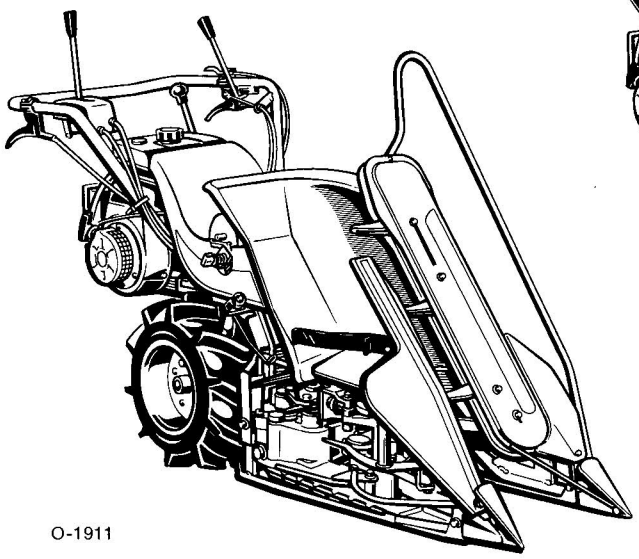
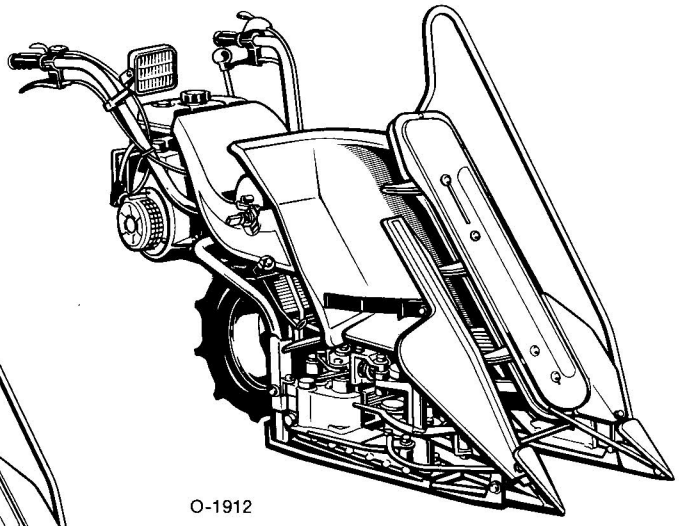
クボタバインダー

取扱説明書

RE20
RE30



O-1911



O-1912

安全宣言
安全はクボタの願い

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

エンジン回転数**“低速”**

エンジン回転数**“高速”**

専門用語の説明

- ひもブレーキ圧 …… 結束ひもの供給量を調節し，ひもの種類により切換えます。
- ホルダバネ圧 …… 結束するとき結束ひもを保持し，ひもの種類により切換えます。
- ビルバネ圧 …… 結束するとき，結び目を作ります。
- ドア …… 結束するとき，結束クラッチを感知する部分。束の大きさにより調節します。
- パチンコ …… 結束ミスの一種。
- 分草かん …… 未刈側作物を分けていく部分。作物の倒伏状態により位置を変更します。
- ゼロプレタイヤ
- クローリングタイヤ } …… 空気圧ゼロの１輪用タイヤ。
- マッドレスタイヤ …… 土の付着の少ない空気圧5.9kPa（0.06kgf/㎠）の１輪用タイヤ。
- 安全ピン …… 刈取部に異常負荷発生のとき，部品の破損を防ぐ部品。
- 倒伏分草かん …… 長かん作物で倒伏のひどいとき，作物をやさしく分草する部分。
アタッチメント部品
- 自動刈取りクラッチ …… 作物の有無を感知し，自動的に刈取部の作動を断続する部分。
RE20-D・30-Dに標準装備
- フィンガーシャトル …… ハンドルを握ったまま，指先で前後進の切換えを行なう部分。
RE20-Dに標準装備

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの販売店に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

50030-8181-8

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **警　告**：注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注　意**：注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。

重　要：注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補　足：その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，稲・麦の刈取り用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

■仕様と装備

この取扱説明書は，**RE20**を基本に編集してあります。**RE20**と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。お買い上げの製品をお確かめの上，お間違いのないようご活用ください。

1）型式別

型　式　名	本文表示
クボタRE20	**【20】**
クボタRE30	**【30】**

2）仕様別

仕様区分	本文表示	
	クボタRE20	クボタRE30
・マッドレスタイヤ装着	**M仕様**	—
・クローリングタイヤ装着	**E仕様**	—
・広幅低ラグタイヤ装着	—	**W仕様**
・低刈用刈刃装着	—	**L仕様**
・降灰対応として，エンジンのエアクリーナ変更し，予備エレメントを1ヶ標準装備	—	**G仕様**
・自動注油，自動刈取りクラッチ，ランプの標準装備	**D仕様**	**D仕様**
・フィンガーシャトルの標準装備	**20-D仕様**	—

バインダーを安全にしかも上手にご使用していただくため，この取扱説明書は次の手順で構成されていますので，基本操作から刈取り作業まで順番に理解習得してください。

まずは安全確保をしましょう

1．**⚠安全に作業するために：**安全作業をしていただくために基本的注意事項や警告ラベル・注意ラベルの機械への貼付け位置と警告・注意事項を解説していますのでよく読んで理解し，必ず守ってください。

動かす前に諸装置を理解しましょう

2．**諸装置の説明：**諸装置のはたらきをまず理解し，間違った操作をしないでください。

動かす前に機械の健康診断をしましょう

3．**運転前の点検：**作業中のトラブル防止のため，毎作業前の点検内容を理解し，必ず実施してください。

最初にエンジンの安全基本操作を体得しましょう

4．**エンジンの始動と停止：**機体の突然の発進をさせないため，エンジンの始動手順と停止を体得してください。

次にバインダーの安全移動のための基本操作を体得しましょう

5．**バインダーの運転：**

(1)安全に機体を前進・後進・停車させる基本操作を体得してください。

(2)毎作業前に点検を必ず実施してください。

(3)バインダーをほ場へ安全に移動させるため，安全装置の取付けや各装置の脱着や固定作業，トラックへの安全な積込み・積降しと輸送方法を理解し，必ず守ってください。

では実際にほ場で刈取り作業を始めてみましょう

6．**上手な刈取り作業のしかた：**作業前に結束ひもや諸装置の取付け，作物とほ場条件にあった各部の正しい調整，安全で正しい刈取り作業を体得してください。

よく働いた機械をいたわりましょう

7．**メンテナンス：**機械を長持ちさせるために，刈取りシーズン前後・長期格納時の注意事項や定期点検の要領を理解・実施し，来シーズンに備えてください。

もしものときは

8．**結束ミスがでたら……：**結束ミスや束の放出が悪いときは，その現象から原因を見つけ，処置してください。

D仕様は特殊装置の取扱いを体得しましょう

9．**【D】仕様のお客様へ：**自動刈取りクラッチ・自動注油装置・フィンガーシャトル【20-D】の安全で正しい取扱い方法を体得してください。

目　次

⚠安全に作業するために…… ⚠-1

1.安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。 …… ⚠-1

2.⚠表示ラベルと貼付位置 …… ⚠-7

3.⚠表示ラベルの手入れ …… ⚠-11

サービスと保証について …… 1

ご相談窓口 …… 1

機体方向説明 …… 1

諸装置の説明 …… 2

【20】,【20-D】のお客様へ…… 3

エンジンスイッチ …… 3
アクセルレバー …… 3
チョークレバー …… 3
リコイルスタータ …… 3
主変速レバー …… 3
フィンガーシャトルレバー【D】 …… 4
走行クラッチレバー …… 4
刈取りクラッチレバー …… 4
車輪調節ハンドル …… 4
ランプ【D】 …… 4
注油ポンプレバー【D】 …… 5
センサ【D】 …… 5

【30】,【30-D】のお客様へ…… 5

エンジンスイッチ …… 5
アクセルレバー …… 5
チョークレバー …… 6
リコイルスタータ …… 6
主変速レバー …… 6
シャトルシフトレバー …… 6
操向クラッチレバー …… 6
刈取りクラッチレバー …… 7
ランプ【D】 …… 7
注油ポンプレバー【D】 …… 7
センサ【D】 …… 7

運転前の点検 …… 8

日常点検項目 …… 9

エンジンの始動と停止 …… 12

【20】のお客様へ …… 12

エンジンの始動 …… 12
エンジンの停止 …… 13

【30】のお客様へ …… 14

エンジンの始動 …… 14
エンジンの停止 …… 15

バインダーの運転 …… 16

【20】のお客様へ …… 16

新車のときの扱い方 …… 16
発進 …… 16
停車 …… 17
ほ場間の移動 …… 17
トラックへの積込み・積降し …… 18

【30】のお客様へ …… 19

新車のときの扱い方 …… 19
発進 …… 19
停車 …… 19
ほ場間の移動 …… 20
トラックへの積込み・積降し …… 20

上手な刈取り作業のしかた … 22

バインダー作業ができる作物とほ場条件 …… 22

作物の条件 …… 22
ほ場の条件 …… 22

刈取り作業前の準備 …… 23

タイヤの取付け位置 …… 23
タイヤの空気圧 …… 23
結束ひもの通しかた …… 24
結束ひもの取扱い …… 27
束の大きさの調節 …… 27
ハンドル高さの調節【20】 …… 27

作物条件に応じた各部の調整 …… 28

倒伏状態と刈り方 …… 28
倒伏状態と分草かんの使い方 …… 29
デバイダの使い方 …… 29
引起し爪作用高さの調整 …… 29
車輪の上下調節【20】 …… 30

刈取り作業について …… 31
刈取り作業の注意点 …… 31
雑草の多い田畑の刈取り …… 31
露や雨にぬれた作物の刈取り …… 31
作業中の故障対策 …… 32
ほ場の手刈り …… 32
刈取り作業の操作 …… 32
旋回のしかた …… 33
ほ場の形状による刈り方 …… 34
麦の刈取り …… 34
麦の刈取り方法 …… 35
密植した作物の刈取り …… 35
メンテナンス …… 36
給油・点検調整一覧表 …… 36
注油・給油一覧表 …… 36
点検調整一覧表 …… 37
毎日作業前 …… 37
２０～３０アールごと …… 38
注油箇所 …… 38
シャトルシフトの調整【30】 …… 38
操向クラッチワイヤの調整【30】 …… 38
５０～６０アールごと …… 38
注油箇所
【20】のお客様へ …… 38
注油箇所
【30】のお客様へ …… 39
１００アールごと …… 40
エアクリーナの掃除 …… 40
エンジンオイルの交換 …… 40
ミッションケースのオイル交換 …… 41
チェーンケースのオイル交換 …… 41
結束ケースのオイル交換 …… 41
２００アールごと …… 41
エンジンオイルの給油・交換 …… 41
ミッションケースの給油・交換 …… 41
チェーンケースの給油・交換 …… 41
結束ケースの給油・交換 …… 42
【20】のお客様へ …… 42
走行クラッチワイヤの調整 …… 42
刈取りクラッチワイヤの調整 …… 43
【30】のお客様へ …… 43
走行クラッチワイヤの調整 …… 43
シャトルワイヤの調整 …… 44
刈取りクラッチワイヤの調整 …… 44
操向クラッチワイヤの調整 …… 44
刈刃の整備 …… 45
フューエルフィルタの掃除 …… 46
電気配線の損傷及び
接続部のゆるみの点検 …… 46
都度の整備 …… 46
引起しチェーンの張り調整 …… 46
安全ピンの交換 …… 47
点火プラグの調整 …… 48
冷却フィンの掃除 …… 48
リコイルスタータの
空気吸込み部の掃除 …… 48
使用後の手入れと
長期格納 …… 49
使用後の手入れ …… 49
長期格納のときの手入れ …… 49
使用者が行なってはいけない修理 …50
使用済廃棄物の処分について …… 50
結束ミスが出たら …… 51
結束ミスが出たときの点検 …… 51
束の放出が悪いとき …… 51
結束ミスの原因と処置 …… 52
【20-D】のお客様へ …… 55
(ランプ・自動刈取りクラッチ・
自動注油装置・フィンガーシャトル付)
自動刈取りクラッチの操作のしかた …55
自動刈取りクラッチの調整 …… 55
自動注油装置による注油 …… 56
オイルタンクへの給油 …… 56
自動注油の操作 …… 56
自動注油による注油箇所 …… 56
注油ノズルの外し方 …… 57
配管ホースの外し方 …… 57
手動注油箇所 …… 57
フィンガーシャトル操作のしかた …58
発進のしかた …… 58

前後進変速のしかた …… 58
走行クラッチワイヤの調整 …… 59
シャトルワイヤの調整 …… 59

【30-D】のお客様へ …… 60

(ランプ・自動刈取りクラッチ・
自動注油装 置付)
自動刈取りクラッチの
操作のしかた …… 60
自動刈取りクラッチの調整 …… 60
自動注油装置による注油 …… 61
オイルタンクへの給油 …… 61
自動注油の操作 …… 61
自動注油による注油箇所 …… 61
注油ノズルの外し方 …… 62
配管ホースの外し方 …… 62
手動注油箇所 …… 62

付表 …… 63

主要諸元 …… 63
付属部品 …… 65
クボタ純オイル …… 65
アタッチメント …… 66
主な消耗部品一覧表 …… 68

⚠ 安全に作業するために

必ず読んで
ください

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

更に安全に関した事項を抜粋した『製品取付エフ』を添付しておりますので，よくお読みいただいて必ず守ってください。

1．安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。

安全指示順守

■本書および本機の警告ラベルをよく読み理解してください。

- 警告ラベルはいつもきれいにしておいてください。
- 破損・紛失したときは，注文して再度貼付けてください。
- 正しい運転，作業方法をよく覚えてください。
- 製品を勝手に改造しないでください。安全性をそこなったり機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても安全には細心の注意を払ってください。

M-6215

適格者運転

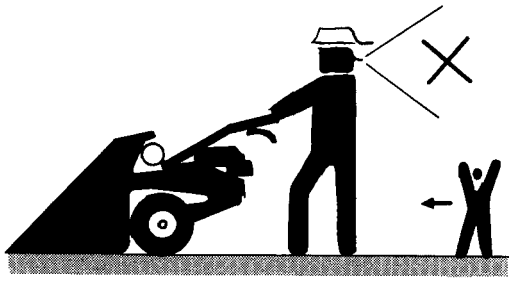
■次の方はバインダーを使用しないでください。

- お酒を飲んでいる方，睡眠不足の方，妊娠中のご婦人，16才未満の方，過労気味で正常な運転が困難な方は使用しないでください。
- 初めて使用する方は操作に慣れるまで，**“低速”**で運転してください。

M-6216

子供が近づくのは危険

■点検，整備中及び刈取り作業中，本機に子供を近づけないでください。

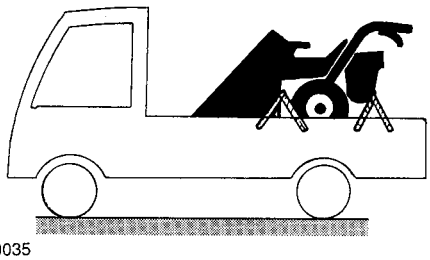


O-0034

移動走行

■このバインダーは，一般道路を走行することはできません。

- 移動するときは，トラックなどで輸送してください。



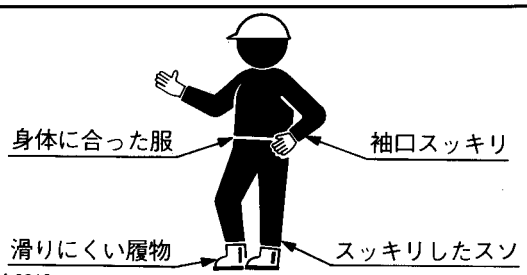
O-0035

⚠ 安全に作業するために

安全な服装

■作業する際は，バインダーの運転に合った服，帽子，履物を使用してください。

- だぶついた服や袖口をとめていないとき，操作レバーや作動部分に誤って引っ掛かりケガをすることがありますので着用しないでください。



M-6219

排気ガスに注意

■エンジンの排気ガスは有毒です。

- 屋内で運転する場合は，適切な換気をしてください。
- ドアや窓を開け，外気がじゅうぶん入るようにしてください。

F-8842

燃料の取扱いは安全に一火気厳禁

■燃料は非常に燃えやすく危険です。
取扱いには，十分注意してください。

- 燃料補給中は火気を近づけないでください。くわえタバコや、裸火照明はしないでください。
- 燃料補給は,エンジンを止めて冷えてから,行なってください。
- 燃料はタンク規定量を補給してください。
- 燃料やオイルが，こぼれたときは，きれいにふきとってください。
- 燃料補給後，タンクキャップは，もれないように，しっかり締めてください。

B-1499

作業開始前点検（日常点検）の実施

■運転の前に，9ページの点検項目の点検をしてください。
異常があれば整備してから運転してください。

- 点検は，バインダーを平たんで安定した場所で行なってください。

■点検，整備，調整，掃除，燃料の補給，注油，グリースの給油をするときは，エンジンを止めてください。

- 自動注油するときは，エンジン回転を**“低速”**にし主変速レバーを**“N”**（中立）にし，刈取部を作動しながら行なってください。【D】
- マフラやエンジン周辺部にわらくずがたまっていると火災の原因となり危険です。きれいに取除いてください。
- 燃料，油脂は指定のものを使用してください。

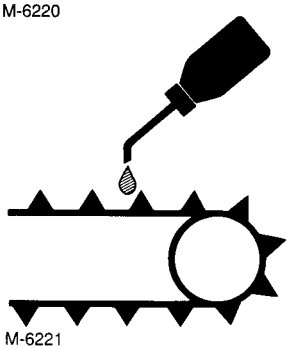
■点検,掃除などで外したカバー類は,必ず取付けてください。

■結束ひもを通すときは，エンジンを必ず止めてください。

- ホルダに結束ひもを通す場合は，エンジン回転を**“低速”**にし結束部の回転部分に触れないように注意してください。

M-6220

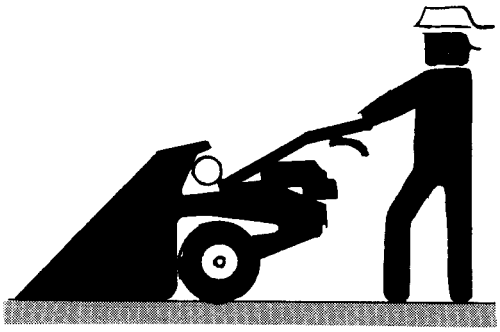
M-6527


M-6221

機械を動かす場合は安全に注意

■機械を動かす場合は周囲および足元の安全に気をつけてください。

- エンジンを始動するときは，機械が動かないように，平たんな場所に置き，主変速レバーを“N”（中立），各クラッチレバーを“切”にし，周囲の人に合図をし運転位置で行なってください。
- リコイルスタータを引っ張るときは，手が周囲の人や物にあたらないことを，確かめて行なってください。
- 機械の発進や刈取部を運転するときは，周囲の人に合図をし，安全を確認して人を機械に近づけないでください。

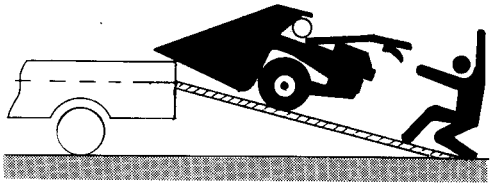


O-0036

安全なトラック輸送

■あゆみ板でトラックなどへの積込み・積降しは，平たんな場所で“低速”で行なってください。

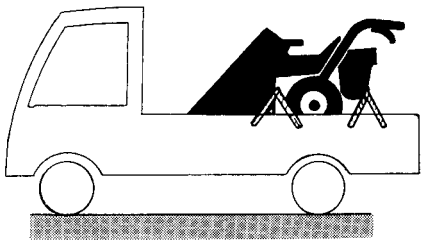
- トラックは駐車ブレーキをかけ“車止め”を確実に行なってください。
- あゆみ板は，すべり止めのついたバインダーの機体質量に耐えるもので，トラックの荷台の高さの“1”に対しあゆみ板の長さ“4以上”のものを使用してください。
- あゆみ板の安定，平行を確かめてください。
- あゆみ板の途中で，走行クラッチレバーの“切”操作【20】，シャトルシフトレバーの“N”（中立）操作【30】をすると機械が急降下し危険ですので，絶対しないでください。
- あゆみ板の途中で，操向クラッチレバーを握ると，握った方向と逆の方向に機械が旋回し，落下の危険がありますので絶対しないでください。【30】



O-1037

■トラックの上ではバインダーのロープフックにロープ掛けを行ない，しっかり床に固定してください。

- エンジンを止めたあとで，主変速レバーは“1速”の位置，走行クラッチレバーは“入”【20】，シャトルシフトレバーは“前進”【30】，刈取りクラッチレバーは“入”にして，機械が動かないようにしてください。

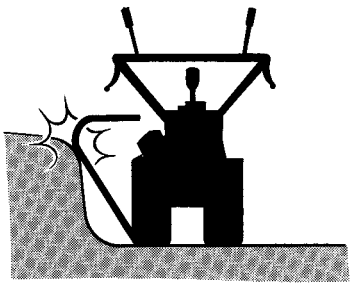


O-1038

安全なほ場間の移動

■安全のため，刈取りクラッチレバーは必ず“切”にしてください。

- デバイダの先端に，必ずデバイダカバーを取付けてください。
- 突出部で周囲の人のじゃまにならないように，分草かんは上方に収納してください。



O-2123改

▲ 安全に作業するために

転倒・転落注意

■転倒・転落は重大事故になります。

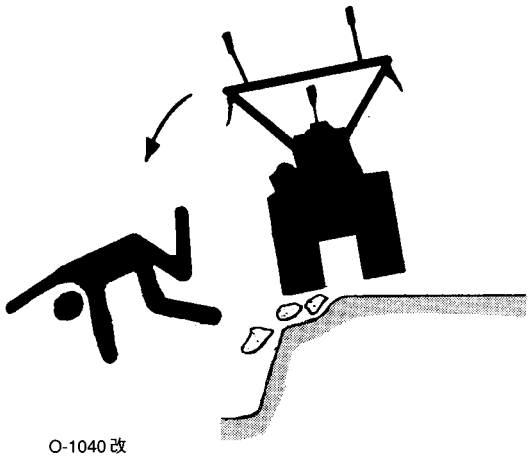
- 雨天のときは，農道の路肩が弱くなることがあり，バインダーの重みで崩れるような場所は移動しないでください。
- 道幅に余裕がなく，高所にある場所で運転を誤ると転落して危険ですので，移動しないでください。

■傾斜地，急な坂道，凹凸のある場所の移動は，転倒する危険がありますので，エンジン回転を“低速”にし主変速レバーは“１速”で注意しながら，ゆっくり行なってください。

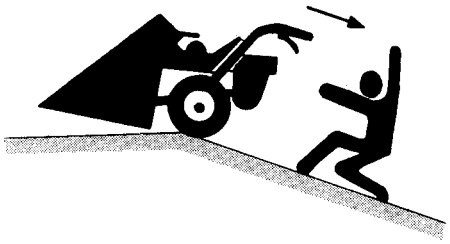
- 傾斜地，急な坂道をバックで降りる場合は，転倒の危険がありますので，後方足元を確認し，エンジン回転を**“低速”**にしてください。
- 傾斜地，急な坂道の途中で，走行クラッチレバーの**“切”**操作**【20】**，シャトルシフトレバーの**“N”**（中立）操作**【30】**をすると，機械が急降下し危険ですので，絶対しないでください。
- 傾斜地，急な坂道の途中で，操向クラッチレバーの操作**【30】**はしないでください。

■10cm以上の段差のある場所では，あゆみ板を使用してください。

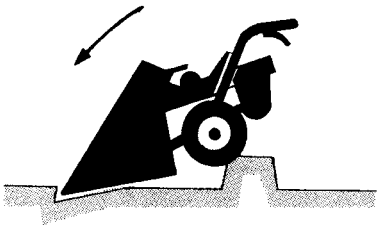
- 主変速レバーを**“1速”**で段差に直角に機械を入れてください。
- あゆみ板の途中で，操向クラッチレバーの操作**【30】**はしないでください。
- あゆみ板はすべり止めのついたバインダーの機体質量に耐えるものを使用してください。



O-1040改



O-1041

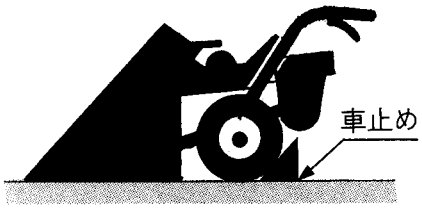


O-1042

安全な駐車のしかた

■駐車するときは,平たんで安定した場所で行なってください。

- 傾斜地や坂道では，機械が動き出し危険ですので，駐車しないでください。
- やむをえず傾斜地に駐車するときは，エンジンを止めて主変速レバーを**“１速”**にし，走行クラッチレバーを**“入”****【20】**，シャトルシフトレバーを**“前進”****【30】**にして，必ず**“車止め”**をしてください。



O-1043

安全な刈取り作業

■異常に気づいたら，直ぐにエンジンを止めてください。

- 危険な作動部分が，あちこちにあります。機械の運転中にわらの巻付きや詰まりを取除くことは絶対しないでください。エンジンを必ず止めて処置してください。
- 刈刃部の詰まりを取除くときは，刃部で負傷する危険がありますので，エンジンを必ず止めて，刃部に注意して行なってください。
- 安全カバーの内部には危険な作動部分があります。カバーを外したまま運転しないでください。

■結束ミスが3回連続して発生した場合は，作業を中止しエンジンを必ず止めて，処置してください。

M-6527

〔結束ミス〕

〔刈刃〕

O-1044

共同作業の安全確保

■共同作業を行なうときは，互いに合図をかわして安全を確保し行なってください。

旋回するときの注意

■旋回する場合は周囲の人にあたらないようにじゅうぶん注意してエンジン回転は“低速”でゆっくり行なってください。

安全な点検・整備

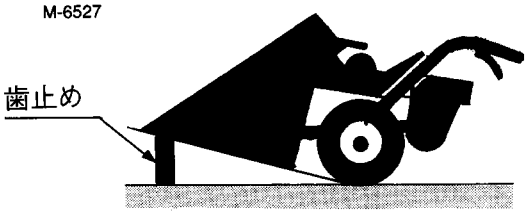
■エンジンをかけたままでの点検，整備，清掃は危険です。エンジンを止めて，平たんで安定した場所で行なってください。

- 刈取部を上げて点検，整備，調整，清掃をするときは，転倒落下防止の**“歯止め”**をしてください。
- 刈刃の点検，調整をするときは，厚手の手袋を使い，刃先に手が触れないように注意してください。

■点検，整備後，確認をするときは，エンジン回転を“低速”で行なってください。

■点検，整備時に，外したカバー類は，もとの位置に必ず取付けてください。

M-6527



O-1045

⚠ 安全に作業するために

火災防止

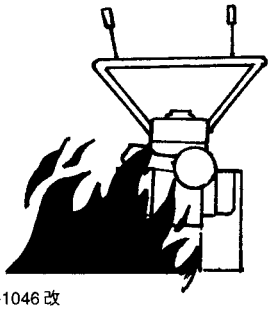
■わらくずは燃えやすく，注意が必要です。

●エンジン本体，マフラ周辺，配線部にわらくずがたまっていると危険です。作業前，作業後に点検しきれいに取除いてください。

■機械にカバーをかけるときは，エンジンやマフラが冷えてから行なってください。

エンジン**“停止”**直後にカバーをかけると，火災になるおそれがあります。

■電気配線の被覆が破れるとショートして火災が発生することがあります。点検をして破れている部分は修理が必要です。



O-1046 改

ヤケド防止

■高温の油が皮膚に触れるとヤケドをします。

●運転中のエンジンオイルは高温になります。エンジンおよびその他の部品も高温になっています。オイルのふき出しによるヤケドのおそれがあるため，十分に温度が下がってから点検，整備してください。

■エンジン本体，マフラ，排気管が高温になります。運転中および停止直後は触れないでください。

●エンジンの点検，調整，掃除はエンジンが冷えてから，行なってください。

B-1502

安全なタイヤの空気圧

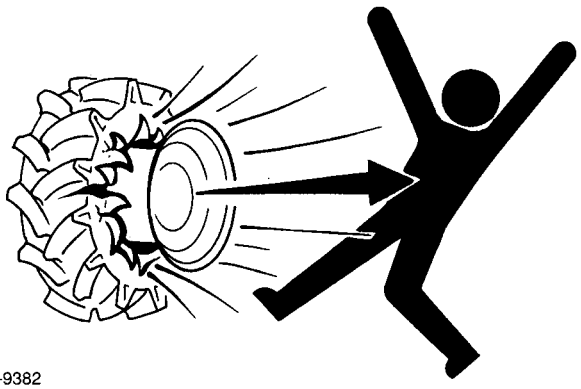
■タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。

●空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。

●タイヤに傷があり，その傷がコード(糸)に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。

●タイヤ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。

(特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。)



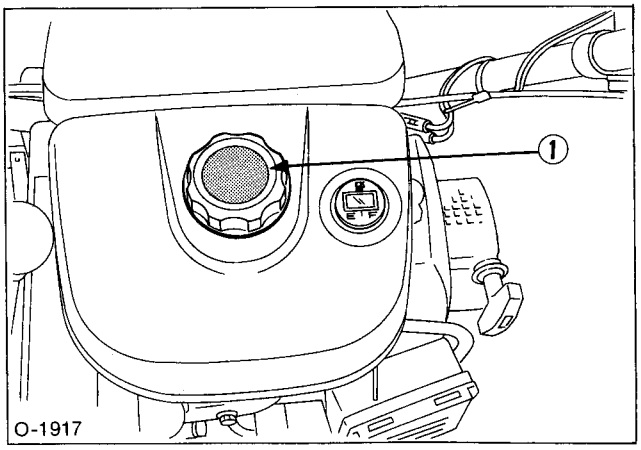
F-9382

バインダーを他人に貸すとき

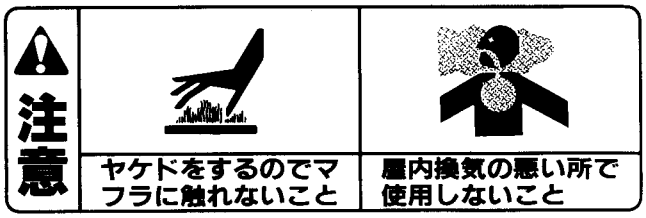
■取扱説明書をよく読んでいただくとともに，取扱方法，安全な使い方を説明し，安全な作業ができるように指導してあげてください。

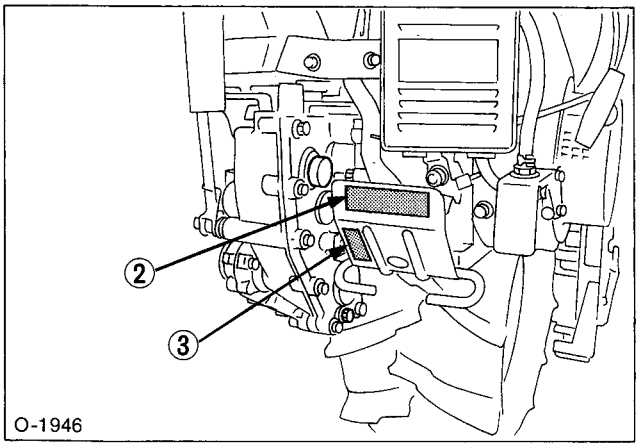
2．⚠表示ラベルと貼付位置

① 品番　50080-1689-2

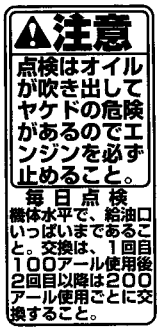


② 品番　54181-3132-1





③ 品番　50080-1653-1

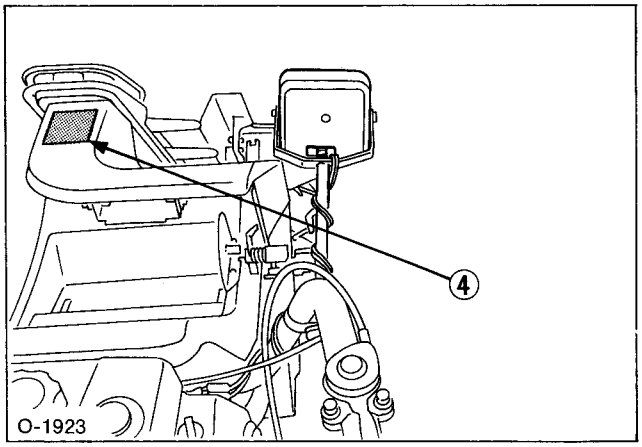


▲ 安全に作業するために

④ 品番　50080-1684-3

▲ 注　意

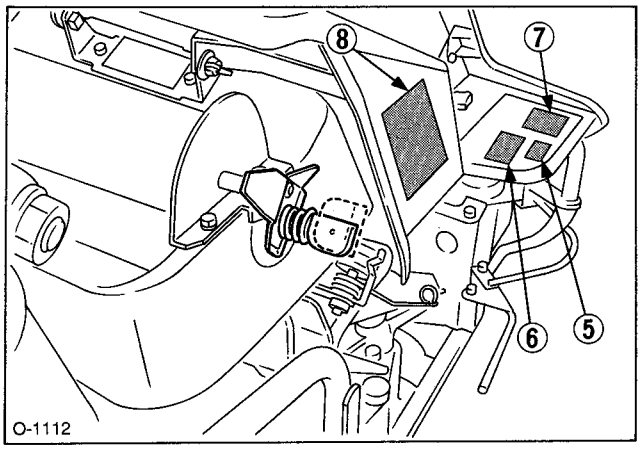
安全に作業するために、取扱説明書を読んで機械の使い方を覚えること。
◇作業前・作業中：注油・点検・調整・掃除のときは、服を巻込まれるおそれがあるのでエンジンを必ず止めること。また、引起部・搬送部・結束部・刈刃部などの、作動部分に絶対触れないこと。
◇機械の積降ろし：途中で、シャトルシフトレバー・走行クラッチレバー・操向クラッチレバーを操作すると機体が急降下し、落下の危険があるので絶対操作しないこと。また、エンジンを必ず低速にすること。
◇駐停車：機械を離れるときは、走行クラッチレバー「切」又は、シャトルシフトレバー「N(中立)」にし、エンジンを必ず止めること。坂道・傾斜地に絶対駐車しないこと。



⑤ 品番　50080-6411-2

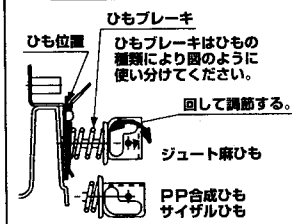
▲警告

運転中は手をはさまれる危険があるので結束機に絶対触れないこと。
作業中は本品を必ず取付けること。

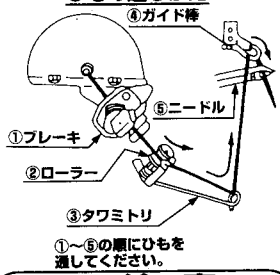


⑧ 品番　50030-2159-4

ひもブレーキのかけかた



ひもの通しかた



▲ 注　意

ひも通しは、結束機が作動したときニードル・放出アームで手をはさまれるおそれがあるのでエンジンを必ず止めること。
ホルダにひもを通すときは、結束機が作動するのでニードル・放出アームなど回転部分に絶対触れないこと。また、エンジンは必ず低速にすること。

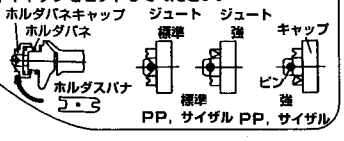
⑥ 品番　50080-6743-3

▲注意

バネキャップの切換えは、結束機が作動した時ニードルなどで、手をケガするおそれがあるのでエンジンを必ず止めること。

ホルダバネの合わせかた

ひもの種類（ジュート・PP・サイザル）によってホルダバネ圧を切換えてください。附属のホルダスパナをバネキャップ外側のボスにかけて、各ひもの標準位置にバネキャップをセットしてください。

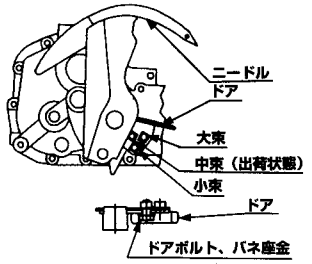


⑦ 品番　50030-6744-5

▲ 注　意

束調節は、結束機が作動するとニードル・放出アームでケガをするおそれがあるのでエンジンを必ず止めること。

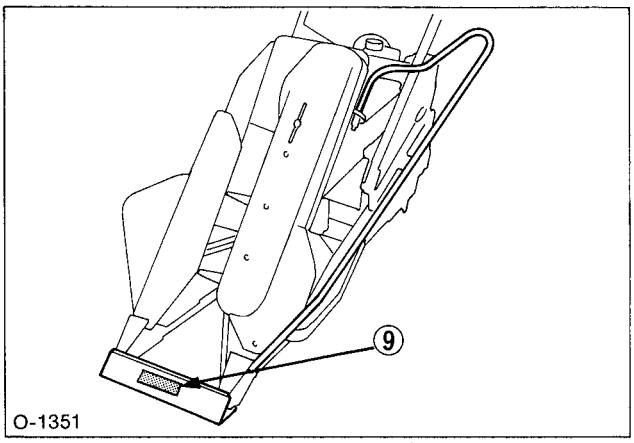
束の大きさの調節



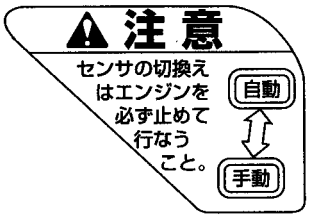
ドアの下側のドアボルトを外し、束の大きさに合わせてドアの穴位置を変更し、ドアボルトを確実に締付けてください。

⑨ 品番　59700-4332-2

⚠注意　デバイダ先端に当たるとケガをするおそれがあるので、移動するときは必ず本品を取り付けること。



⑩ 品番　50035-3815-3【D】

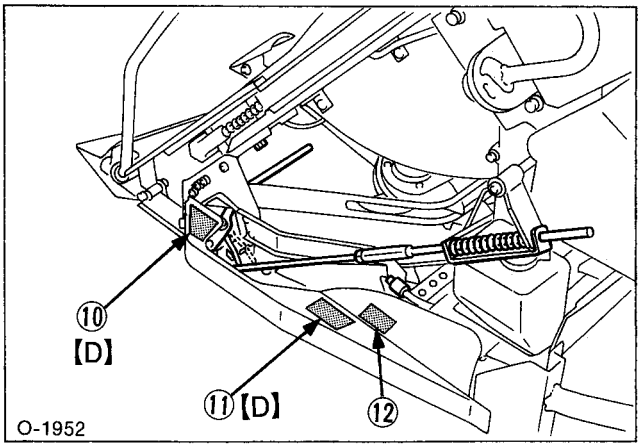


⑪ 品番　50080-3819-2【D】

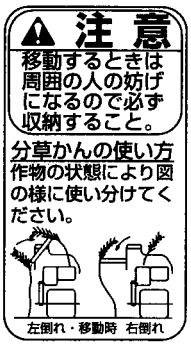
⚠注意　運転中は、引起し爪・刈刃などで、ケガをする危険があるので、センサに絶対触れないこと。

⑫ 品番　50080-5772-2

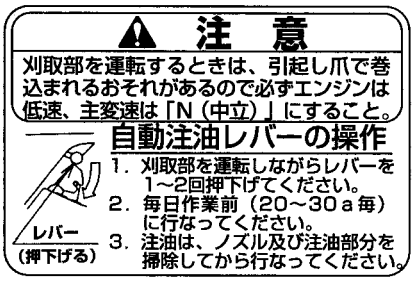
⚠注意　運転中は、刈刃・回転軸などでケガをする危険があるので手を絶対入れないこと。

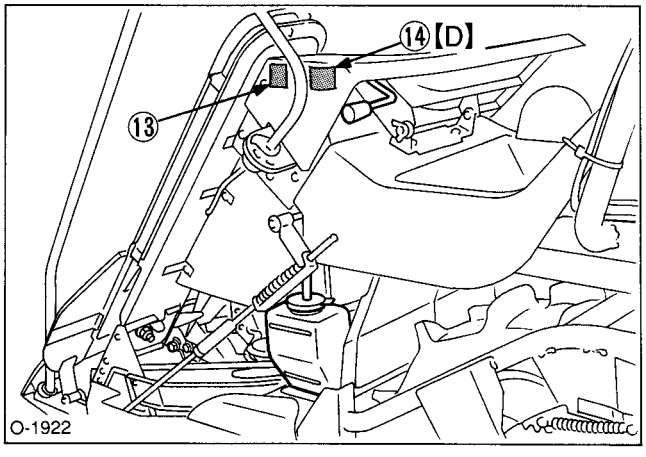


⑬ 品番　50030-5687-2



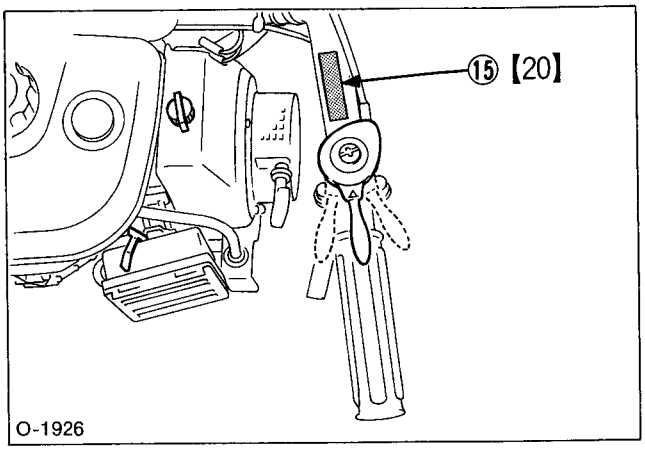
⑭ 品番　50035-3581-4【D】



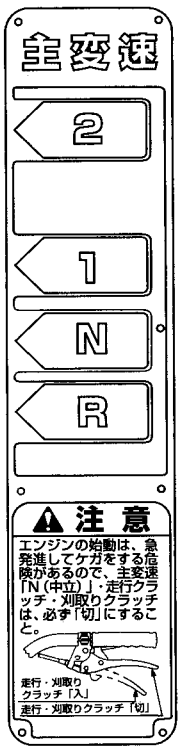


▲ 安全に作業するために

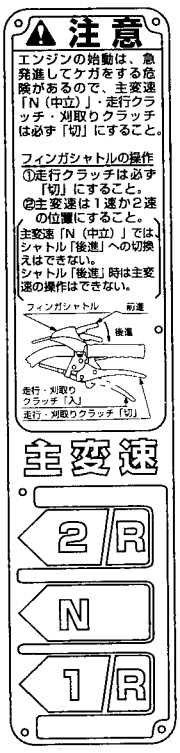
⑮ 品番　50080-2223-2



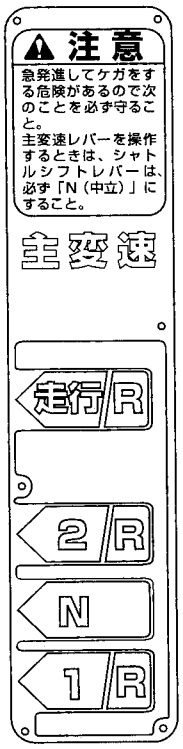
⑯ 品番
50030-3283-3
【20】

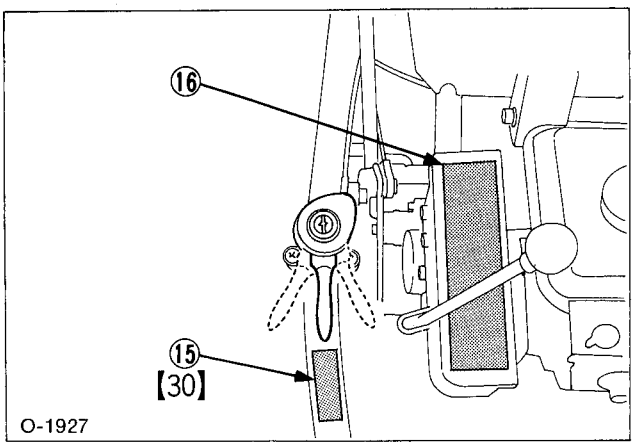


⑯ 品番
50035-3283-5
【20-D】



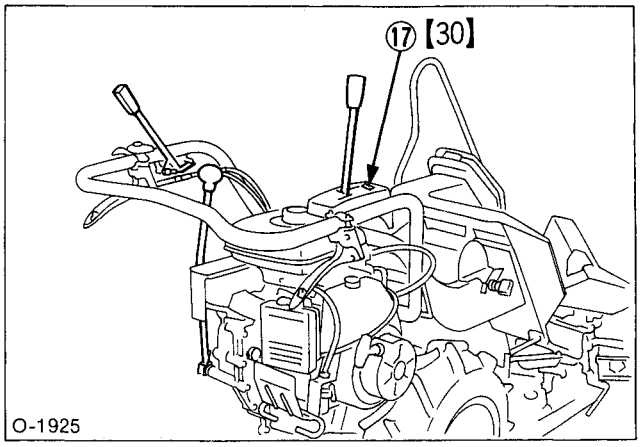
⑯ 品番
50040-3283-5
【30】





⑰ 品番　50080-3113-3【30】

⚠ 注意 エンジンの始動は急発進してケガをする危険があるのでシャトルシフトレバーは「N(中立)」にすること。



3．⚠表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
　もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布でふいてください。
　シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがありますので絶対に使わないでください。
(2)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
(3)ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。
(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全にふき取り，乾いた後，もとの位置に貼ってください。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

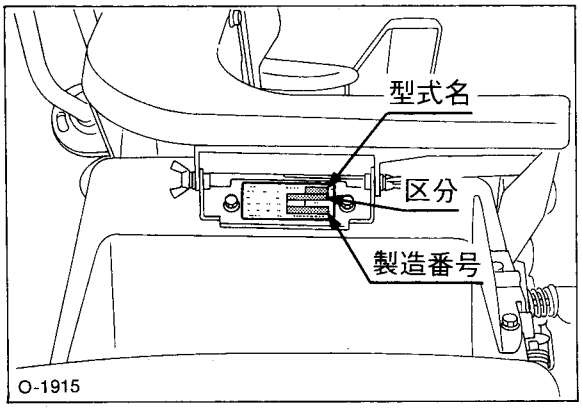
ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた販売店・ＪＡ農協・弊社支店又は㈱クボタアグリにそれぞれ**“ご相談窓口”**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際　(1) バインダー型式名・区分と製造番号
　　(2) エンジン名称とエンジン番号
をあわせてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，販売店・ＪＡ農協・弊社支店又は㈱クボタアグリに純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

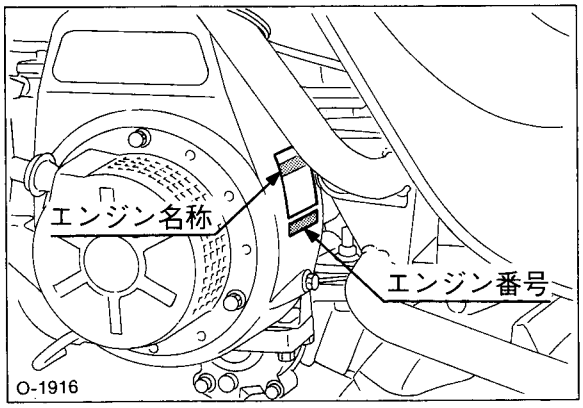
＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

◆安全鑑定番号

クボタRE20……19088
クボタRE30……19089



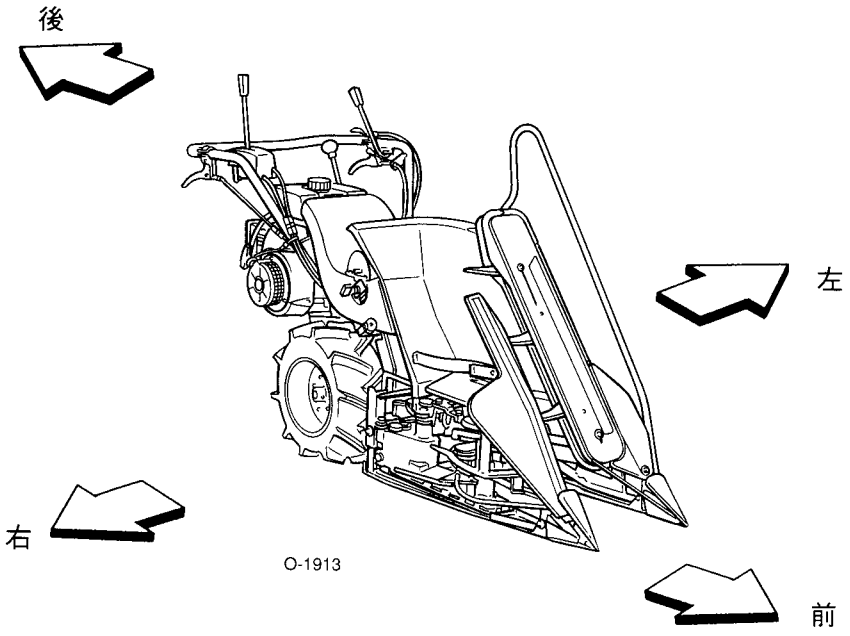
O-1915



O-1916

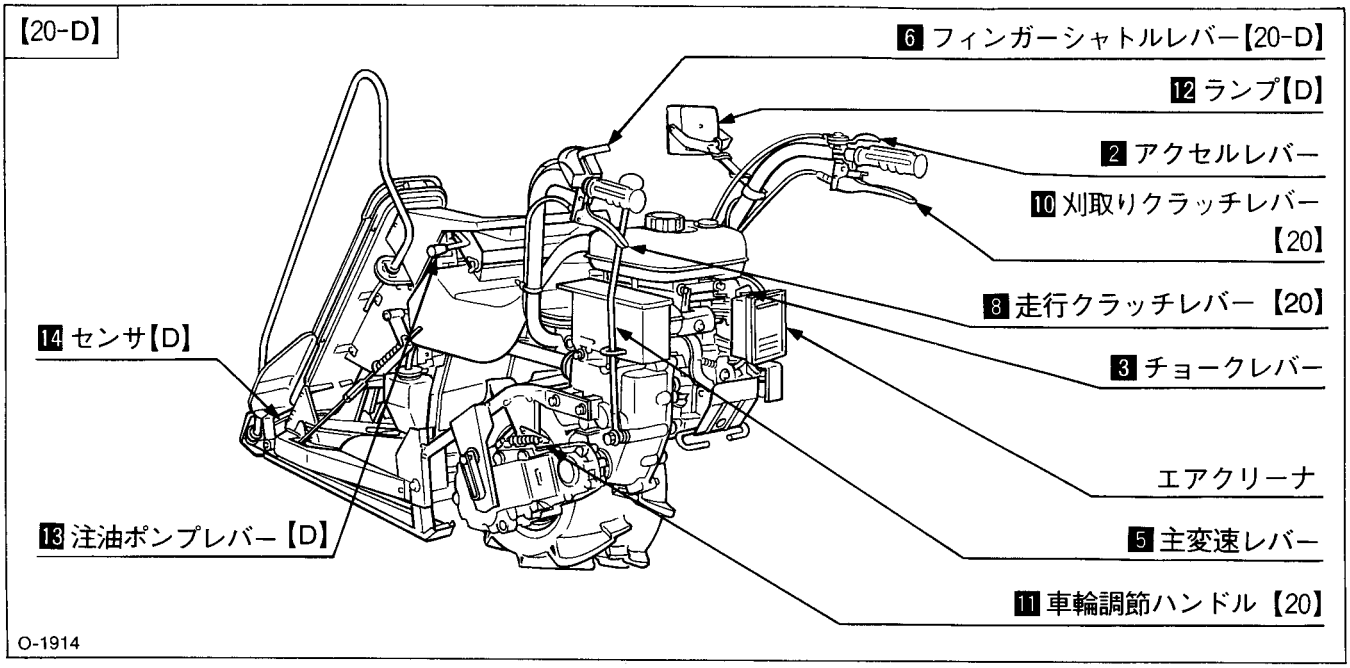
■機体方向説明

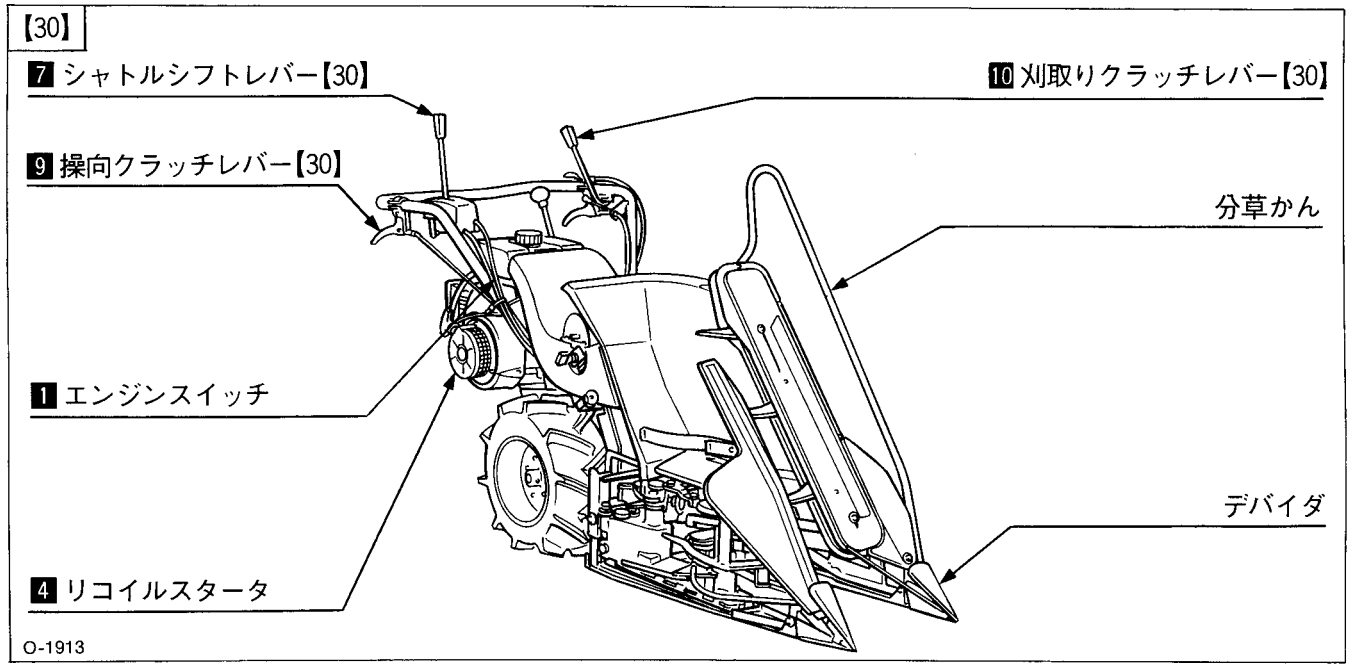
この取扱説明書で使用している**“前後，左右”**などの方向は、図示の通りに決めています。



O-1913

諸装置の説明





1 エンジンスイッチ …… 3, 5
2 アクセルレバー …… 3, 5
3 チョークレバー …… 3, 6
4 リコイルスタータ …… 3, 6
5 主変速レバー …… 3, 6
6 フィンガーシャトルレバー【20-D】 …… 4
7 シャトルシフトレバー【30】 …… 6
8 走行クラッチレバー【20】 …… 4
9 操向クラッチレバー【30】 …… 6
10 刈取りクラッチレバー …… 4, 7
11 車輪調節ハンドル【20】 …… 4
12 ランプ【D】 …… 4, 7
13 注油ポンプレバー【D】 …… 5, 7
14 センサ【D】 …… 5, 7

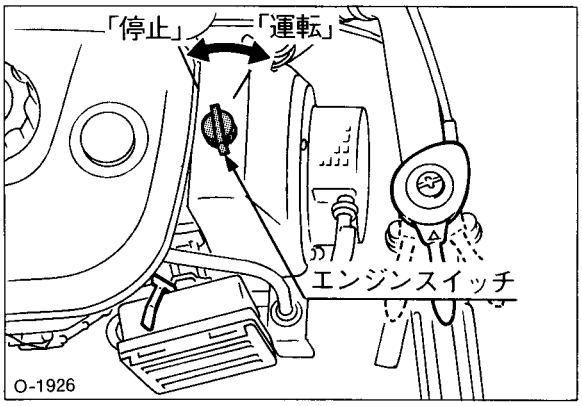
【20】,【20-D】のお客様へ

1エンジンスイッチ

エンジンの運転，停止を切換えるスイッチです。

“運転” ……エンジン始動のときの位置

“停止” ……エンジン停止のときの位置



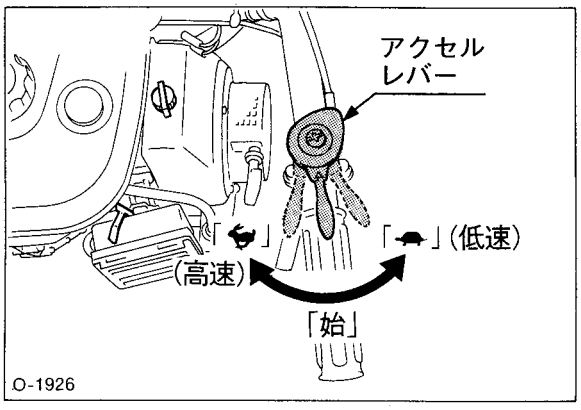
2アクセルレバー

エンジンの回転数を調節するレバーです。

“始” …… エンジン始動のときの位置

“🐢”（低速） ……倒伏作物の刈取り作業，後進，トラックへの積込み・積降しのときの位置

“🐇”（高速） ……通常の刈取り作業，ほ場間の移動のときの位置



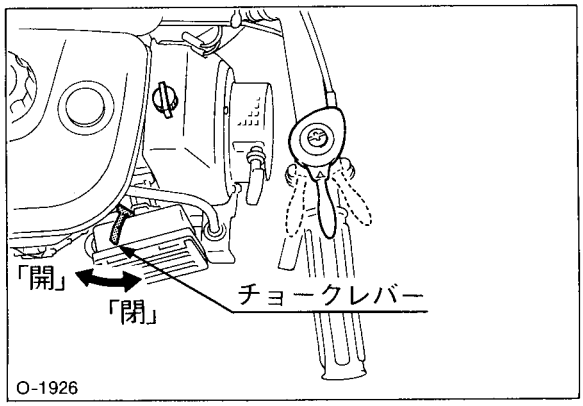
3チョークレバー

エンジンに入る空気の量を調節するレバーです。

エンジン始動のとき

“閉” ……エンジンが冷えているとき

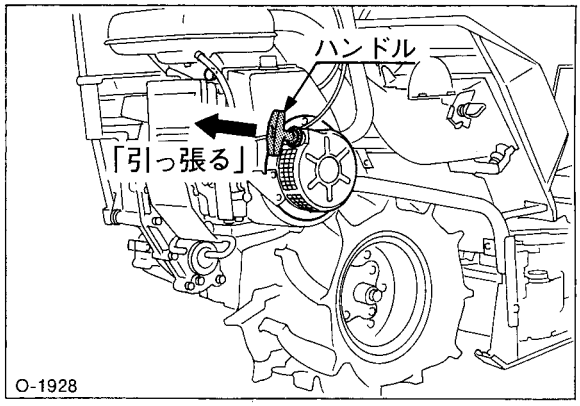
“開” ……エンジンが暖まっているとき



4リコイルスタータ

エンジンを始動するためのものです。

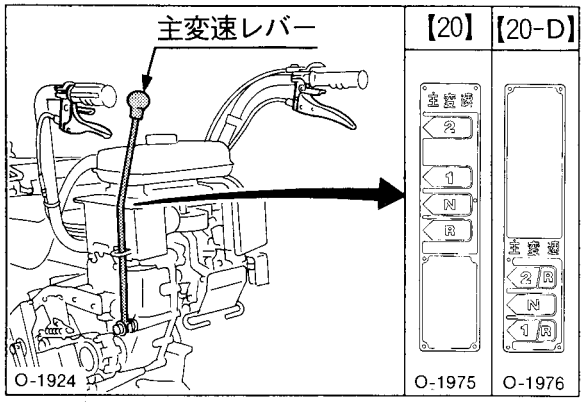
エンジン始動のとき，リコイルスタータのハンドルを引っ張ってください。



5主変速レバー

車速を選択するレバーです。

刈取り作物，ほ場条件により，**“1速”** 又は **“2速”** の車速を選択してください。

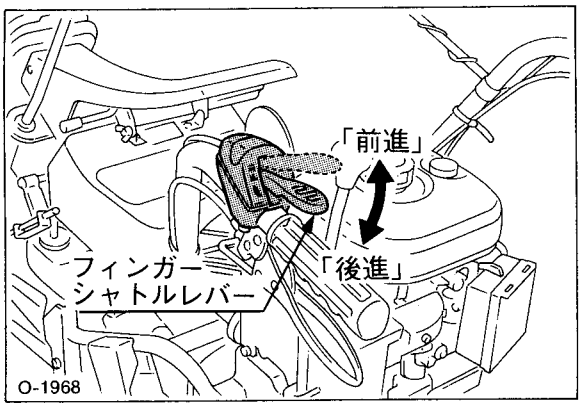


6フィンガーシャトルレバー【D】

“前進” **“後進”**を切換えるレバーです。

“前進”……レバー上

“後進”……レバー下

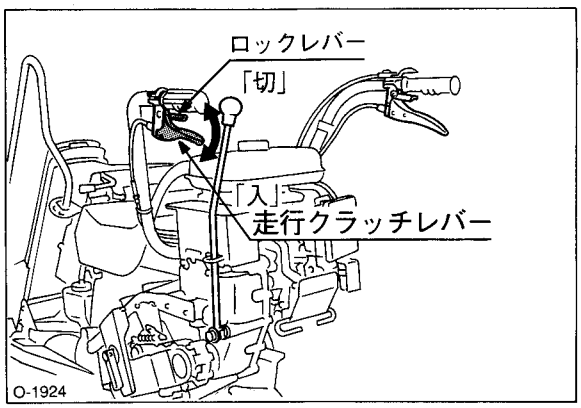


8走行クラッチレバー

走行部，刈取部への動力の伝達を**“入”** **“切”**するレバーです。

“切”……レバーを握る。

“入”……ロックレバーを下方に押してレバーを離す。

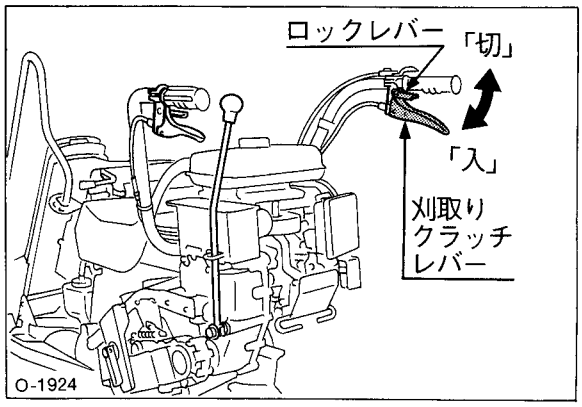


10刈取りクラッチレバー

刈取部への動力の伝達を**“入”** **“切”**するレバーです。

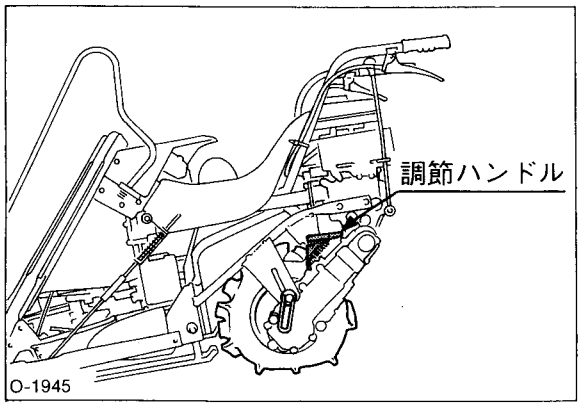
“切”……レバーを握る。

“入”……ロックレバーを下方に押してレバーを離す。



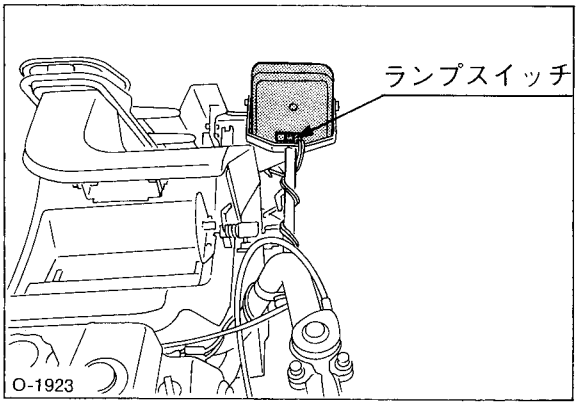
11車輪調節ハンドル

車輪の上下調節のときに，調節カムをフリーにするためのハンドルです。



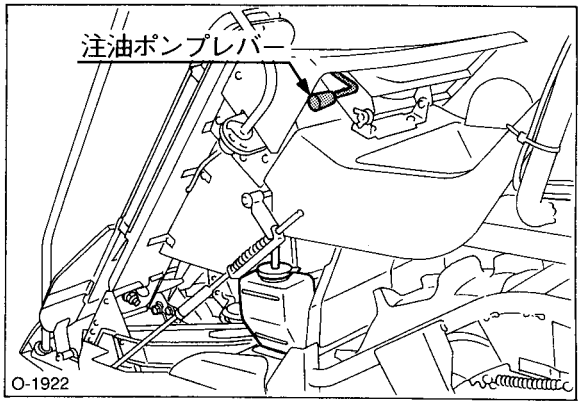
12ランプ【D】

早朝又は夜間に，機械前方を照らすものです。
夜間の刈取り作業，及びほ場間の移動のときに点灯してください。



13注油ポンプレバー【D】

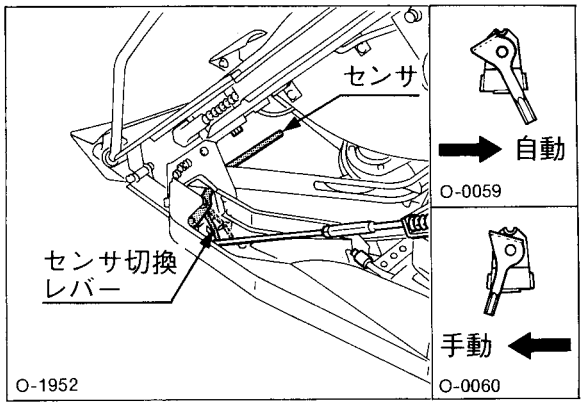
刈刃，引起しチェーンに適量のオイルを注油するレバーです。



14センサ【D】

センサ切換えレバー**“自動”**のとき，刈取部の作動，停止を感知するものです。

センサ切換えレバー**“自動”**で作物がセンサを押すと，自動的に刈取部が作動します。



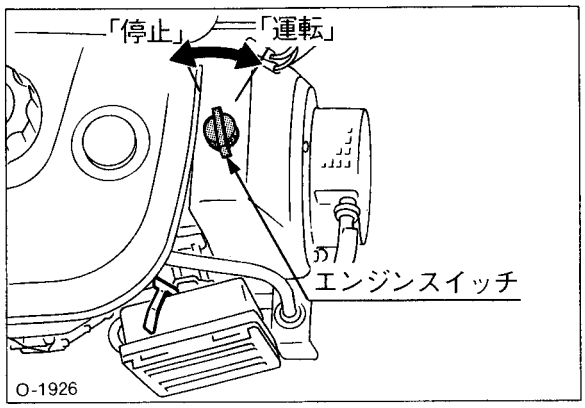
【30】,【30-D】のお客様へ

1エンジンスイッチ

エンジンの運転，停止を切換えるスイッチです。

“運転”……エンジン始動のときの位置

“停止”……エンジン停止のときの位置

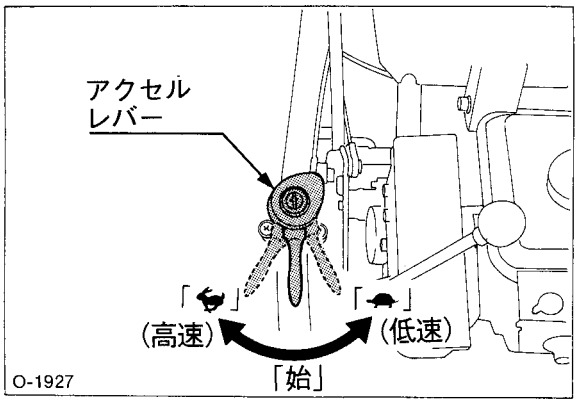


2アクセルレバー

“始”…… エンジン始動のときの位置

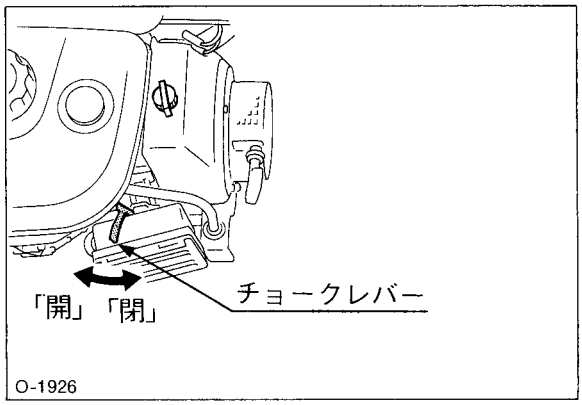
“🐢”（低速）……倒伏作物の刈取り作業，後進，トラックへの積込み・積降しのときの位置

“🐇”（高速）……通常の刈取り作業，ほ場間の移動のときの位置



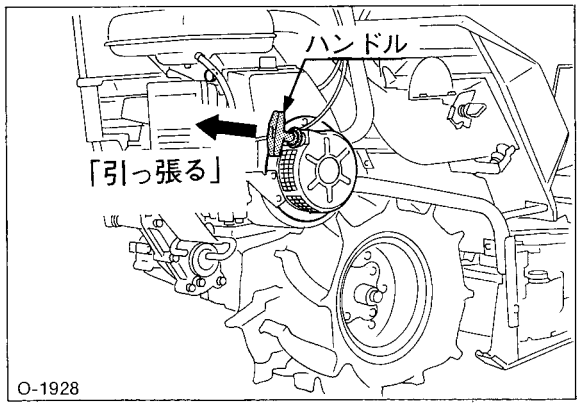
3 チョークレバー

エンジンに入る空気の量を調節するレバーです。
エンジン始動のとき
“閉” ……エンジンが冷えているとき
“開” ……エンジンが暖まっているとき



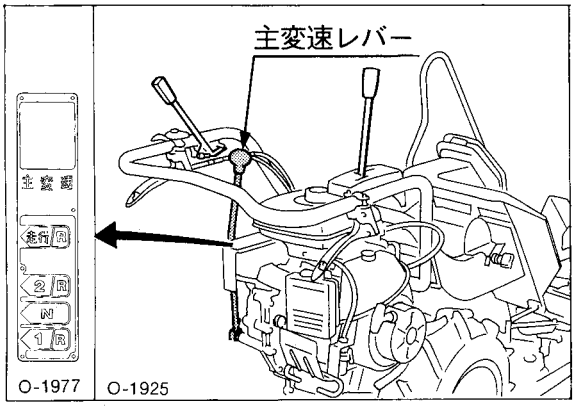
4 リコイルスタータ

エンジンを始動するためのものです。
エンジン始動のとき，リコイルスタータのハンドルを引っ張ってください。



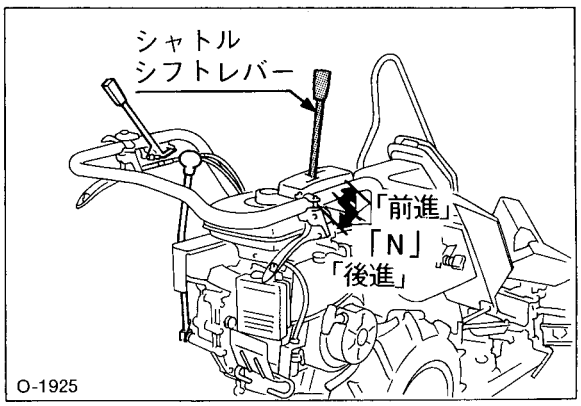
5 主変速レバー

車速を選択するレバーです。
刈取り作物，ほ場条件により，**“1速”** 又は **“2速”** の車速を選択してください。



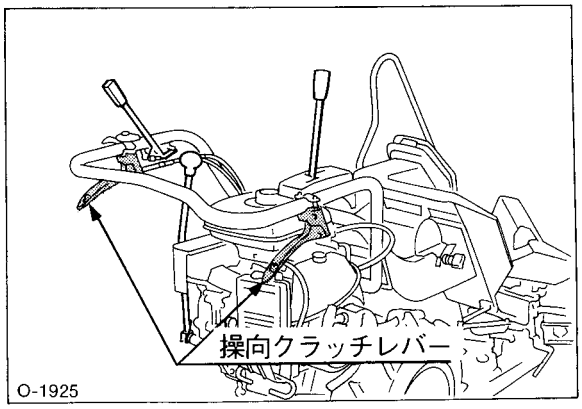
7 シャトルシフトレバー

走行部，刈取部への動力伝達の **“入”** **“切”** と **“前進”** **“後進”** の切換えをするレバーです。
“前進” ……レバーを前方に倒して，前進する位置。
“後進” ……レバーを後方に倒して，後進する位置。
“N” （中立） ……レバーを中央にして，動力伝達が切れる位置。



9 操向クラッチレバー

機械を左右方向に旋回するためのレバーです。
旋回したい方のレバーを握ると，その方向に旋回します。

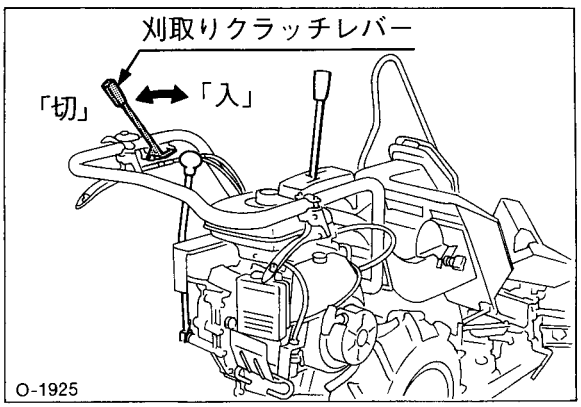


⑩刈取りクラッチレバー

刈取部への動力の伝達を**“入”** **“切”**するレバーです。

“切”……レバーを後方に戻す。

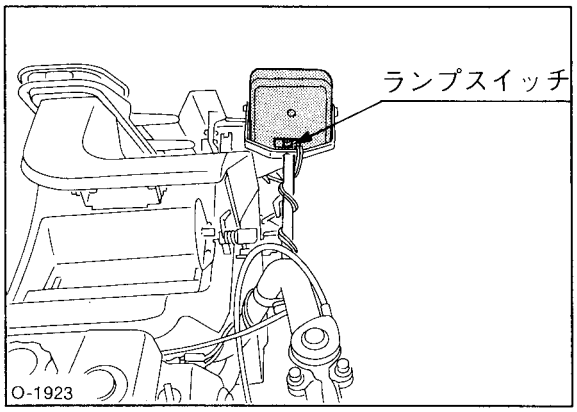
“入”……レバーを前方に倒す。



⑫ランプ【D】

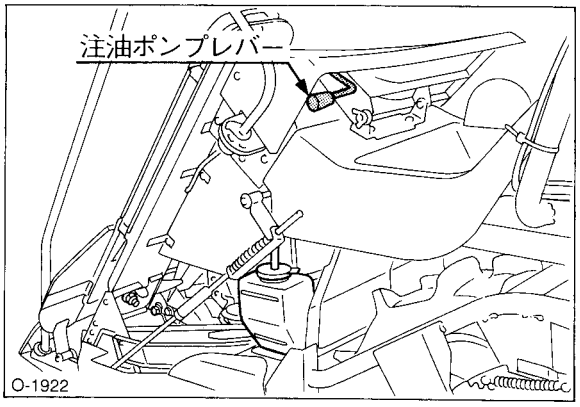
早朝又は夜間に，機械前方を照らすものです。

夜間の刈取り作業，及びほ場間の移動のときに点灯してください。



⑬注油ポンプレバー【D】

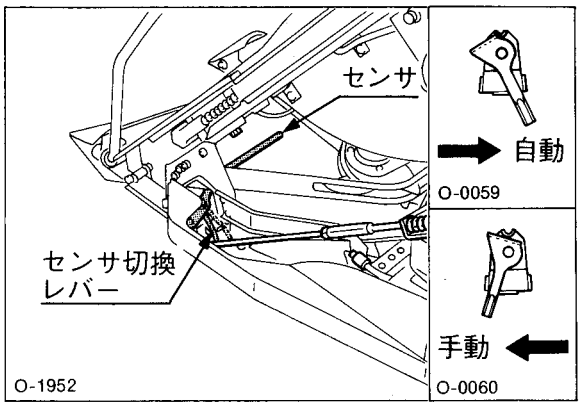
刈刃，引起しチェーンに適量のオイルを注油するレバーです。



⑭センサ【D】

センサ切換えレバー**“自動”**のとき，刈取部の作動，停止を感知するものです。

センサ切換えレバー**“自動”**で作物がセンサを押すと，自動的に刈取部が作動します。



運転前の点検

警　告

＊燃料補給のときは，火気厳禁してください。
＊点検調整のときは，機械を平たんで安全な場所に置き，必ずエンジンを止めて行なってください。
（注油ポンプレバー操作，ランプ点灯，結束ひもをホルダに保持させる時以外）
＊タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。

注　意

＊燃料補給後，燃料タンクのキャップはもれないようにしっかりと確実に締めてください。
＊燃料は，タンク規定量を補給してください。
＊燃料やオイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊マフラやエンジン周辺部にわらくず，ごみや燃料の付着などがあると，火災の原因となり危険です。始動前に必ず点検し，きれいに取除いてください。

重　要

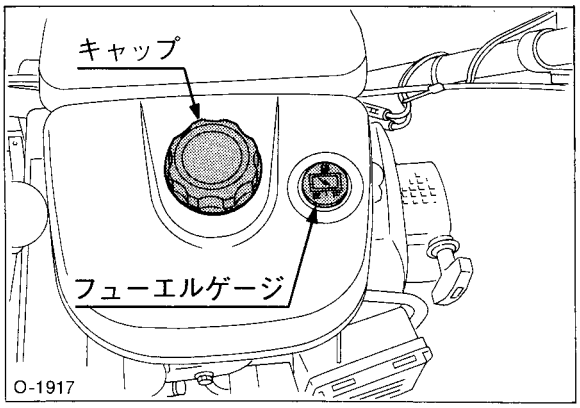
＊この機械は，**工場出荷のときミッションケースと注油装置（オイルタンク）【D仕様】にオイルは入っていません。**使用前には必ずオイルを規定量入れて使用してください。（36ページ参照）
なお，エンジンオイル，結束ケース，チェーンケースのオイルは入れておりますが，試運転の際は規定量入っているか確認をしてください。
また，オイルを入れない間は，バインダーを運転しないでください。
＊**【20】のゼロプレタイヤ，クローリングタイヤは，空気圧ゼロ**になっておりますので，そのまま使用してください。

故障を未然に防ぐためには、いつも機械の状態を知っておくことが大切です。
点検は，運転前欠かさず行なってください。

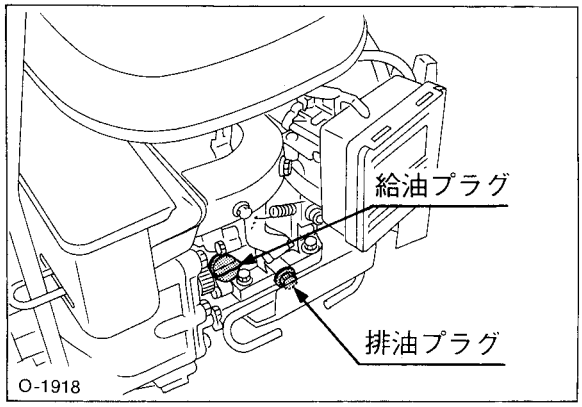
日常点検項目

〈ここを〉		〈こうする〉	詳細参照ページ
燃　料	＊作業に必要な燃料があるか。 ＊燃料がもれていないか。	＊自動車用レギュラガソリン(無鉛)を補給する。…1.8L ＊キャップをしっかりと締める。	9ページ
エンジンオイル	＊機体を水平にし，給油口いっぱいまであるか。	＊クボタ純オイルG30(ガソリン・灯油エンジン用)を給油口いっぱいまで補給する。…0.55L	41ページ
ひもの通し方	＊ひもの通し方は正しいか，ひもブレーキ，ホルダのバネ圧の調節はひもに合わせてあるか。	＊正しいひもの通し方およびひもに合ったひもブレーキ圧，ホルダバネ圧にする。	24ページ
自動注油【D仕様】	＊オイルタンクの規定線の下限(LOW)と上限(FULL)の間に油量があるか。	＊クボタ純オイルG30(ガソリン・灯油エンジン用)を上限(FULL)まで補給する。 ＊注油ポンプレバーを1～2回操作する。	56,61ページ
ランプ【D仕様】	＊ランプがスイッチ“ON”で点灯するか。	＊球切れ，配線の外れを調べ，処置する。 ＊その他の場合は販売店又はJA農協へ相談してください。	10ページ
引起しチェーンの張り調整	＊チェーンがゆるんでいないか。	＊内側に押して10～18㎜にたわむようにする。	46ページ
ベベルブラケット	＊ベベルブラケットのグリースはじゅうぶんか。	＊モリブデングリースを，グリースポット一杯に補給する。	11ページ
ビル押え支点 ベベルピニオン ホルダシャフト ビルローラ	＊結節部の注油はじゅうぶんか。	＊クボタ純オイルG30又はM90を左記箇所に注油する。	11ページ
タイヤ	＊空気圧が過不足していないか。	＊標準空気圧に調整する。	24ページ

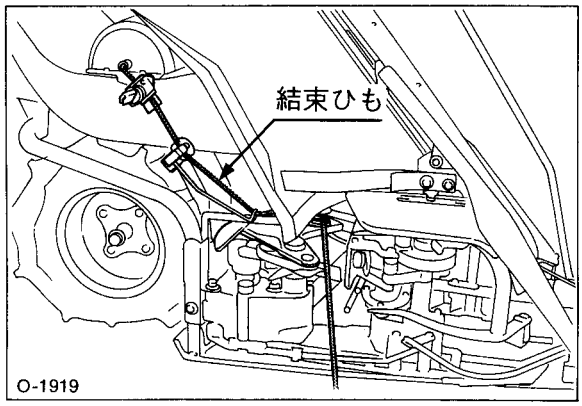
◆燃料の点検



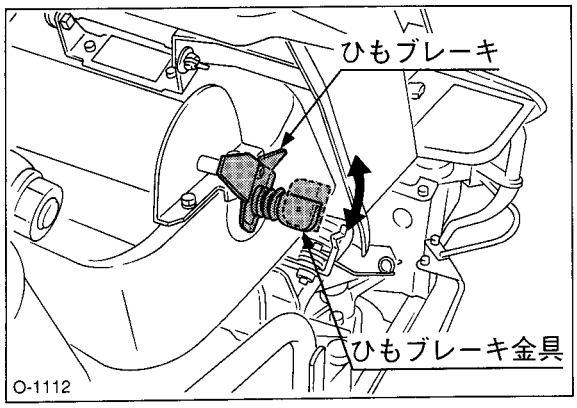
◆エンジンオイルの点検



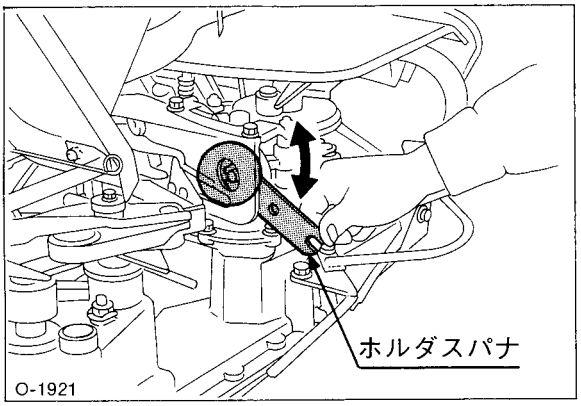
◆ひもの通し方



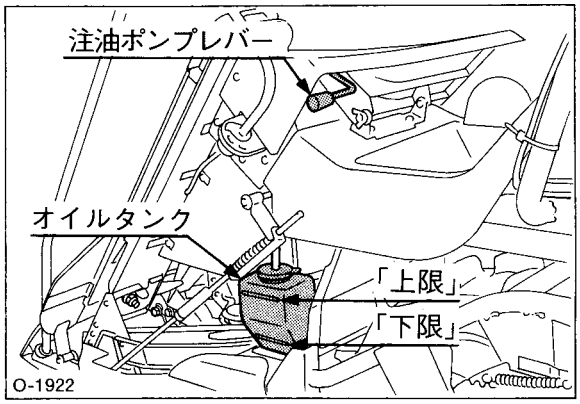
◆ひもブレーキ圧の切換え



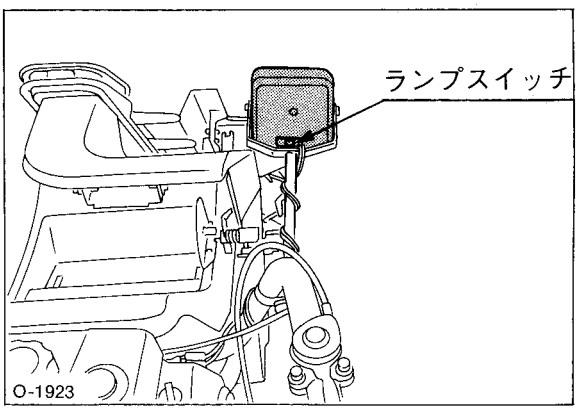
◆ホルダバネ圧の切換え



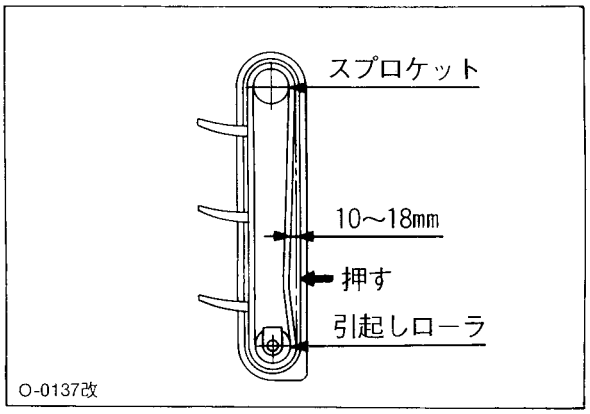
◆自動注油の点検【D仕様】



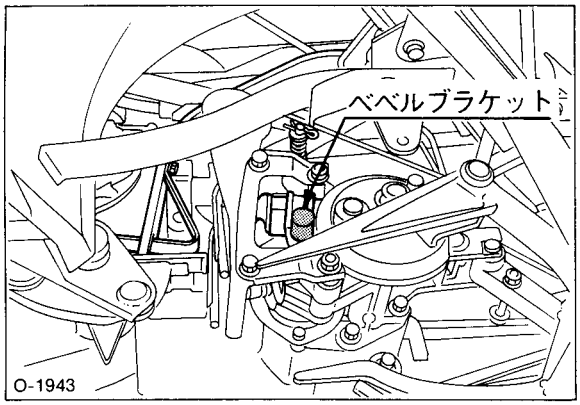
◆ランプの点検【D仕様】

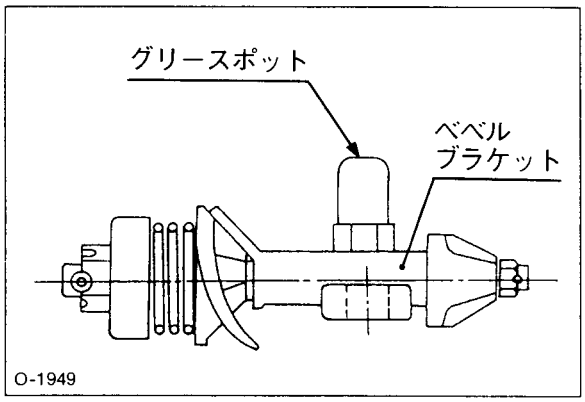


◆引起しチェーンの張り調整

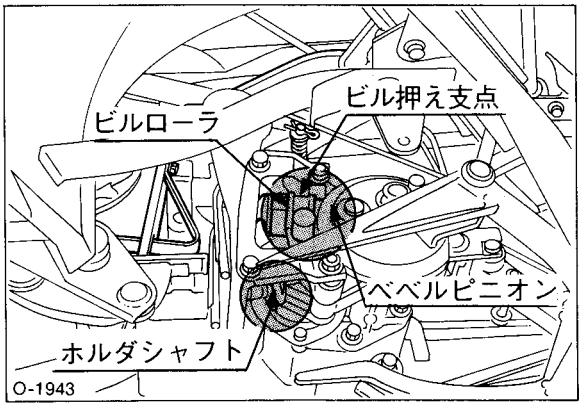


◆ベベルブラケット





◆ビル押え支点
◆ベベルピニオン（2箇所）
◆ビルローラ
◆ホルダシャフト



エンジンの始動と停止

注 意

＊この取扱説明書前編の黄色のページの“安全に作業するために”の内容を必ずお読みください。
＊バインダーに貼ってある警告ラベルの内容を必ずお読みください。
＊エンジン排気ガスによるガス中毒をさけるため，換気の不じゅうぶんな納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。
＊周囲の人に始動の合図をして，始動操作は，運転位置で行なってください。
＊リコイルスタータを引っ張る前に，手が人や物にあたらないか周囲をよく確かめてください。
＊各クラッチレバーを“切”，主変速レバーを“N”（中立）にして，始動してください。

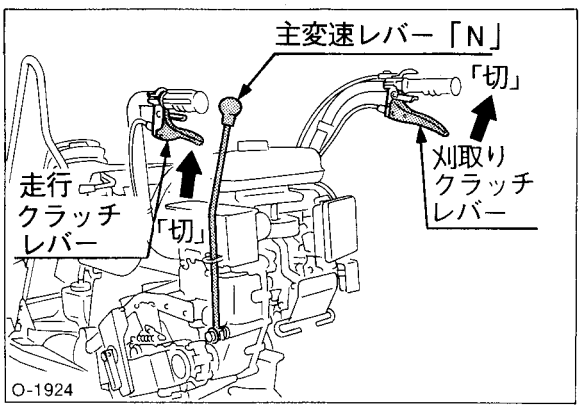
【20】のお客様へ

■エンジンの始動

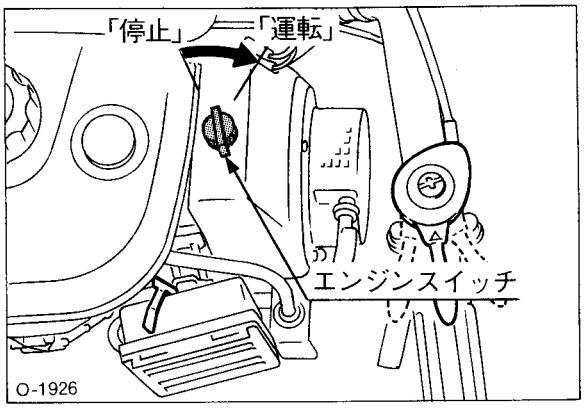
注 意

＊エンジンの始動は機械を平たんで安全な場所におき，始動前に走行クラッチレバーを“切”，刈取りクラッチレバーを“切”，主変速レバーを“N”（中立）にしていることを確かめてください。

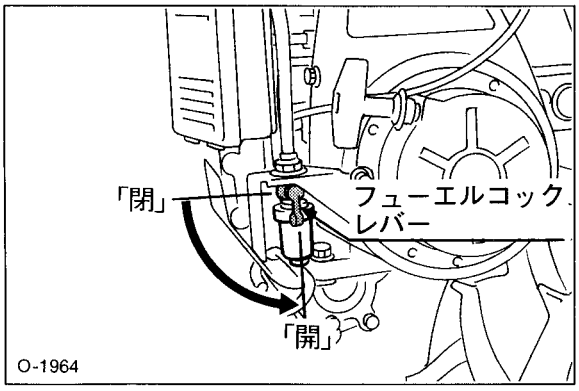
❶主変速レバーを“N”（中立），走行クラッチレバーを“切”，刈取りクラッチレバーを“切”にします。



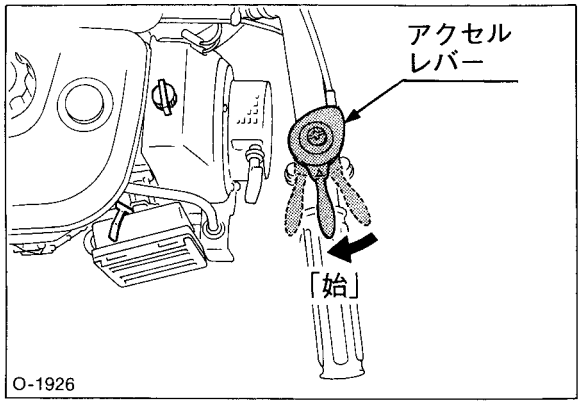
❷エンジンスイッチを“運転”にします。



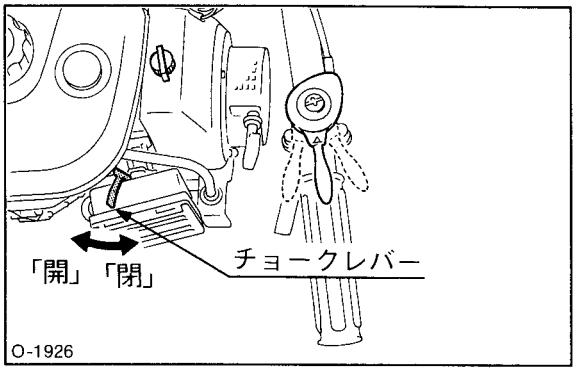
❸フューエルコックレバーを“開”にします。



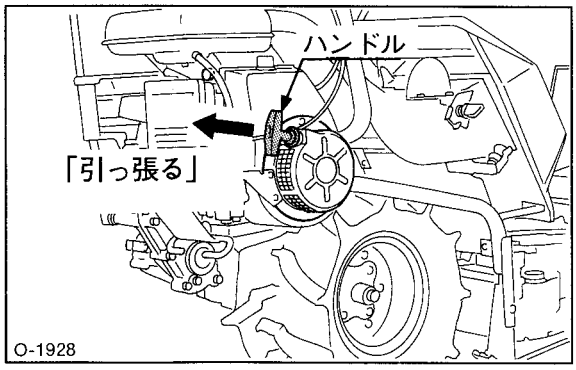
❹アクセルレバーを“始”の位置にします。



❺チョークレバーを“閉”にします。(エンジンが暖まっているときは“開”にします。)



❻リコイルスタータのハンドルを引っ張ってエンジンを始動します。



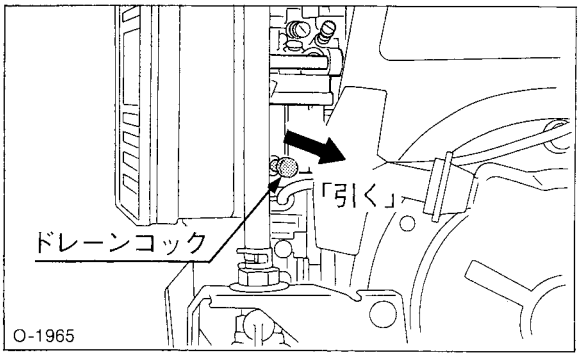
❼エンジンが始動したらエンジンの回転調子をみながらチョークレバーを徐々に“開”にします。

❽アクセルレバーの位置はそのままで3～5分間運転してから，作業を始めてください。

重　要

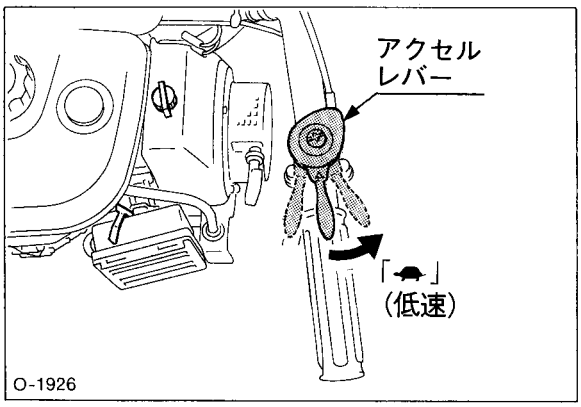
＊寒いときの始動は，すぐにチョークレバーを“開”にするとエンジンが止まりますから，ゆっくりと戻してください。

＊長期間使用せずに置くと，気化器内のガソリンが気化して始動が困難になることがあります。このような場合はフューエルコックレバーを“閉”にして，気化器下部のドレーンコックを引いて，気化器内の古いガソリンを排出し，再びフューエルコックレバーを“開”にして，気化器内に新しいガソリンを入れてください。

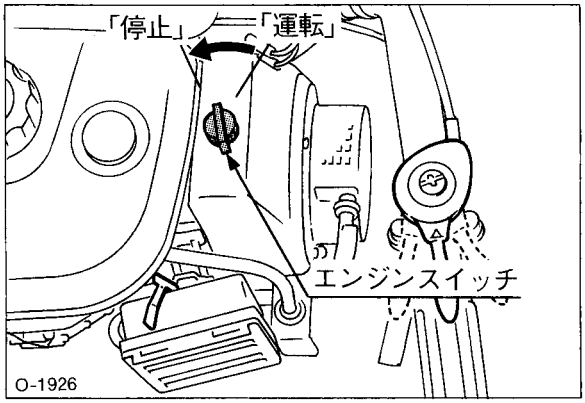


■エンジンの停止

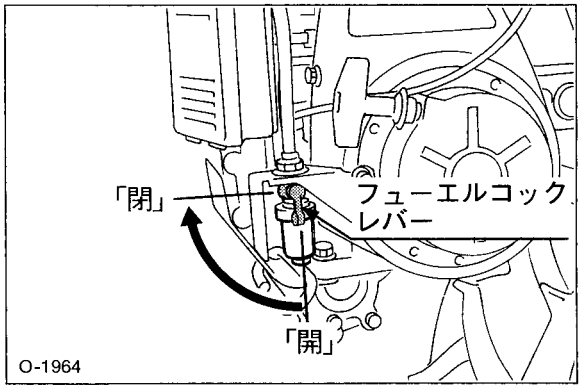
❶アクセルレバーを“🐢”(低速)の位置にします。



❷エンジンスイッチを“停止”にすると，エンジンが停止します。



❸フューエルコックレバーを“閉”にします。



❹リコイルスタータのハンドルをゆっくり引いて重たくなるところ(圧縮位置)で止めてください。

重　要

＊エンジンを停止したあとは、必ずフューエルコックレバーを“閉”，リコイルスタータのハンドルを引っ張って圧縮位置で停止しているか確めてください。

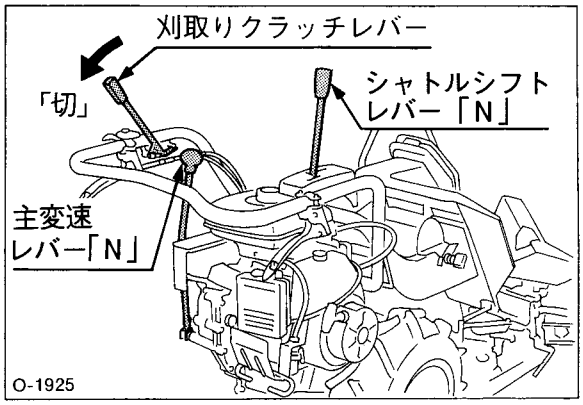
【30】のお客様へ

■エンジンの始動

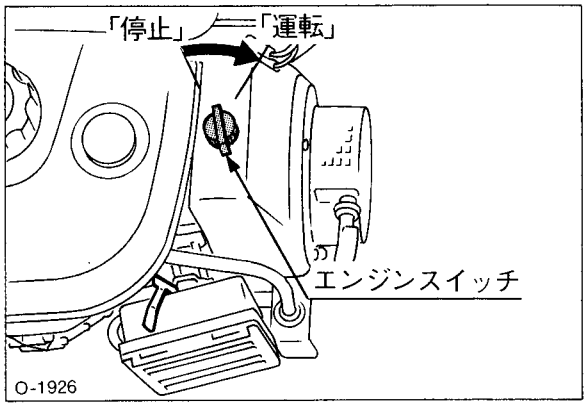
注 意

＊エンジンの始動は機械を平たんで安全な場所におき，始動前にシャトルシフトレバーを“N”(中立)，刈取りクラッチレバーを“切”，主変速レバーを“N”(中立)にしていることを確かめてください。

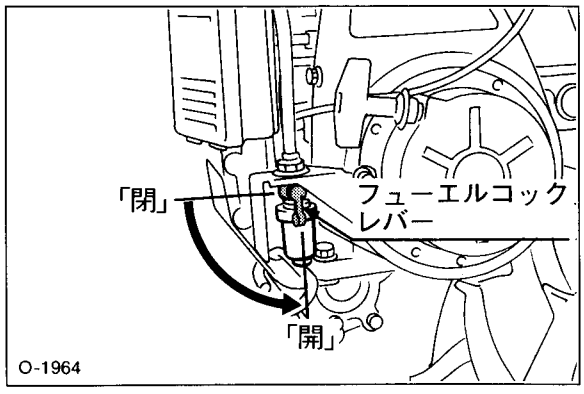
❶主変速レバーを**“N”**(中立)，シャトルシフトレバーを**“N”**(中立)，刈取りクラッチレバーを**“切”**にします。



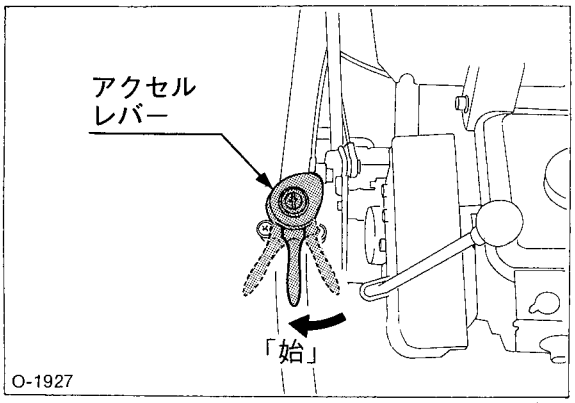
❷エンジンスイッチを**“運転”**にします。



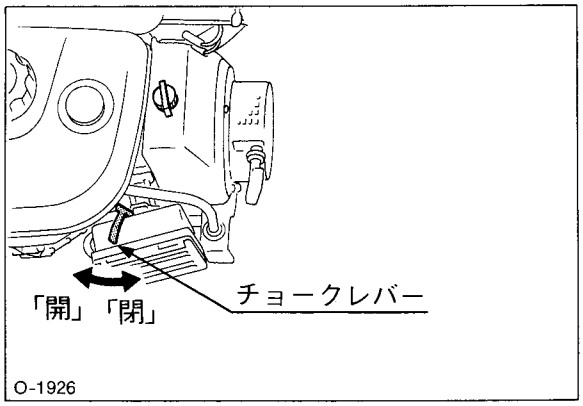
❸フューエルコックレバーを**“開”**にします。



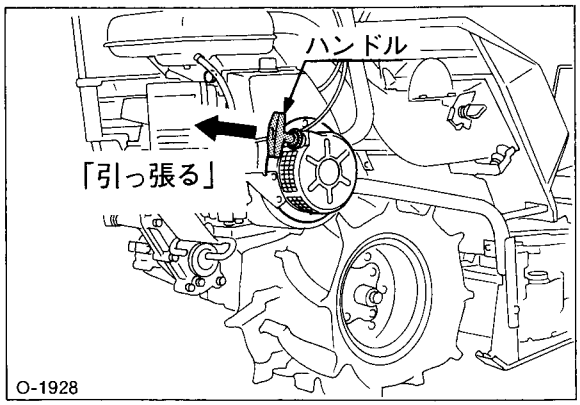
❹アクセルレバーを**“始”**の位置にします。



❺チョークレバーを**“閉”**にします。(エンジンが暖まっているときは**“開”**にします。)



❻リコイルスタータのハンドルを引っ張ってエンジンを始動します。



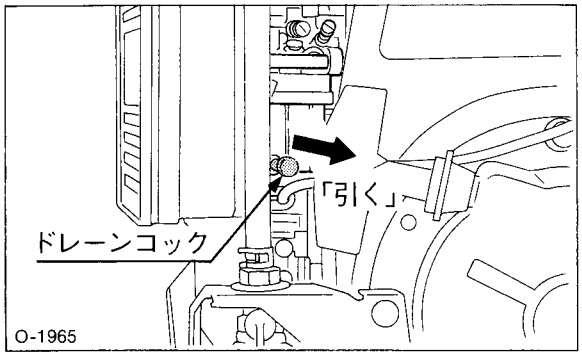
❼エンジンが始動したらエンジンの回転調子をみながらチョークレバーを徐々に**“開”**にします。

❽アクセルレバーの位置はそのままで３～５分間運転してから，作業を始めてください。

重　要

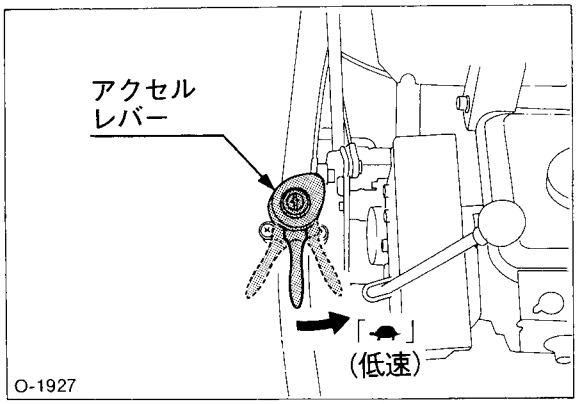
＊寒いときの始動は，すぐにチョークレバーを“開”にするとエンジンが止まりますから，ゆっくりと戻してください。

＊長期間使用せずに置くと，気化器内のガソリンが気化して始動が困難になることがあります。このような場合はフューエルコックレバーを“閉”にして，気化器下部のドレーンコックを引いて，気化器内の古いガソリンを排出し，再びフューエルコックレバーを“開”にして，気化器内に新しいガソリンを入れてください。

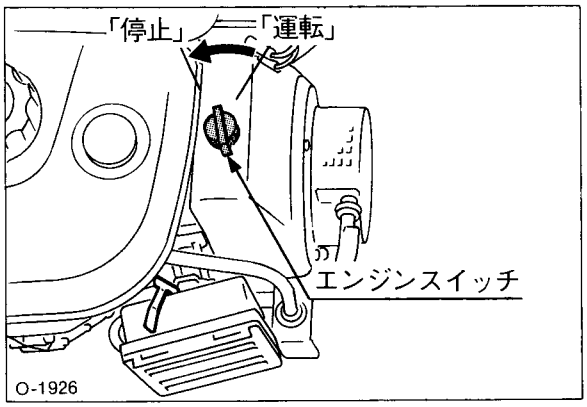


■エンジンの停止

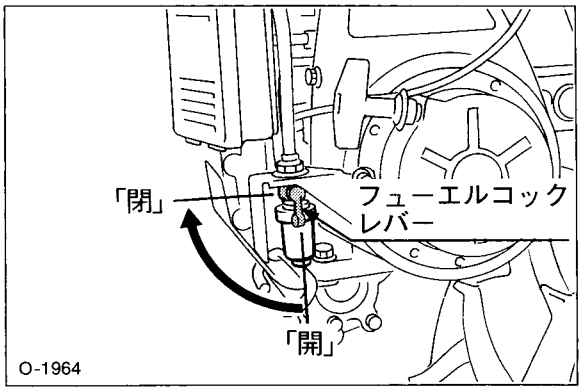
❶アクセルレバーを“🐢”(低速)の位置にします。



❷エンジンスイッチを**“停止”**にすると，エンジンが停止します。



❸燃料コックレバーを**“閉”**にします。



❹リコイルスタータのハンドルをゆっくり引いて重たくなるところ(圧縮位置)で止めてください。

重　要

＊エンジンを停止したあとは，必ずフューエルコックレバーを“閉”，リコイルスタータのハンドルを引っ張って圧縮位置で停止しているか確かめてください。

バインダーの運転

【20】のお客様へ

警 告

＊坂道や傾斜地などを降りるときはエンジン回転を“🐢”(低速)にし，主変速レバーを“R”，走行クラッチレバーを“入”にして後方，足元を確認して降りてください。

注 意

＊ほ場間を移動するときは，必ずデバイダカバーを取付け，分草かんを上方に収納し，周囲の人の妨げにならないように移動してください。
＊刈取りをしないで移動するときは，必ず刈取りクラッチレバーを“切”にしてください。

■新車のときの扱い方

新車のときの上手な運転操作やメンテナンスがバインダーの寿命に影響を及ぼします。新車のバインダーは厳重な検査のもとに出荷されていますが，バインダーの各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中はバインダー各部の部品がなじむまでは移動速度は**“1速”**で，過負荷となる刈取り作業は避けましょう。
バインダーの性能を最大に発揮し，長期にわたる耐久力を維持させるために，適正なならし運転が重要です。
新車のときの取扱いは次の項目を遵守してください。

◆初期２０アールのならし運転

＊急発進や急停車操作はしないでください。
＊寒い日や冬期，エンジンはじゅうぶん暖気運転をしてください。
＊エンジンは規定刈取り作業回転数以上にセットしないでください。
＊高速での刈取り作業は避けてください。
＊整地されていないところでは**“1速”**で移動してください。

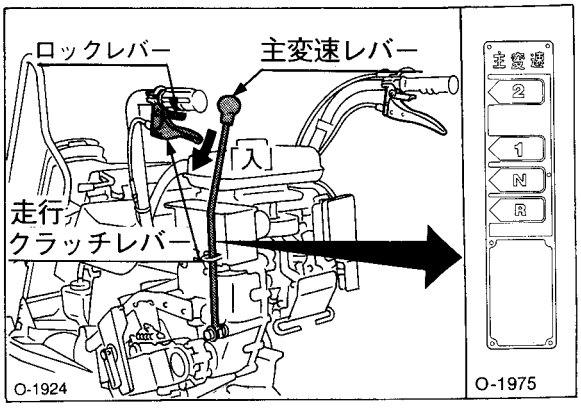
以上は，ならし運転以降も必要な事項ですが，新車のときは特に注意してください。

◆油脂・フィルタ類の交換とチェーンの張り調整

＊新車のときはバインダーの回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんのでならし運転期間中に細かい金属粉が生じ，部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって，油脂類は初期１００アールで交換してください。
＊チェーン類はならし運転中に初期伸びが発生します。初期２０アールで張り調整をしてください。

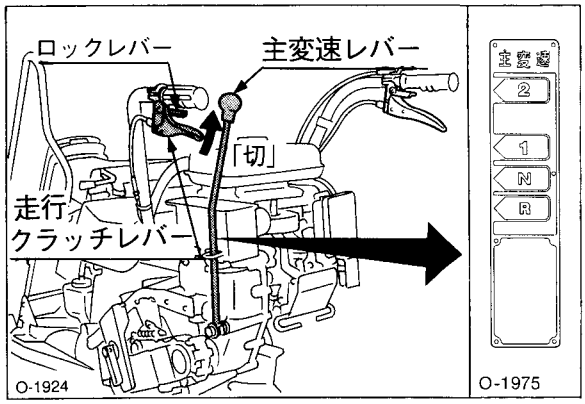
■発進

❶エンジンを始動します。
❷アクセルレバーでエンジン回転を**“中速”**にします。
❸主変速レバーを希望の位置に入れます。
❹走行クラッチレバーのロックレバーを下方に押し，**“入”**にすると，発進します。



■停車

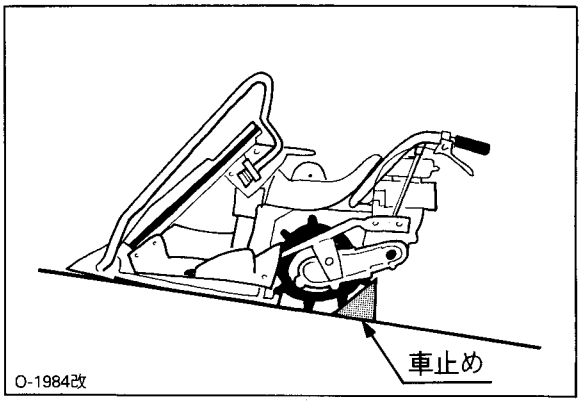
❶走行クラッチレバーを握って“切”にしてください。ロックレバーで走行クラッチレバーはロックされ，機体は停止します。



❷主変速レバーを“N”(中立)にしてください。

注 意

＊機械は平たんで安全な場所に停車してください。
＊やむをえず坂道，傾斜地に停車する場合は機械が動かないようにエンジンを止めて，主変速レバーを“１速”，走行クラッチレバーを“入”にし，必ず“車止め”をしてください。



■ほ場間の移動

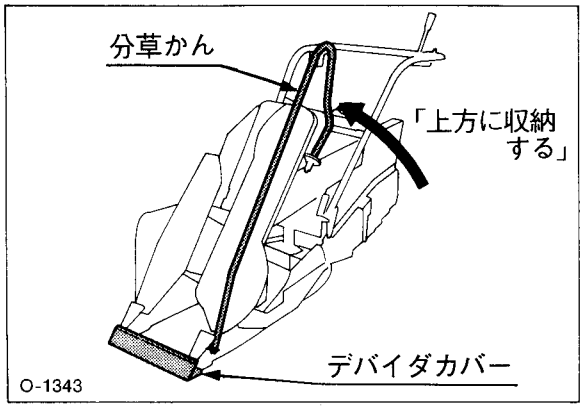
警 告

＊坂道や傾斜地などを降りるときは，エンジン回転を“🐢”(低速)にし，主変速レバーを“R”，走行クラッチレバーを“入”にして後方，足元を確認して降りてください。

注 意

＊ほ場間を移動するときは，必ずデバイダカバーを取付け，分草かんは収納して周囲の人の妨げにならないように移動してください。
＊刈取りをしない移動だけのときは，必ず刈取りクラッチレバーを“切”にしてください。

❶刈取りクラッチレバーを“切”にしてください。
❷デバイダカバーを必ず取付けてください。
❸分草かんを上方に引っ張り，上向きに収納してください。



■トラックへの積込み・積降し

警 告

＊“あゆみ板”の途中で走行クラッチレバーを“切”にすると，機械が急降下するので絶対に操作しないでください。

注 意

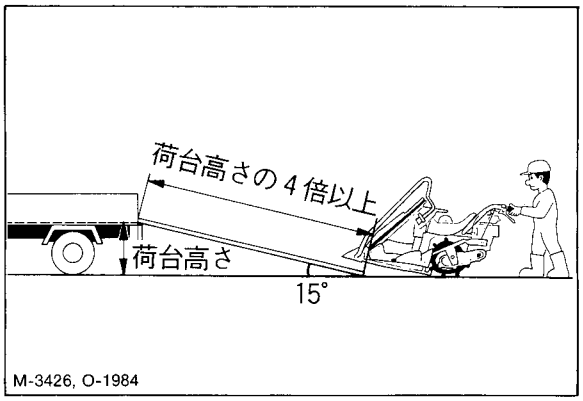
＊積込み・積降しは平たんで安定した場所で，ゆっくりと慎重に行なってください。

＊“あゆみ板”はすべり止めのついたバインダーの機体質量に耐えるものを１個使用してください。

あゆみ板の条件

長　　さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	30cm以上
強　　度	１枚が150kgf以上の機体質量に耐えるもの

＊あゆみ板のフックは車の荷台に段差がなく，ずれないように確実に掛けてください。



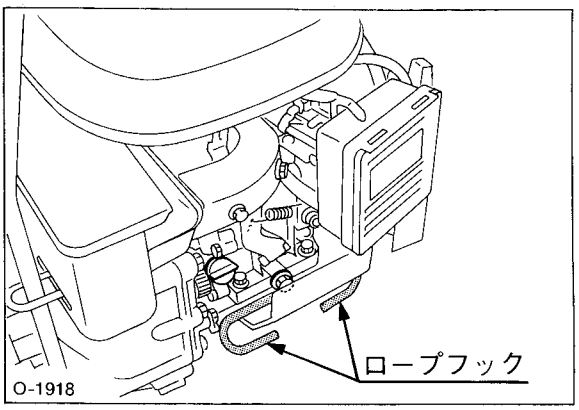
M-3426, O-1984

＊ロープは必ず，ロープフックにかけ，機械をトラックに確実に固定してください。

❶積込みは，主変速レバー“１速”で，エンジン回転をできるだけ“🐢”(低速)にして行なってください。
積降しは，主変速レバー“R”で行なってください。

❷積込んだら，エンジンを止めたあと，フューエルコックレバーを“閉”にし，主変速レバーを“１速”，走行クラッチレバーを“入”にしてください。

❸ロープは必ずロープフックにかけ，機体を確実に固定してください。



O-1918

重 要

＊分草かんやフレームのパイプなどには絶対にロープをかけないでください。

＊あゆみ板とトラックの継目を越えるときは，急に機械の重心位置が変わりますので，じゅうぶん注意してください。

【30】のお客様へ

警 告

＊坂道や傾斜地などを降りるときはエンジン回転を“🐢”(低速)にし，主変速レバーを“１速”，シャトルシフトレバーを“後進”にし，後方，足元を確認して降りてください。

注 意

＊ほ場間を移動するときは，必ずデバイダカバーを取付け，分草かんを上方に収納し，周囲の人の妨げにならないように移動してください。

＊刈取りをしないで移動するときは，必ず刈取りクラッチレバーを“切”にしてください。

■新車のときの扱い方

新車のときの上手な運転操作やメンテナンスがバインダーの寿命に影響を及ぼします。新車のバインダーは厳重な検査のもとに出荷されていますがバインダーの各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中はバインダー各部の部品がなじむまでは移動速度は**“1速”**で，過負荷となる刈取り作業は避けましょう。

バインダーの性能を最大に発揮し，長期にわたる耐久力を維持させるために，適正なならし運転が重要です。

新車のときの取扱いは次の項目を遵守してください。

◆初期２０アールのならし運転

＊急発進や急停車操作はしないでください。

＊寒い日や冬期，エンジンはじゅうぶん暖気運転をしてください。

＊エンジンは規定刈取り作業回転数以上にセットしないでください。

＊高速での刈取り作業は避けてください。

＊整地されていないところでは**“1速”**で移動してください。

以上は，ならし運転以降も必要な事項ですが，新車のときは特に注意してください。

◆油脂・フィルタ類の交換とチェーンの張り調整

＊新車のときはバインダーの回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんのでならし運転期間中に細かい金属粉が生じ，部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よって，油脂類は初期１００アールで交換してください。

＊チェーン類はならし運転中に初期伸びが発生します。初期２０アールで張り調整をしてください。

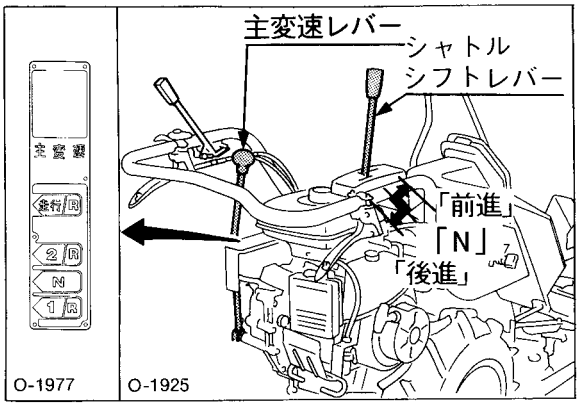
■発進

❶エンジンを始動します。

❷アクセルレバーでエンジン回転を**“中速”**にします。

❸主変速レバーを希望の位置に入れます。

❹シャトルシフトレバーを**“前進”**または**“後進”**にすると発進します。



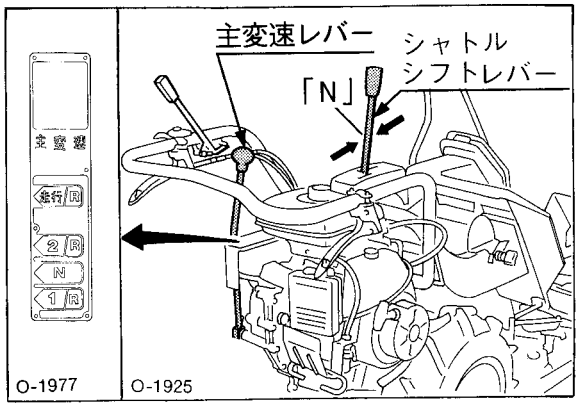
重 要

＊安全のために主変速レバーが“N”(中立)の場合は、シャトルシフトレバーを“後進”に入れてもバックしないようにけん制しています。

＊安全のために機体が後進している場合は、主変速レバーは“N”(中立)に操作しないでください。

■停車

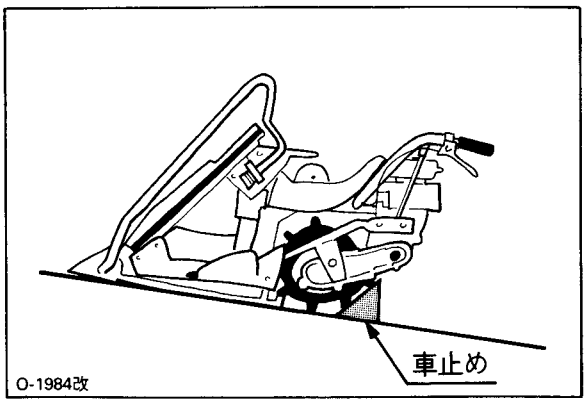
❶シャトルシフトレバーを**“N”**(中立)にすると機体は停止します。



❷主変速レバーを**“N”**(中立)にしてください。

注 意

＊機械は平たんで安全な場所に停車してください。
＊やむをえず坂道，傾斜地に停車する場合は，機械が動かないようにエンジンを止めて，主変速レバーを“１速”，シャトルシフトレバーを“前進”に入れ，必ず“車止め”をしてください。



■ほ場間の移動

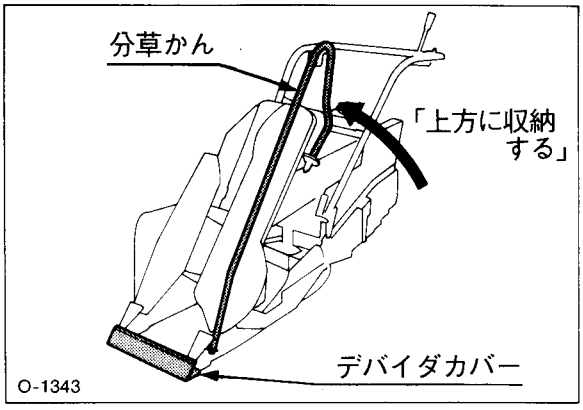
警 告

＊坂道や傾斜地などを降りるときは，エンジン回転を“🐢”(低速)にし，主変速レバーを“１速”，シャトルシフトレバーを“後進”にし，後方，足元を確認して降りてください。

注 意

＊ほ場間を移動するときは，必ずデバイダカバーを取付け，分草かんは収納して周囲の人の妨げにならないように移動してください。
＊刈取りをしない移動だけのときは，必ず刈取りクラッチレバーを“切”にしてください。

❶刈取りクラッチレバーを“切”にしてください。
❷デバイダカバーを必ず取付けてください。
❸分草かんを上方に引っ張り，上向きに収納してください。



■トラックへの積込み・積降し

警 告

＊“あゆみ板”の途中でシャトルシフトレバーを“N”(中立)にすると，機械が急降下するので絶対に操作しないでください。
＊“あゆみ板”の途中で，操向クラッチレバーを握ると，握った方向と逆の方向に機械が旋回して落下の危険があるので，絶対に操作しないでください。

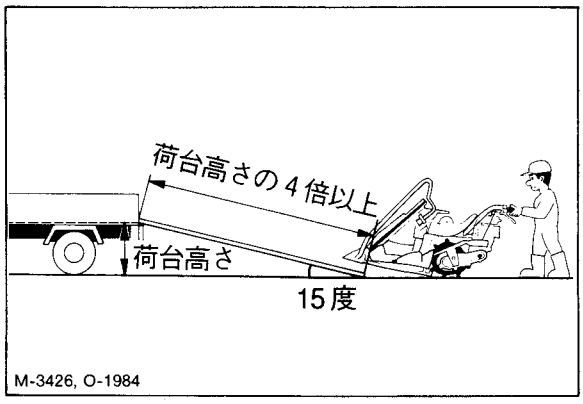
注 意

＊積込み・積降しは平たんで安定した場所で，ゆっくりと慎重に行なってください。
＊“あゆみ板”はすべり止めのついたバインダーの機体質量に耐えるものを２個使用してください。

あゆみ板の条件

長　　さ	トラックの荷台の高さの４倍以上
幅	30cm以上
強　　度	１枚が150kgf以上の機体質量に耐えるもの

＊あゆみ板のフックは車の荷台に段差がなく，ずれないように確実に掛けてください。

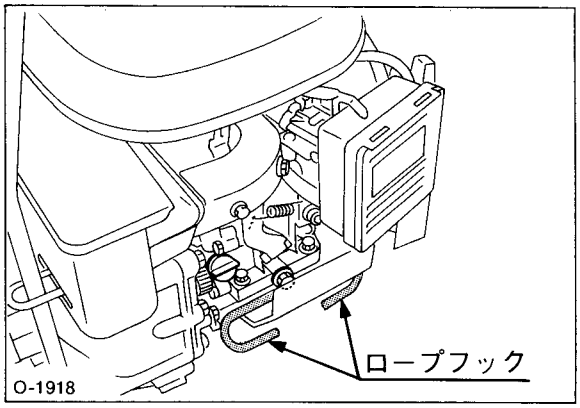


＊ロープは必ず，ロープフックにかけ，機械をトラックに確実に固定してください。

❶積込みは主変速レバー“**1速**”，シャトルシフトレバー“**前進**”でエンジン回転をできるだけ“🐢”(低速)にして行なってください。積降しはシャトルシフトレバー“**後進**”で行なってください。

❷積込んだら，エンジンを止めたあと，フューエルコックレバーを“**閉**”にし，主変速レバーを“**1速**”，シャトルシフトレバーを“**前進**”にしてください。

❸ロープは必ずロープフックにかけ，機械を確実に固定してください。



重 要

＊分草かんやフレームのパイプなどには絶対にロープをかけないでください。

＊あゆみ板とトラックの継目を越えるときは，急に機械の重心位置が変わりますので，じゅうぶん注意してください。

上手な刈取り作業のしかた

注　意

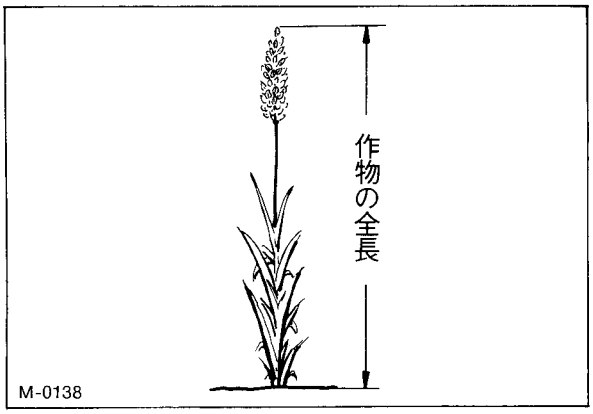
＊刈取り作業をするときは，周囲にじゅうぶん注意をはらい，特に子供を近づけないでください。
＊後進するときは，後方の安全を確認し，“🐢”(低速)で行なってください。
＊点検や雑草を取除くときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

バインダー作業ができる作物とほ場条件

■作物の条件

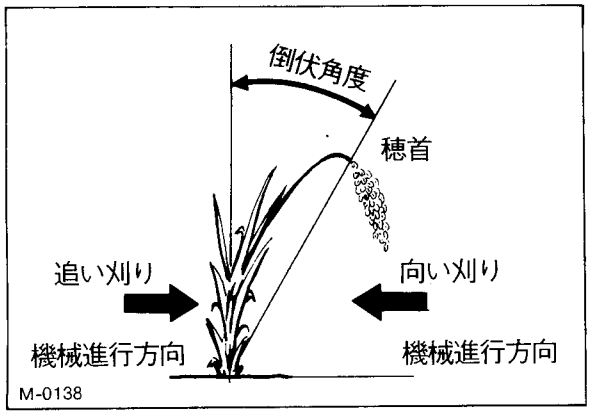
このバインダーは，稲・麦専用です。稲・麦以外の刈取りには使用しないでください。

(1)作物の長さ……全長55～115 cm



(2)作物の倒れ(倒伏角度)

左倒伏，追い刈り……85度以下
右倒伏，向い刈り……60度以下



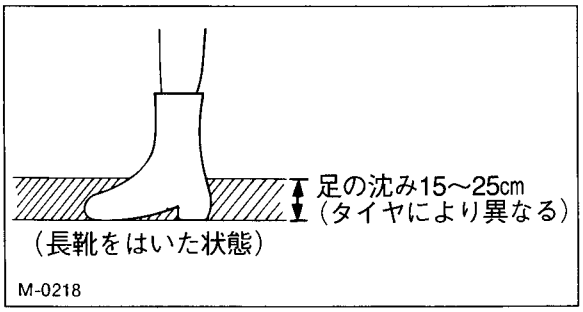
(3)ぬれた作物

葉や茎が回転部やカバーに付着しやすいので注意してすぐ取除くようにしてください。

(4)刈取りの適期が極度に過ぎている作物は，ぬれると折れやすいので，早朝や雨上がりには刈取らないようにしましょう。

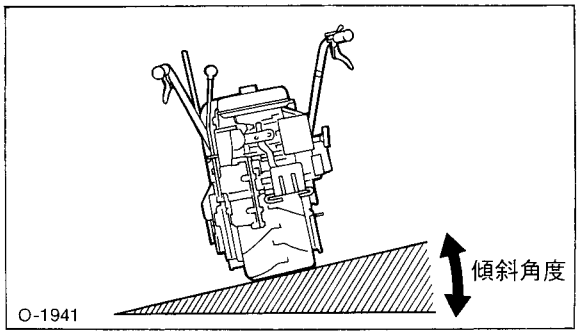
■ほ場の条件

(1)ほ場のぬかる度合



型　式	20			30	
仕　様	標準形 D形	M形 DM形	E形 DE形	標準形 D形 G形 L形	W形 GW形 DW形
タイヤ	ゼロプレ タイヤ	マッドレス タイヤ	クローリング タイヤ	標準 タイヤ	広幅低ラグ タイヤ
走行限界値 (足の沈み)	22cm	15cm	25cm	15cm	18cm

(2)機体の傾斜角度は５度以下【20】，10度以下【30】



重　要

＊ほ場内に雑草が多いと刈取り作業ができない場合があります。事前にほ場内の除草を行なってください。

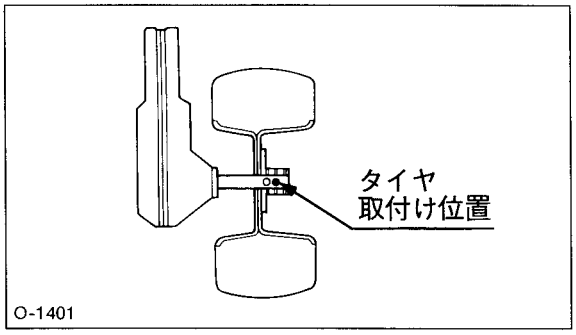
刈取り作業前の準備

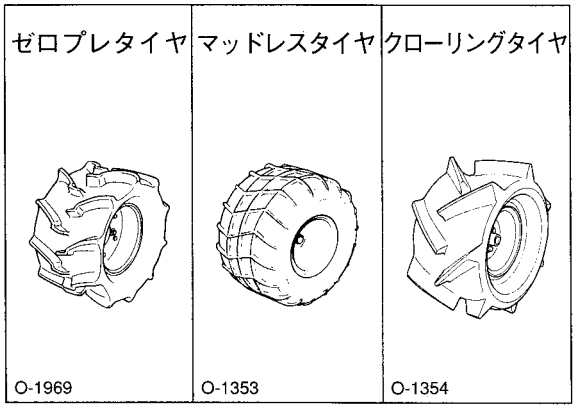
■タイヤの取付け位置

タイヤの取付けは，表の位置にしてください。

【20】

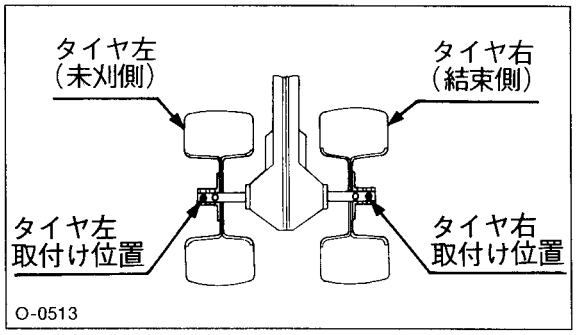
タイヤの種類	車　軸　穴	タイヤのハブ穴
ゼロプレタイヤ	外　側	真　中
マッドレスタイヤ	外　側	内　側
クローリングタイヤ	外　側	内　側

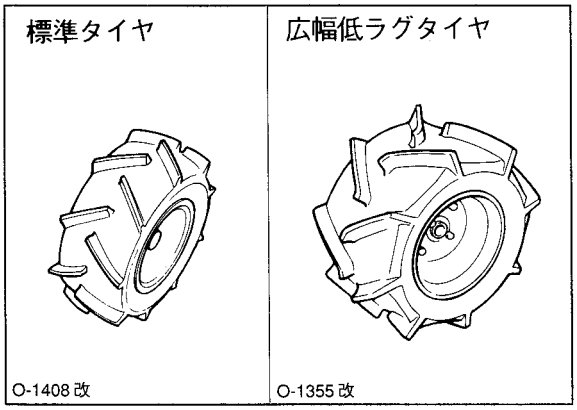




【30】

タイヤの種類	車　軸　穴	タイヤのハブ穴
標準タイヤ	外　側	外　側
広幅低ラグタイヤ		





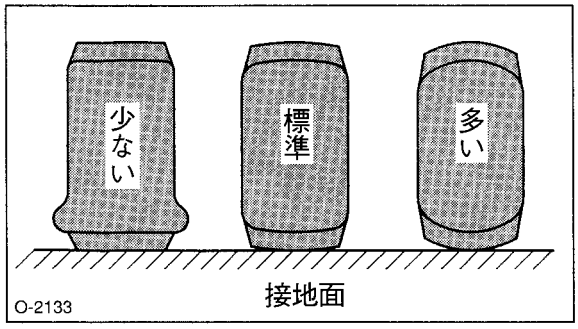
■タイヤの空気圧

警　告

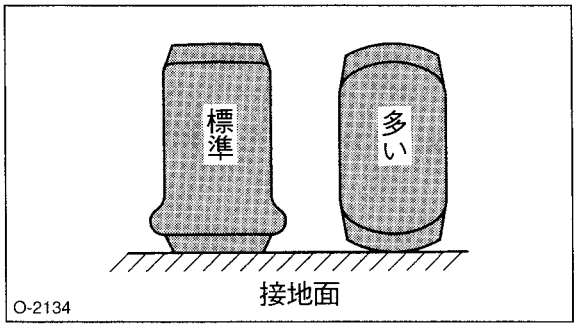
＊タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。
＊タイヤに傷があり，その傷がコード(糸)に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。
＊タイヤ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。
(特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。)

タイヤの空気圧が適切であるかを調べます。
外観から判断する目安はつぎのとおりです。

◆標準・広幅低ラグ・マッドレス各タイヤ(空気入り)



◆ゼロプレタイヤ・クローリングタイヤ (空気圧　ゼロ)



◆タイヤの空気圧

種　類	標準空気圧kPa(kgf/cm²)		備　考
ゼロプレタイヤ	標準	0(0)	【20】
クローリングタイヤ	E	0(0)	
マッドレスタイヤ	M	5.9(0.06)	
標準タイヤ	標準	24.5(0.25)	【30】
広幅低ラグタイヤ	W	29.4(0.3)	

重　要

＊【30】は左右の空気圧をあわせてください。

＊ゼロプレタイヤ，クローリングタイヤは，工場出荷のときは，タイヤ空気圧ゼロになっておりますので，そのまま使用してください。

■結束ひもの通しかた

注　意

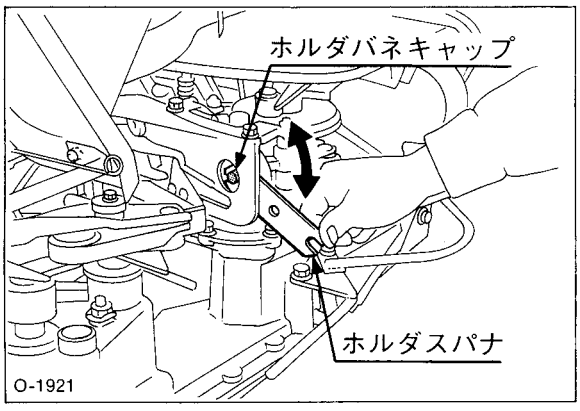
＊結束ひもを通すときは，エンジンを止めて行なってください。

＊ホルダに結束ひもを通すときはニードル，放出アームなど回転部分に触れないようにじゅうぶん注意してください。

重　要

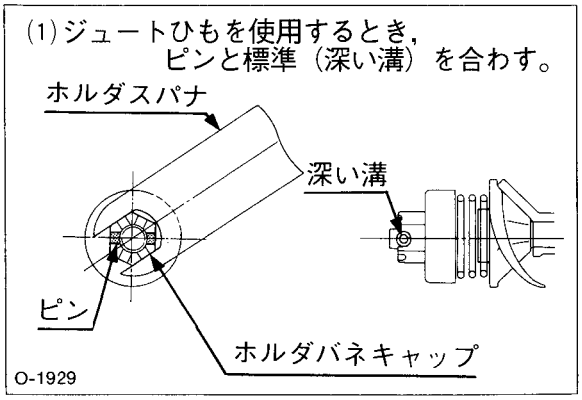
＊ひもの通しかたを間違うと，結束ミスがでたり、束の締まりがゆるくなります。

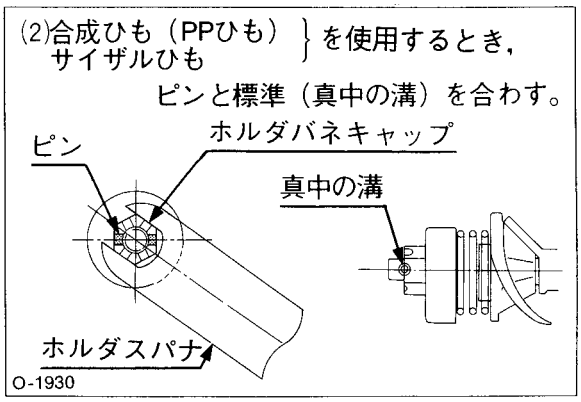
❶結束ひもの種類によって，ホルダバネ圧を調節してください。
調節はホルダスパナで，ホルダバネキャップを回して行ないます。



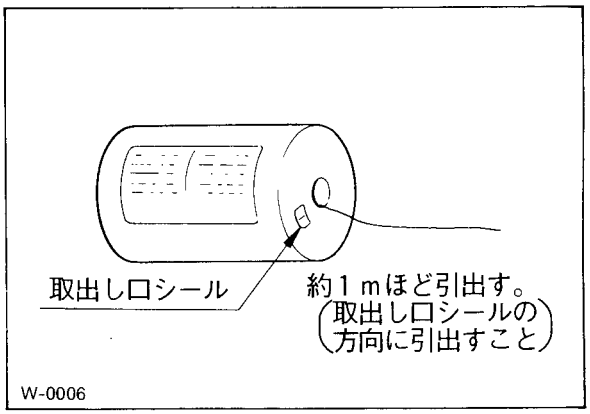
重　要

＊出荷のときは，ジュートひも位置に合わせてあります。

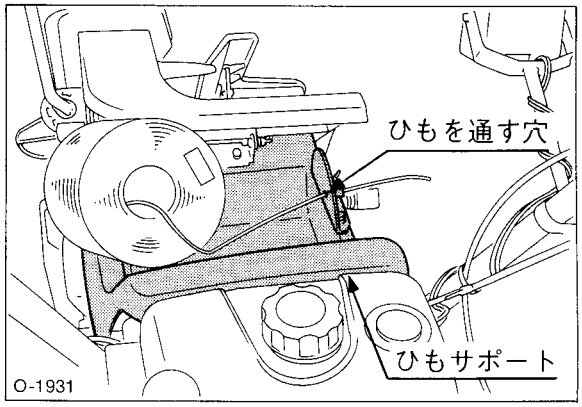




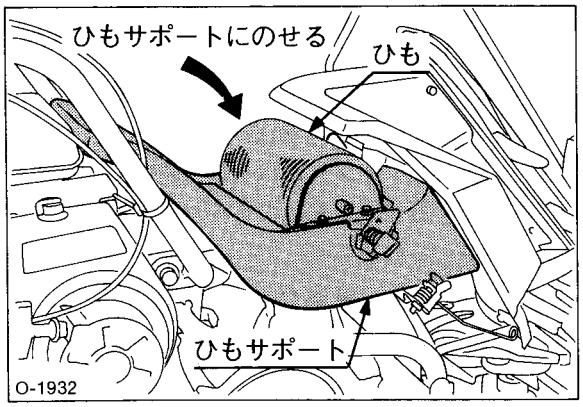
❷結束ひもを取出し口シールの方向に１ｍぐらい引出します。



❸結束ひもの先端を，ひもサポートの穴に通します。



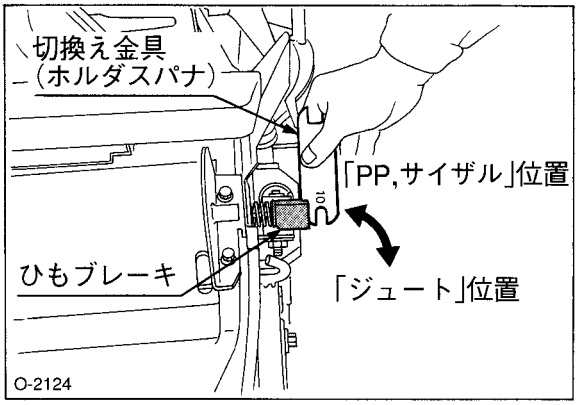
❹ひもを，ひもサポートにのせます。
ひもの取出し側にすき間ができないようにのせてください。

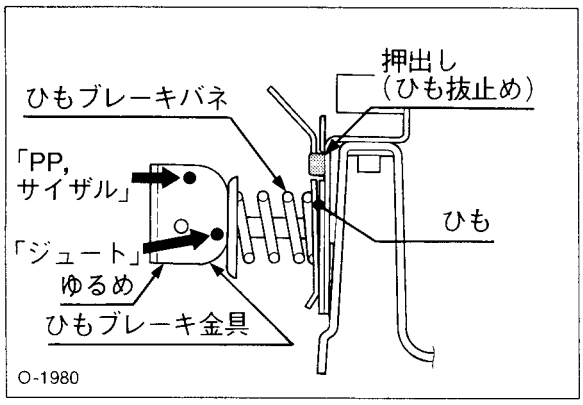


❺ひもブレーキに通します。
ひもの種類によって，ひもブレーキバネを調節してください。

＊ジュートひも ――――→ ひもブレーキ金具の**“ジュート”**位置

＊合成ひも（ＰＰひも）
＊サイザルひも ―→ ひもブレーキ金具の**“PP，サイザル”**位置



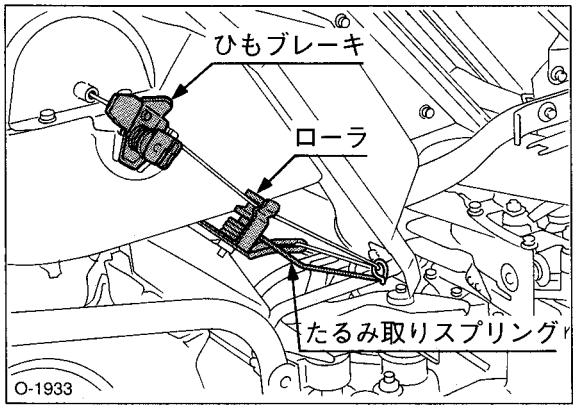


補　足

＊ひもブレーキの“押出し”の下の位置にひもを通してください。

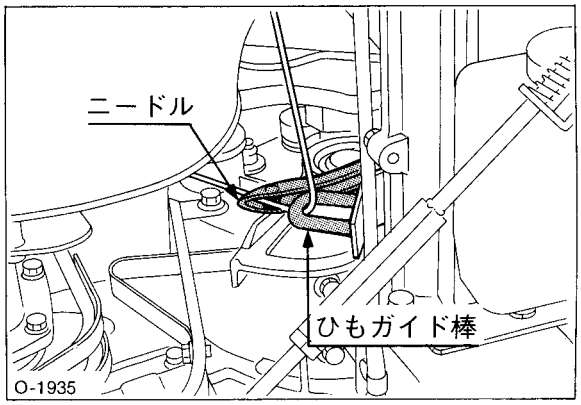
❻ローラにひもを通します。

❼たるみ取りスプリングに通します。

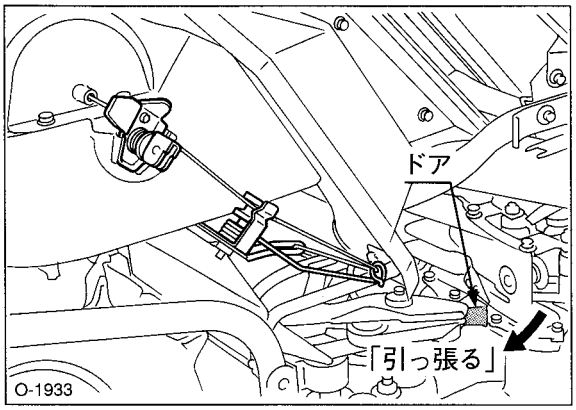


❽ひもガイド棒に通します。

❾結束機のニードルの先端に通します。

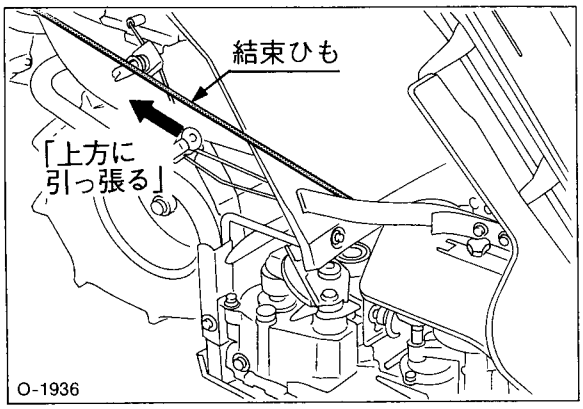


❿結束クラッチを入れます。
（ドアを矢印の方向に，**“カチッ”**と音がするまで引っ張ります。）



◆【20】のお客様へ

⓫走行クラッチレバーを“切”，主変速レバーを“N”(中立)にします。
⓬エンジンを始動します。
⓭ニードルまで通ったひもを片手でゆるまないように，上方に引っ張りながら，刈取りクラッチレバーを“入”，走行クラッチレバーを“入”にして，結束部を作動すると結束部にひもがつながります。

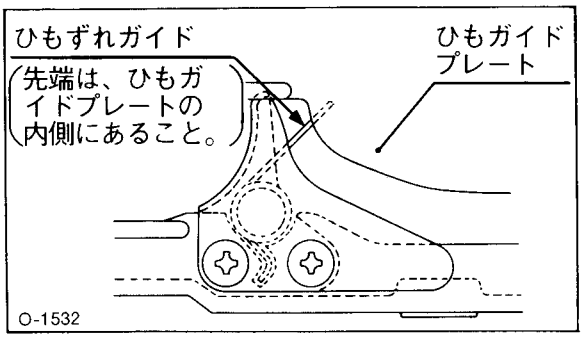


⓮走行クラッチレバーを“切”，刈取りクラッチレバーを“切”にします。
⓯片手に持っている結束ひもを引っ張って，ビルから抜取ります。
(結束ひもを横方向に引っ張ると，容易に抜取れます。)

重 要

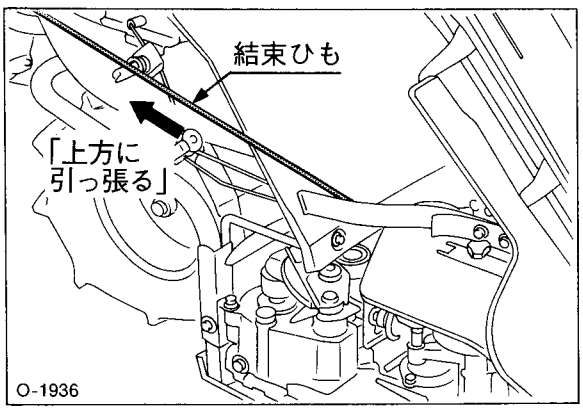
＊横方向，下方向に引っ張るとホルダバネ部に結束ひもが巻付いて結束しません。
＊空結束するとき，エンジン回転は“🐢”(低速)で行なってください。

⓰結束ひもが，ホルダにしっかりつながっているか，またひもずれガイドの先端がひもガイドプレートから出ていないか確認してください。



◆【30】のお客様へ

⓫シャトルシフトレバーを“N”(中立)，主変速レバーを“N”(中立)にします。
⓬エンジンを始動します。
⓭ニードルまで通ったひもを片手でゆるまないように，上方に引っ張りながら刈取りクラッチレバーを“入”，シャトルシフトレバーを“前進”にして，結束部を作動すると結束部にひもがつながります。

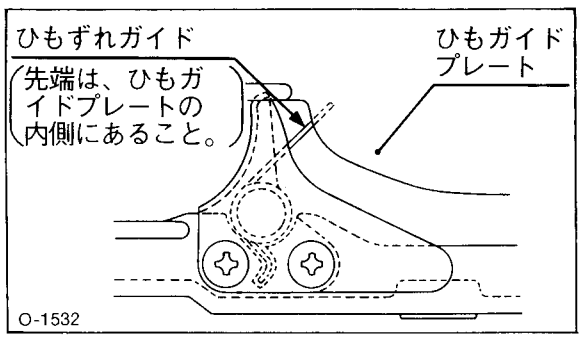


⓮シャトルシフトレバーを“N”(中立)，刈取りクラッチレバーを“切”にします。
⓯片手に持っている結束ひもを引っ張って，ビルから抜取ります。
(結束ひもを横方向に引っ張ると，容易に抜取れます。)

重 要

＊横方向，下方向に引っ張るとホルダバネ部に結束ひもが巻付いて結束しません。
＊空結束するとき，エンジン回転は“🐢”(低速)で行なってください。

⓰結束ひもが，ホルダにしっかりつながっているか，またひもずれガイドの先端がひもガイドプレートから出ていないか確認してください。



◆結束ひもは，クボタ指定ひもをお使いください。クボタ指定ひも以外は，絶対に使わないでください。

◆クボタ指定結束ひも

ひもの種類	品番	品名	ひも1巻きでの刈取り面積(中束で)
ジュートひも	50080-9441-1	ヒモ(ジュート・テザック)	約12アール
	50080-9442-1	ヒモ(ジュート・コイズミ)	
合成ひも(PPひも)	50080-9412-1	ヒモ(フィルム・コイズミ)	約15アール
	50080-9421-1	ヒモ(ハッポウ・テザック)	
	50080-9422-1	ヒモ(ハッポウ・コイズミ)	
	50080-9423-1	ヒモ(ハッポウ・ツカサ)	
	50080-9424-1	ヒモ(ハッポウ・ダイニチ)	
サイザルひも	50080-9431-1	ヒモ(サイザル・テザック)	約12アール

■結束ひもの取扱い

(1)結束ひもの取出し方向を間違うと，ひものほぐれが悪くなり，結束作業できなくなります。残った結束ひもは，取出し方向を間違わないように印をつけ，全体の形がくずれないようにして，湿気の少ない風通しのよい場所に保管してください。

(2)結束ひもは，投げたり，転がしたり，また結束ひもの上に物を乗せたり，腰かけたりすると形がくずれて，結束ひものほぐれが悪くなり，結束ミスの原因になります。

(3)ジュートひもは，ぬらさないようにしてください。ひもの強度が下がり，**ひも切れの結束ミス**の原因になります。

重 要

＊合成ひも(PPひも)で結束した稲ワラを家畜の飼料，敷ワラに使用するときは，必ず合成ひも(PPひも)を取除き，ひもを家畜に食べさせないようにしてください。

■束の大きさの調節

注 意

＊調節は，必ずエンジンを止めてから行なってください。

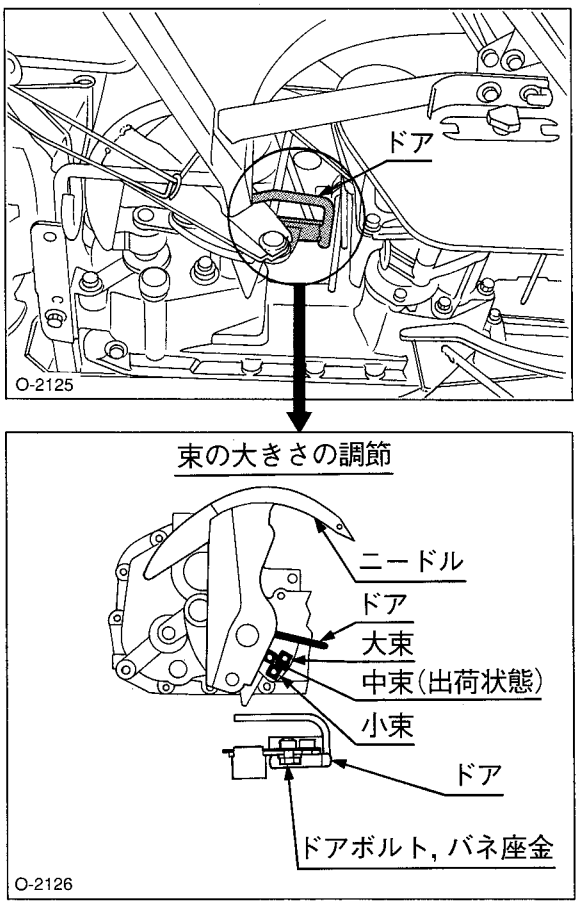
束の大きさは**“大”，“中”，“小”**の3段階に調節できます。

◆調節方法

❶ドアボルトをゆるめてドアボルトを外してください。

❷束の大きさに合わせてドアの穴位置を変更してください。

❸ドアボルトを組付け、しっかり締付けてください。



重 要

＊出荷のときは、中束の位置にセットしてあります。

■ハンドル高さの調節【20】

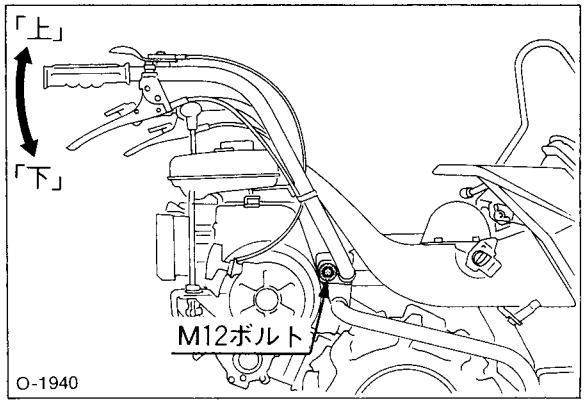
注 意

＊調節は，必ずエンジンを止めてから行なってください。

(1)使いやすい高さに調節してください。

(2)調節は，付属の17-21ボックススパナで左右のM12ボルトをゆるめて行なってください。

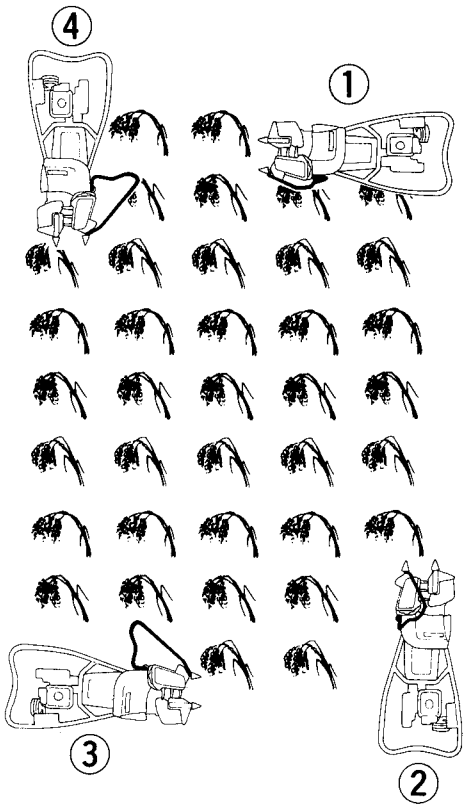
(3)調節後は，M12ボルトをハンドルがぐらつかないようしっかり締めてください。



作物条件に応じた各部の調整

■倒伏状態と刈り方

刈取り方法 ＼ 倒伏角度	45度以内	45～60度	60～85度	85度以上
① 追い刈り	○	○	△	×
② 左倒れ横刈り	○	○	△	×
③ 向い刈り	○	△	×	×
④ 右倒れ横刈り	○	△	×	×



O-1380 O-1381 O-1382

○：普通刈り（主変速：**2速**）　△：注意しながらゆっくりと（主変速：**1速**）　×：刈取りできません

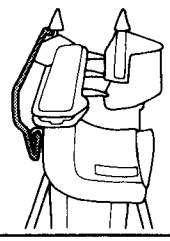
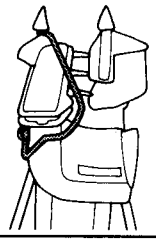
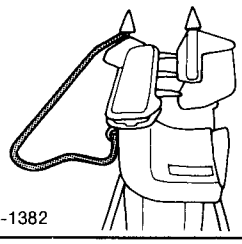
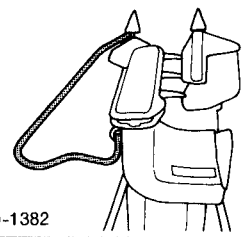
O-1387

重　要

＊作物，ほ場条件によって多少異なります。

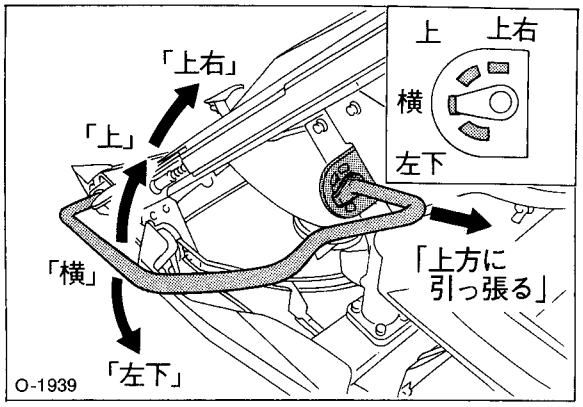
＊長かんで倒伏のひどい作物の刈取り時は，倒伏分草かん(アタッチメント)を使用してください。

■倒伏状態と分草かんの使い方

① 追い刈り	② 左倒れ横刈り	③ 向い刈り	④ 右倒れ横刈り
 O-1380	 O-1381	 O-1382	 O-1382

分草かんは作物の倒伏方向によって使いわけてください。
運転操作が楽になり，また脱粒・切れわら防止などの効果があります。
(1)右倒れ横刈り，向い刈りの場合は**“横”**又は，**“左下”**にします。
(2)左倒れ横刈り，追い刈りの場合は**“上”**又は，**“上右”**にします。

◆調節方法
分草かんを上方に引っ張って，固定する爪の位置を変えて調節します。

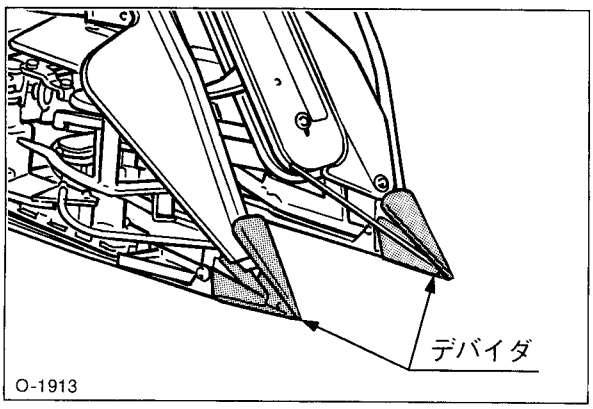


■デバイダの使い方

注 意

＊デバイダ先端の上下調節は必ずエンジンを止めてから行なってください。

湿田や倒伏作物の刈取りなどでデバイダの先端部が地面より浮き上がり刈残しが発生する場合は，下方向に，または，先端部が地面に突込んだ場合は，デバイダを上方向に調節してください。(左右共)

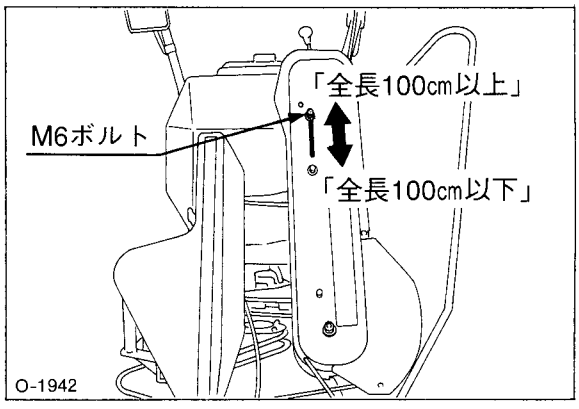


■引起し爪作用高さの調整

注 意

＊引起し爪作用高さの調節は必ずエンジンを止めてから行なってください。

作物の長さに合わせて，引起し爪の作用高さを調節してください。
M６ボルトをゆるめて上下にスライドさせることで引起し爪の作用高さが変わります。
全長100cm以上の作物を刈取る場合は長穴一番上で，100cm以下で脱粒しやすい作物を刈取る場合は長穴一番下で作業してください。



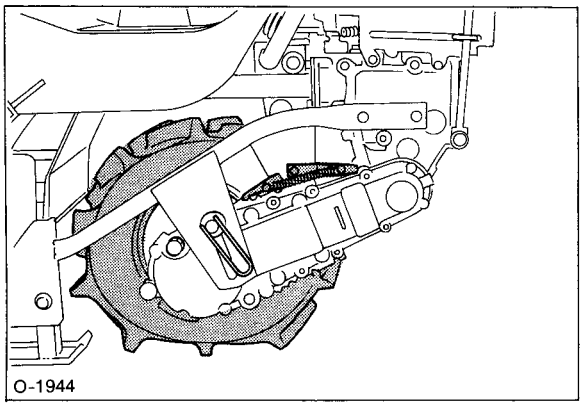
■車輪の上下調節【20】

注 意

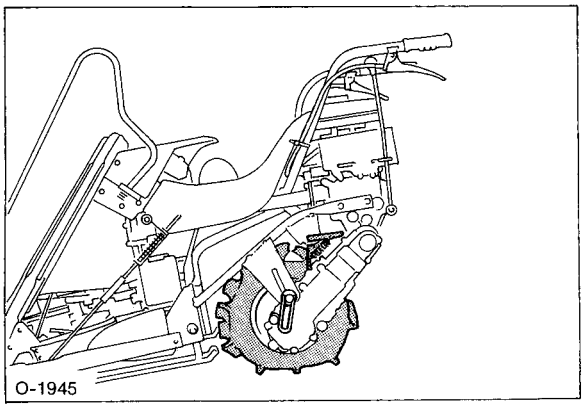
＊車輪の上下調節は必ずエンジンを止めてから行なってください。

ほ場の状態に合わせて4段階に調節できます。

(1)通常の刈取り（乾田，半湿田）
ほ場間の移動，車への積込み・積降し，機械の格納時 ……車輪を上げてください。



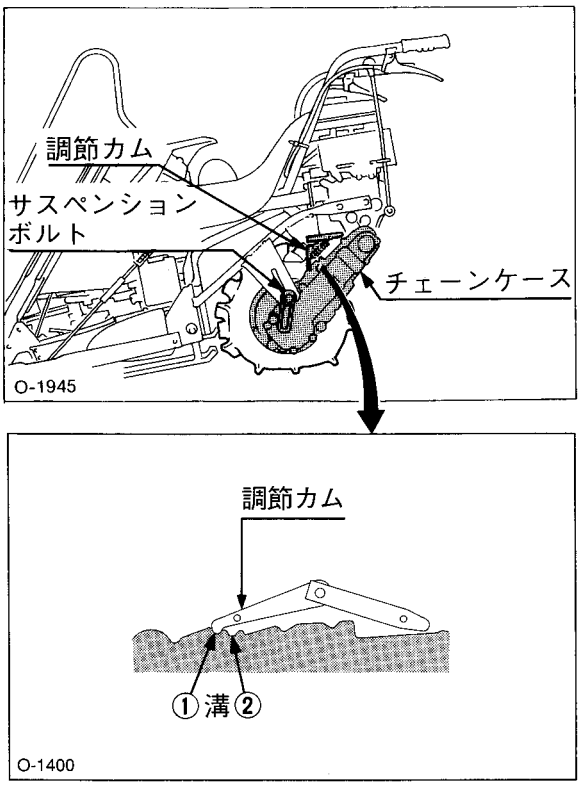
(2)湿田ほ場…湿田状態に合わせて車輪を下げてください。



◆調節のしかた

【車輪を下げる場合】

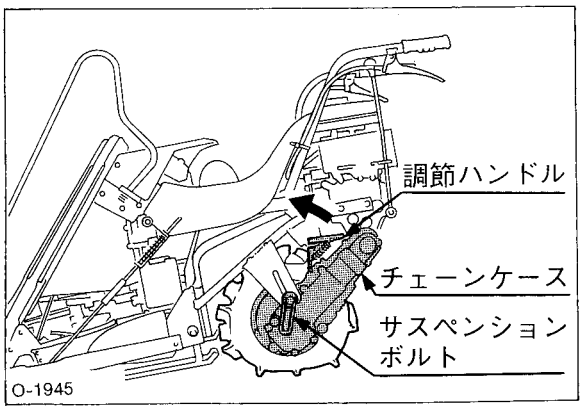
❶エンジンを**“停止”**します。
❷走行クラッチレバーを**“切”**，刈取りクラッチレバーを**“切”**にします。
❸サスペンションボルトをゆるめます。
❹ハンドルを持ち上げ，車輪の高さに合わせてチェーンケースの溝に調節カムを合わせます。



❺サスペンションボルトをしっかり締付けます。

【車輪を上げる場合】

❶サスペンションボルトをゆるめます。
❷車輪調節ハンドルを図の矢印の方向にします。
❸ハンドルを持ち上げると調節カムが外れます。



❹ハンドルを降ろすと車輪が上がります。
❺車輪調節ハンドルを元に戻し，チェーンケースの溝に調節カムを合わせます。（クローリングタイヤ**【E仕様】**は、溝②の位置に調節カムを合わせます。）
❻サスペンションボルトをしっかり締付けます。

刈取り作業について

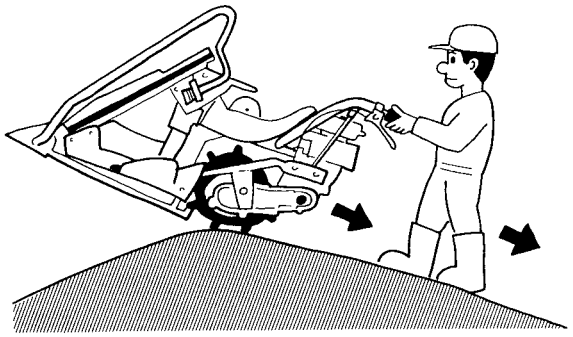
■刈取り作業の注意点

(1)刈取り作業は，適期に行なってください。
時期が遅れると，わらが乱れたり脱粒するなど作業が困難になり，また作物がひどくいたみます。
特に乾燥剤を使用した稲は，刈取りが困難ですから，注意しながら作業をすすめてください。

(2)あぜなどにデバイダの先があたって先が曲がると，引起しが不完全になりますので，あぜぎわなどでは，エンジン回転を**“🐢”**(低速)にして，じゅうぶん注意しながら作業をしてください。

(3)あぜや斜面を降りる場合は，バインダーの方向を変え，**“後進”**で，エンジン回転を**“🐢”**(低速)にして，後方足元をよく確かめて降りてください。
操向クラッチレバーは，絶対に操作しないでください。機械が，通常操作時と逆の方向に旋回し，危険です。**【30】**

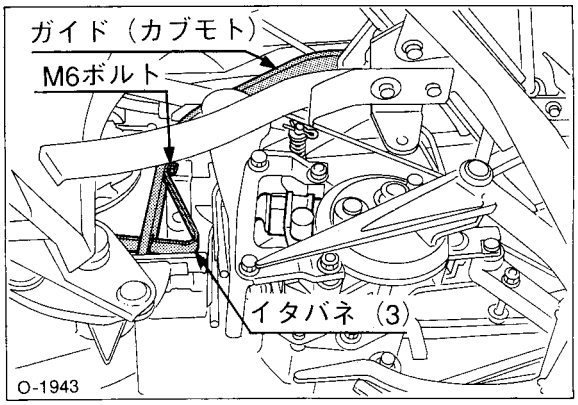
うしろ向きに降りる



O-1984

(4)倒伏稲（倒伏角度60度以上）・湿田・不定形ほ場などでは，**“1速”**で刈取り作業してください。
D仕様では自動刈取りクラッチ装置は，**“手動”**で使用してください。(自動刈取りクラッチ装置の項を参照してください。)

(5)倒伏し，株元が弱い作物の刈取り作業するとき，株元が詰まって放出されない場合は，**ガイド(カブモト)**に付いている**イタバネ(3)**を外して作業してください。



O-1943

■雑草の多い田畑の刈取り

注　意

＊機械についた雑草を取除く時は，必ずエンジンを止めてください。

(1)雑草の多い田畑では，
＊回転部に雑草が巻付きやすくなります。
＊短い雑草は，刈刃部に詰まりやすくなります。
＊枯草は，特に刈刃の切れを悪くします。

(2)作業中はたえず注意して，回転部に巻付いたり，詰まりかけた雑草を，そのたびに取るようにしてください。

(3)雑草が多いと作業能率が著しく低下します。雑草の多い田畑では，雑草の発生をできるだけ少なくするように栽培してください。

重　要

＊雑草を取除くときは，自動注油装置の配管ホースを傷つけないように注意してください。**【D仕様】**

■露や雨にぬれた作物の刈取り

朝露のまだ乾かない早朝や，雨上がりには，作物全体がぬれていますから，たえず注意しながら作業をすすめてください。

(1)ぬれた葉や茎は，各回転部に巻付いたり，搬送カバーや引起し枠などに付着しやすいので，注意して取除くようにしてください。

(2)刈取りの適期が極度に過ぎている作物は，ぬれると折れやすいので，早朝や雨上がりには刈取らないようにしてください。

(3)ぬれた作物の刈取り作業で，ジュートひもを使用する場合は，ひもがぬれてすべりが悪くなり，**ひも切れの結束ミス**が発生するときがあります。
結束状態にじゅうぶん気をつけながら作業してください。

■作業中の故障対策

警 告

＊エンジン運転中は，各回転部，刈刃部，結束部，自動刈取りクラッチ部【D仕様】に手を持っていくと危険です。

＊必ずエンジンを止めてから，調べるようにしてください。

作業中に異常が起こって，エンジンが急に停止したり，刈取部が動かなくなったときには，まずその原因を調べ，正常な状態に戻してから作業を続けるようにしてください。
異常な状態のまま作業を続けたり，エンジンの回転を上げて，急にクラッチを入れたりすると，思わぬ大きな故障を引起こすことがあります。

★異常が起こったときは →エンジンを“停止”して

(1)刈刃に，石や木片がかみ込んでいないか，わらや土が詰まっていないか。
(2)結束部と搬送通路に，土，泥，わらなどが詰まっていないか。
(3)引起し枠の中にわら，ごみなどが詰まっていないか。
(4)引起しチェーンや爪が，どこかにあたっていないか。
を調べてください。
いろいろと調べても原因がわからないときは，販売店・JA農協に連絡して，正しい処置をとるようにしてください。

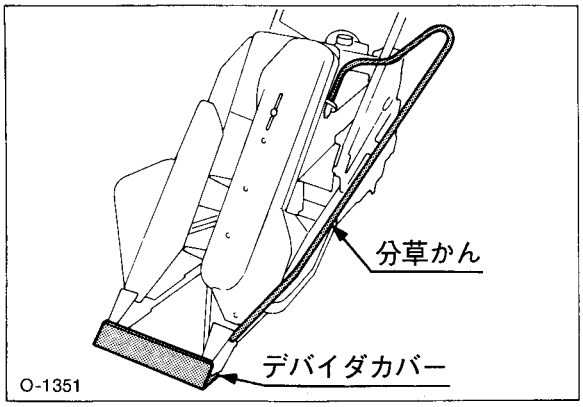
■ほ場の手刈り

(1)バインダーが，ほ場の隅で，旋回できる程度の部分を，手で刈取ってください。

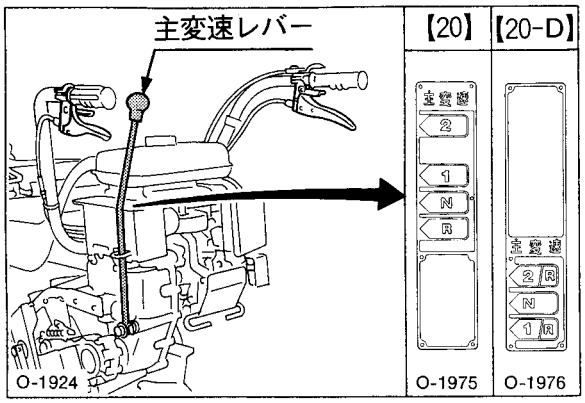
■刈取り作業の操作

◆【20】のお客様へ

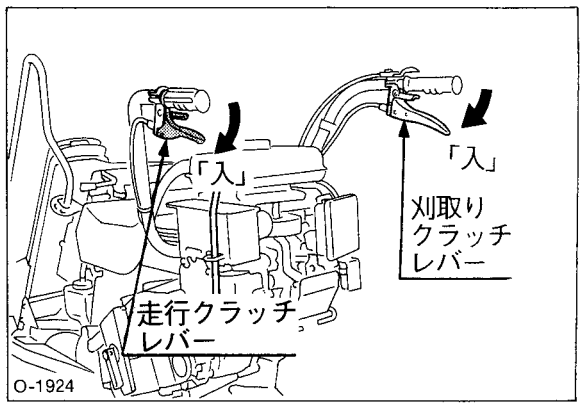
❶デバイダカバーを外します。
❷分草かんを作物条件に合わせて，調節します。



❸エンジンを始動し，主変速レバーを１速又は２速の希望の位置に入れます。



❹刈取りクラッチレバーを“入”，走行クラッチレバーを“入”にして，前進します。

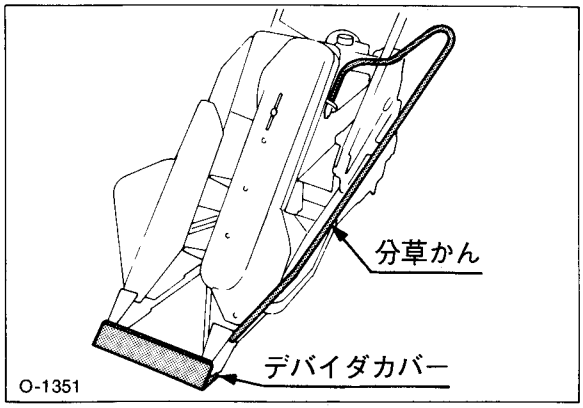


❺刈取り作物が，左右のデバイダの中心にくるように入れて刈ります。
【D仕様】は，自動刈取りクラッチについての項を参照してください。(55ページ参照)

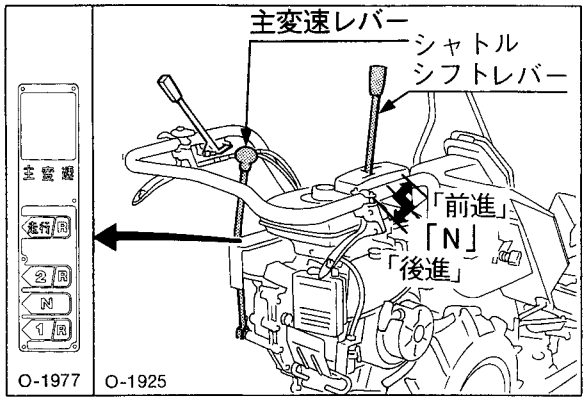
◆【30】のお客様へ

❶デバイダカバーを外します。

❷分草かんを作物条件に合わせて，調節します。



❸エンジンを始動し，主変速レバーを１速又は２速の希望の位置に入れます。



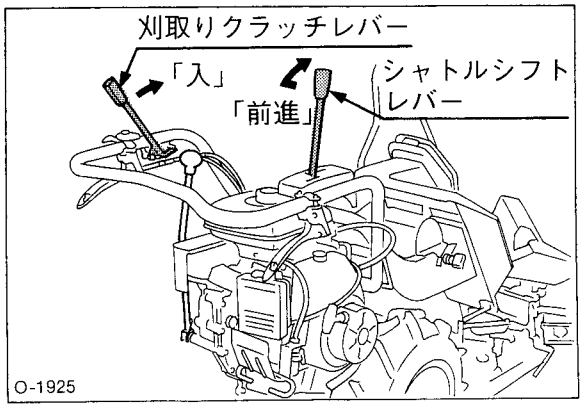
重　要

＊シャトルシフトレバーが“後進”のときは主変速レバーは“N”(中立)に変速できません。

＊主変速レバーが“N”(中立)のときは，シャトルシフトレバーを“後進”に入れないでください。

＊機体が後進している場合は、主変速レバーは“N”(中立)に操作しないでください。

❹刈取りクラッチレバーを**“入”**，シャトルシフトレバーを**“前進”**にして，前進します。



❺刈取り作物が，左右のデバイダの中心にくるように入れて刈ります。

【D仕様】は，自動刈取りクラッチについての項を参照してください。(60ページ参照)

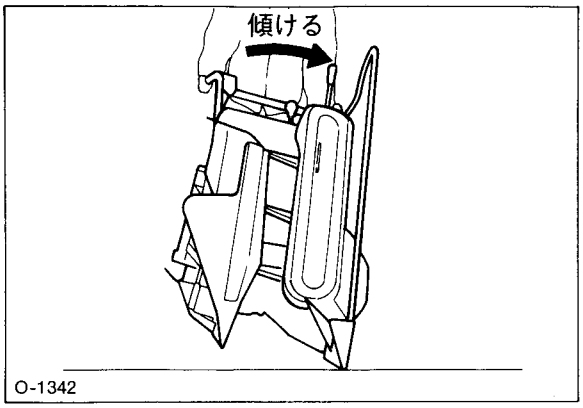
■旋回のしかた

◆【20】のお客様へ

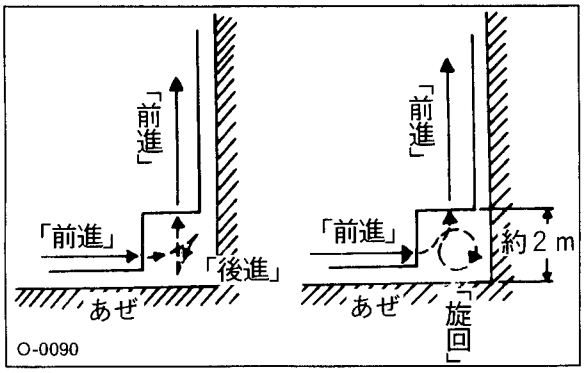
注　意

＊旋回するときは周囲の人にじゅうぶん注意し，エンジン回転を“🐢”(低速)にし，ゆっくり行なってください。

❶アクセルレバーを“🐢”(低速)の位置にし，旋回をしたい方向に機体を傾けると楽に旋回ができます。



❷旋回及び刈取りの条へ入るときは，エンジン回転を“🐢”(低速)にして，ゆっくりと刈取りの条へ入った後，“🐇”(高速)にすれば確実で楽に運転できます。



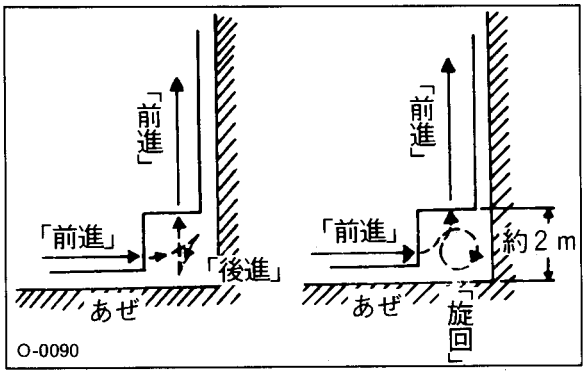
◆【30】のお客様へ

注 意

＊旋回するときは周囲の人にじゅうぶん注意し，エンジン回転を“🐢”(低速)にし，ゆっくり行なってください。

❶アクセルレバーを“🐢”(低速)の位置にし，旋回をしたい方向の操向クラッチレバーを握って旋回します。

❷旋回及び刈取りの条へ入るときは，エンジン回転を“🐢”(低速)にして，ゆっくりと刈取りの条へ入った後，“🐇”(高速)にすれば確実で楽に運転できます。



■ほ場の形状による刈り方

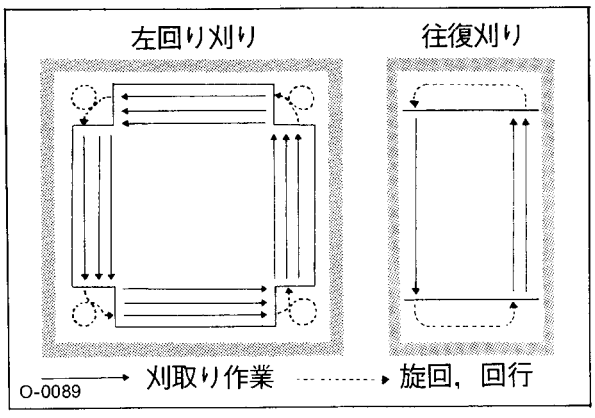
刈り方には，**“左回り刈り”**，**“往復刈り”**，**“一方刈り”**があります。

(1)四角形のほ場では，**“左回り刈り”**をします。

(2)長方形のほ場では**“往復刈り”**が適しています。

(3)不規則な形のほ場では，短い辺や斜めの辺を先に刈って，四角形になるようにしてから，**“左回り刈り”**又は**“往復刈り”**をします。

(4)倒伏の激しい場合や田畑の特殊な状態によっては，**“一方刈り”**をします。

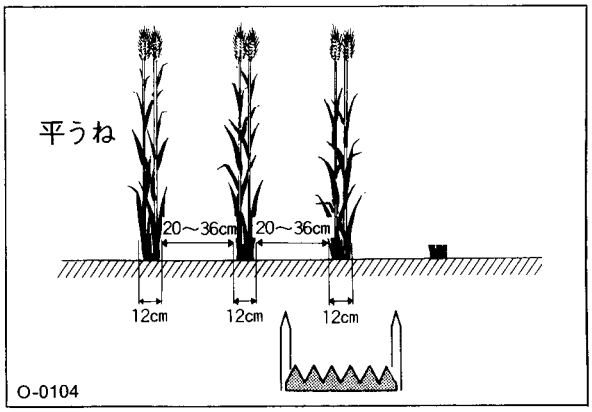


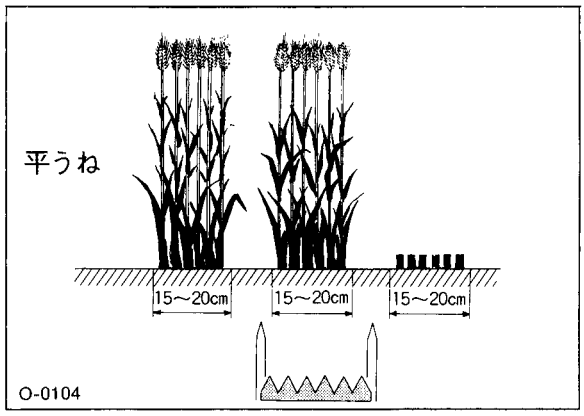
麦の刈取り

麦は稲と違って，品種や作付け方法が多種多様です。

(1)バインダーで麦を刈るには，バインダーに合った作付けをしてください。
無理な刈取りは，バインダーを破損する原因になります。

(2)平まきが，バインダーに適した作付けです。平まきの麦は楽に刈れます。





(3)うね立て栽培の麦を刈るには，うねをバインダーの条件に合わせてつくってください。

■麦の刈取り方法

(1)小麦，ビール麦は刈れますが，作付けによっては刈れない場合があります。

(2)かんの弱い大麦は，バインダーで刈ると作物がひどくいたみますから，注意してください。

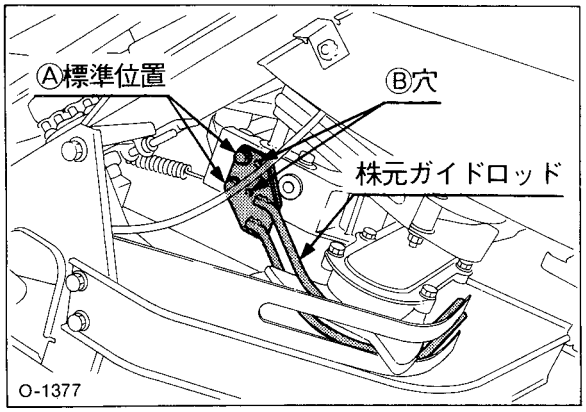
(3)麦は，適期をすぎると急に脱粒や穂切れが多くなります。少し早目に刈るようにしてください。

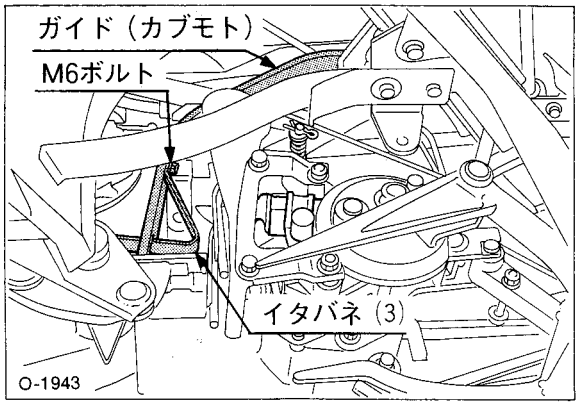
(4)115cmをこえるビール麦や，特に短い麦は，刈れません。

(5)倒れた麦は，45度以内なら刈れます。
45度以上倒れている作物を無理に刈取ると，わらが折れる場合があります。

(6)降雨中や，ぬれている麦は，作物がカバーに付着したり，巻付いたりします。ぬれている麦は，刈らないでください。

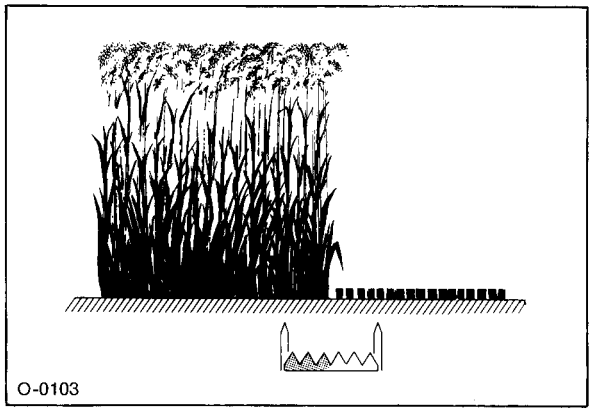
(7)ボリュームが多く株元が詰まる場合は，**株元ガイドロッド**を**Ⓑ**の穴位置にセットし，**ガイド(カブモト)**に付いている**イタバネ**(3)を取外して作業してください。





■密植した作物の刈取り

麦の広幅まきのように，密植した作物は，
刈り幅の半分ほどを刈取るようにしてください。



メンテナンス

給油・点検調整一覧表

警 告

＊各部の給油，注油，点検，交換は，機械を平たんで安全な場所におき，必ずエンジンを止めてください。
＊オイル給油及び交換中は火気厳禁。
＊タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。

注 意

＊燃料タンクキャップ，給油プラグ，排油プラグは確実に締めてください。

■注油・給油一覧表

※印は毎日作業前に点検してください。

項目		参照ページ	補給・交換時期		オイルの種類	給油量	
※ 燃料タンク		9	毎日作業前に補給		自動車用レギュラガソリン(無鉛)	満たん量 1.8L	
※ エンジンオイル		41	第1回目100アールで交換	その後200アールごとに交換	クボタ純オイルG30(ガソリン・灯油エンジン用)	給油口いっぱいまで。 0.55L	
ミッションケースのオイル		41			クボタ純オイルM90(ミッション用)	給油口又は，検油穴からオイルが流れ出るまで入れます。	約1.0L
チェーンケースのオイル		41					約0.4L
結束ケースのオイル		42					約1.3L
手動注油部	刈刃(受刃・すらし板 ナイフクリップ)	45,46 (D仕様 56,61)	20～30アール使用ごとに注油		クボタ純オイルG30(ガソリン・灯油エンジン用)	適量 【D仕様】：自動注油 (注油ポンプレバーを1~2回押して注油する。)	
	引起しチェーン						
	刈取りクラッチレバー支点部【30】 刈取りクラッチワイヤ 操向クラッチワイヤ【30】 走行クラッチワイヤ シャトルワイヤ【20-D,30】 シャトルシフトレバー支点部【30】 走行クラッチアームローラ部【30】 走行クラッチカム面【30】 走行クラッチワイヤ支点部【30】 シャトルワイヤ支点部【30】 刈刃ガイドローラ部 センサ支点部【D仕様】 センサ支点部【D仕様】 連結かん支点部【D仕様】	38～40	50～60アール使用ごとに注油		クボタ純オイルG30(ガソリン・灯油エンジン用)	適量	
	※ビル押え支点·ベベルピニオン ※ビルローラ,ホルダシャフト	11	毎日作業前に点検，注油				
センサ支点部【D仕様】		57,62	格納時に注油				

※印は毎日作業前に点検してください。

項目		参照ページ	補給・交換時期	オイルの種類	給油量
手注油動部	パッカアーム ニードルピットマン	39,40	50～60アール使用ごとに注油	クボタ純オイルG30 (ガソリン・灯油エンジン用)	適量
※	ベベルブラケット	11	毎日作業前に点検，補給	モリブデングリース	グリースポット 一杯

重要

＊オイルを交換するときは，バインダー使用直後の，オイルが暖まって流動しやすいうちに旧油を排出すると，ちりやごみなどがオイルに混ざっていっしょに排出できます。

■点検調整一覧表

※印は毎日作業前に点検してください。

項目	参照ページ	点検・調整時期
走行クラッチワイヤの調整【20】	42	第1回：20アール使用後 その後：200アール使用ごと
シャトルシフトの調整【30】	44	
操向クラッチワイヤの調整【30】	44	
刈取りクラッチワイヤの調整	43,44	
※引起しチェーンの張り調整	46	毎日作業前
※タイヤの空気圧の調整	24	
エアクリーナの掃除	40	100アール使用ごと， ほこりの多い所では10～20時間ごと
刈刃の整備	45	各シーズン使用前又は，200アール使用ごと
フューエルフィルタの掃除	46	
電気配線の損傷及び接続部のゆるみの点検	46	

毎日作業前

次の項目は**“運転前の点検”**を参照してください。

＊燃料
＊エンジンオイル
＊ひもの通し方
＊注油
＊ランプ【D仕様】
＊引起しチェーンの張り調整
＊タイヤの空気圧の調整
＊ベベルブラケット
＊ビル押え支点，ベベルピニオン，ビルローラ，ホルダシャフト

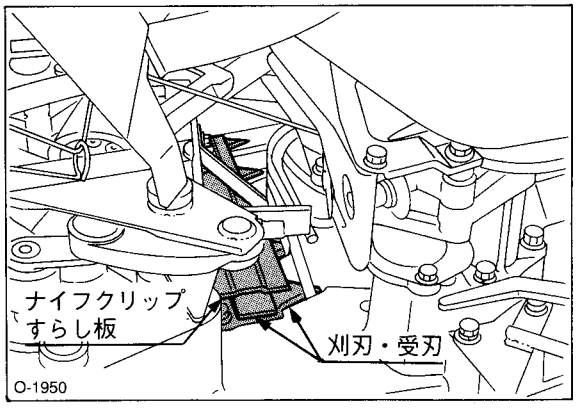
20～30アールごと

■注油箇所

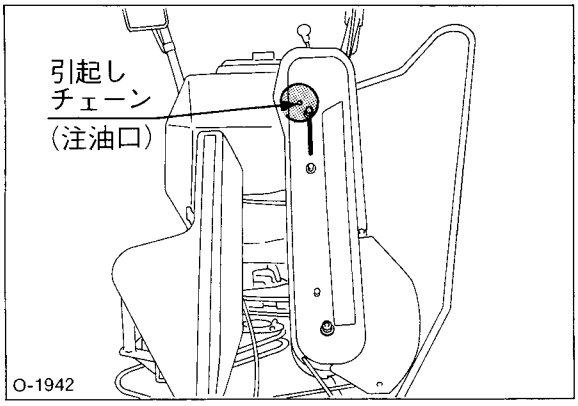
補　足

＊【D仕様】の自動注油装置による注油は56, 61ページを参照してください。

◆刈刃



◆引起しチェーン



■シャトルシフトの調整【30】

第1回目は20アール使用後に調整してください。44ページの200アールごとの項を参照してください。

■操向クラッチワイヤの調整【30】

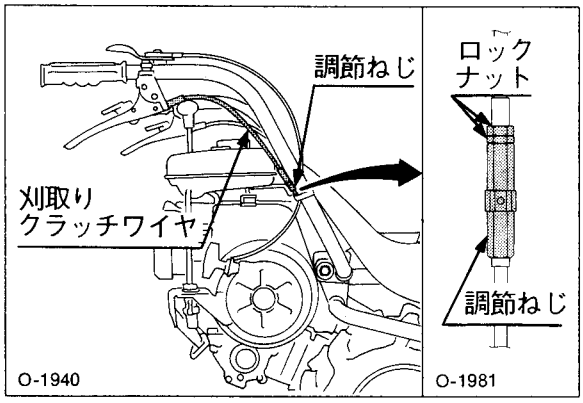
第1回目は20アール使用後に調整してください。44ページの200アールごとの項を参照してください。

50～60アールごと

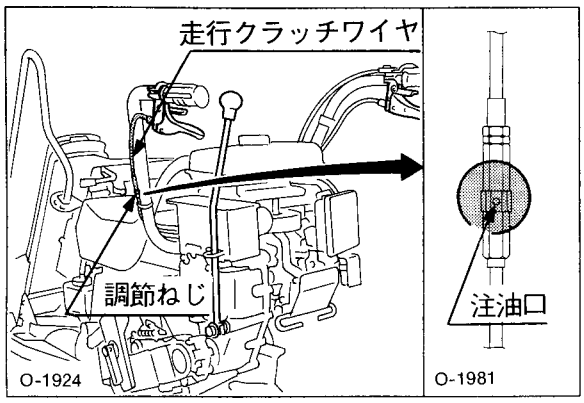
■注油箇所

【20】のお客様へ

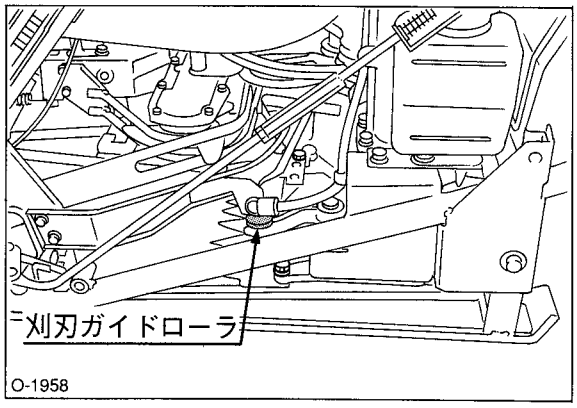
◆刈取りクラッチワイヤ



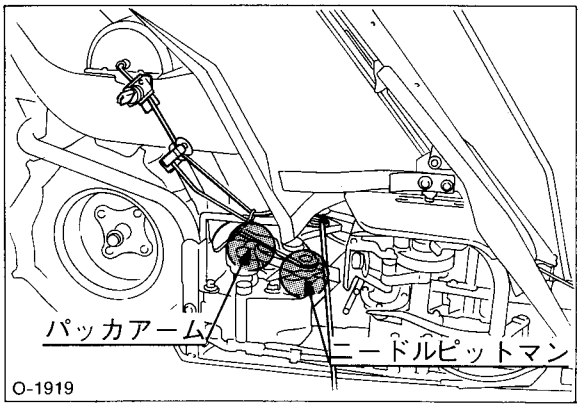
◆走行クラッチワイヤ



◆刈刃ガイドローラ



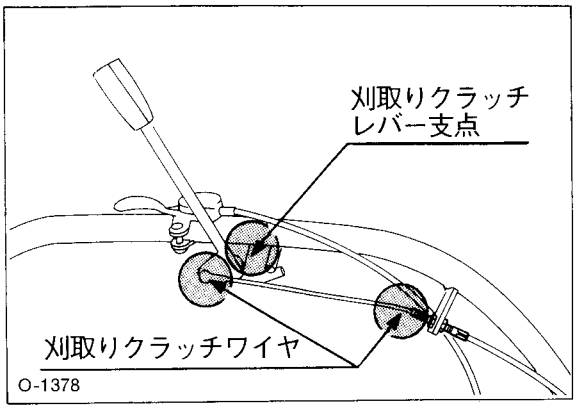
◆パッカアーム
◆ニードルピットマン



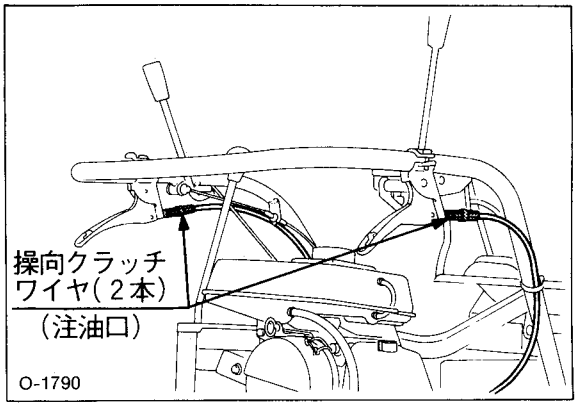
■注油箇所

【30】のお客様へ

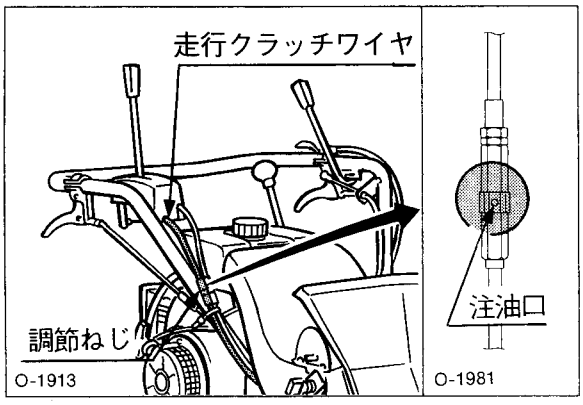
◆刈取りクラッチワイヤ
◆刈取りクラッチレバー支点部



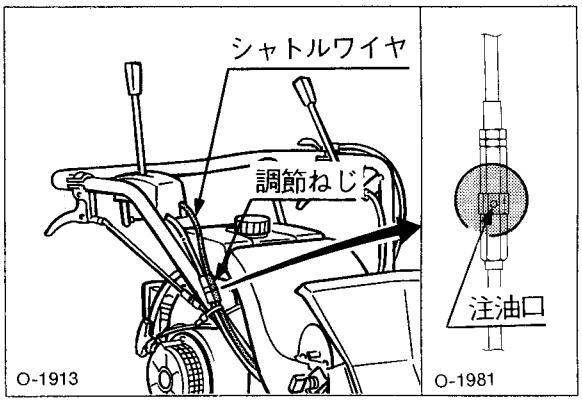
◆操向クラッチワイヤ



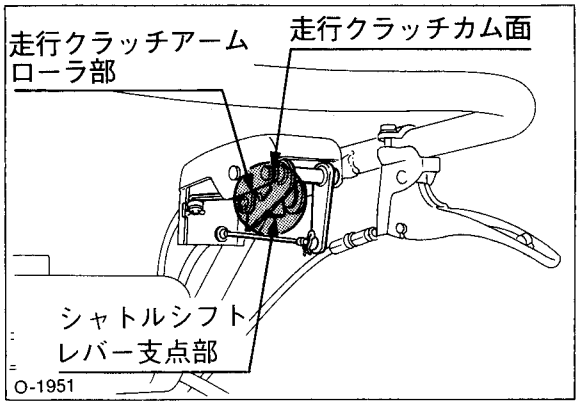
◆走行クラッチワイヤ



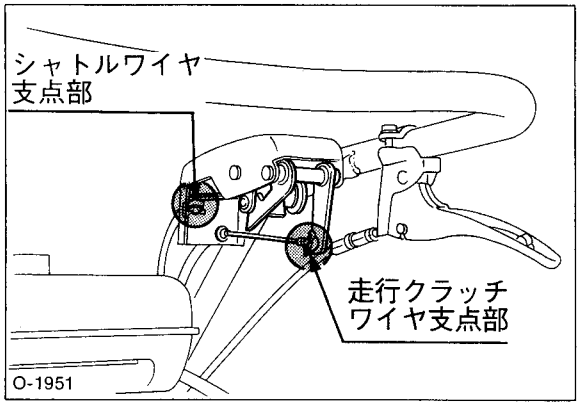
◆シャトルワイヤ



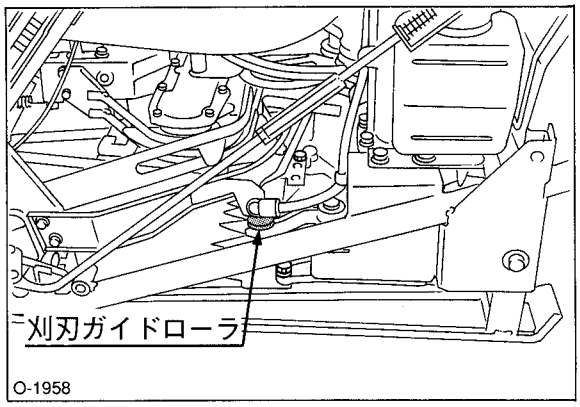
◆シャトルシフトレバー支点部
◆走行クラッチアームローラ部
◆走行クラッチカム面



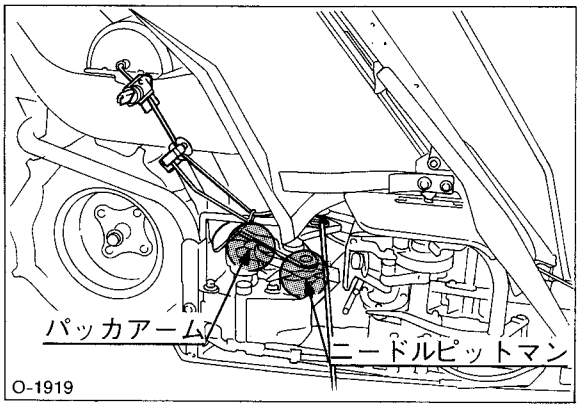
◆走行クラッチワイヤ支点部
◆シャトルワイヤ支点部



◆刈刃ガイドローラ



◆パッカアーム
◆ニードルピットマン

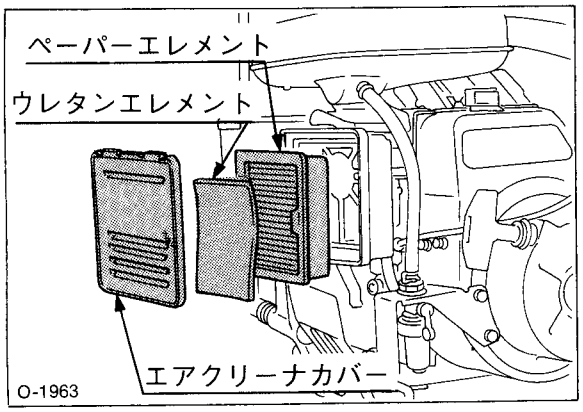


100アールごと

■エアクリーナの掃除

(1)100アール使用ごとにエレメントの掃除をしてください。

(2)エレメントは，エアクリーナカバーを外し，エレメントを外してください。



(3)特にちりやほこりの多いところで作業する場合は、10～20時間ごとに内部からエアで吹きつけて、ごみを落としてください。

(4)**【G仕様】**は付属品箱に予備品を入れておりますので交換してください。(その間に交換したエアクリーナエレメントの清掃をしてください。)

■エンジンオイルの交換

第1回目は100アール使用後に交換してください。

41ページの200アールごとの項を参照してください。

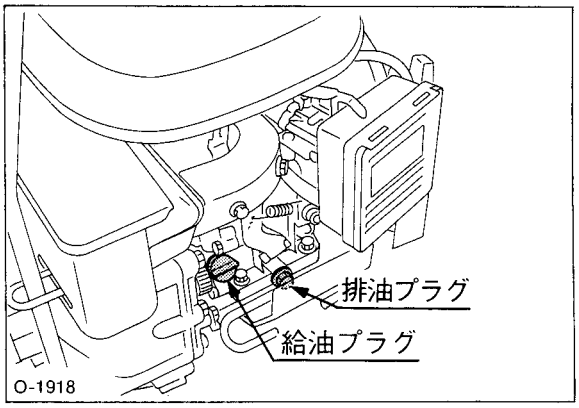
■ミッションケースのオイル交換
第1回目は100アール使用後に交換してください。
41ページの200アールごとの項を参照してください。

■チェーンケースのオイル交換
第1回目は100アール使用後に交換してください。
41ページの200アールごとの項を参照してください。

■結束ケースのオイル交換
第1回目は100アール使用後に交換してください。
42ページの200アールごとの項を参照してください。

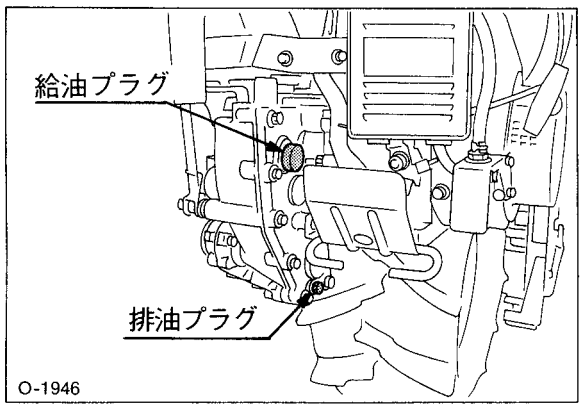
200アールごと

■エンジンオイルの給油・交換
(1)毎日作業前に，エンジンが水平になるような状態にして，クランク室の給油プラグを外して，オイル量を点検し，不足の場合は，じょうごとパイプで給油口いっぱいまで補給してください。
(2)給油後は，給油プラグを締付けて，リコイルスタータを軽く数回引っ張って，オイルを各部にゆきわたらせてください。
(3)交換するときは，排油プラグを外して旧油を排出した後，補給してください。（0.55 L）

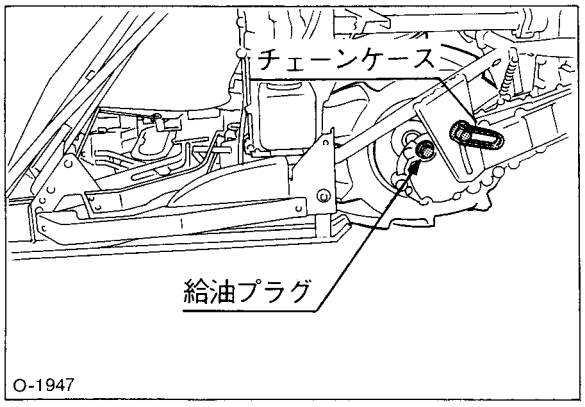


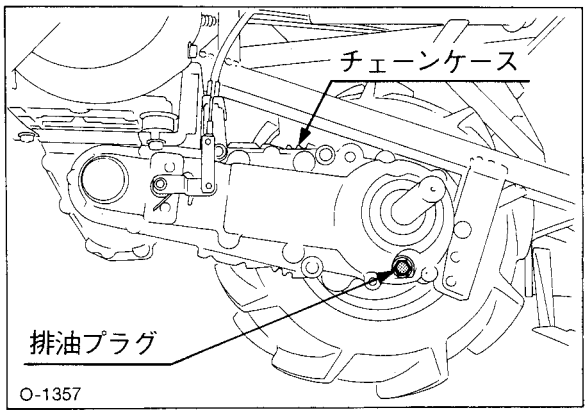
重 要
＊オイルを交換するときは，バインダーが使用直後のオイルが暖まって流動しやすいうちに旧油を排出すると，ちりやごみがオイルに混ざっていっしょに排出できます。

■ミッションケースの給油・交換
ミッションケース内のオイルを交換するときは，排油プラグを外して，旧油を排出した後，給油プラグを外して給油してください。（約1.0 L）



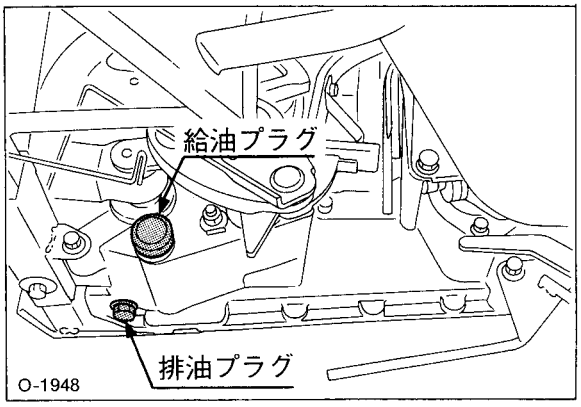
■チェーンケースの給油・交換
チェーンケース内のオイルを交換するときは排油プラグを外し旧油を排油した後，給油プラグを外して給油してください。（約0.4 L）





■結束ケースの給油・交換

結束ケース内のオイルを交換するときは排油プラグを外し旧油を排出した後，給油プラグを外して給油してください。（約1.3Ｌ）



重　要

＊結束機を本機から降ろすときは，必ずオイルを抜いてください。

■【20】のお客様へ

◆走行クラッチワイヤの調整

注　意

＊調整の確認は，エンジン回転を“🐢”(低速)で行なってください。

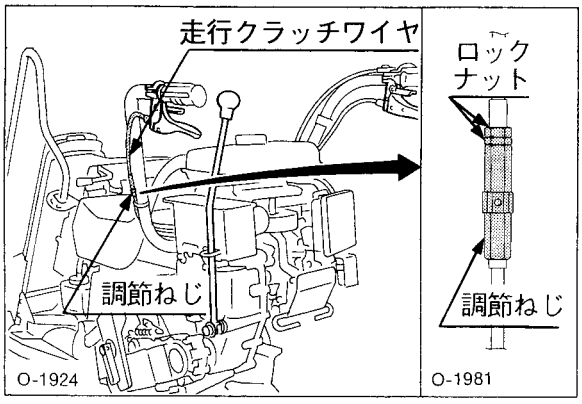
走行クラッチレバーを**“入”**にしても動力を伝達しない，または**“切”**にしても動力が伝達される場合は，次のように調節してください。

❶走行クラッチワイヤの調節ねじで，爪クラッチのかみ合い深さを調整してください。

❷走行クラッチレバーを**“入”**に入れても動力を伝達しない場合は，調節ねじを短くします。

❸走行クラッチレバーを**“切”**に戻しても動力が伝達される場合，調節はミッション内部で**“カチカチ”**と音が発生した状態より，調節ねじを長くする方向に更に４～4.5回まわしてください。

❹調整が終ったら，ロックナットは確実に締付けてください。

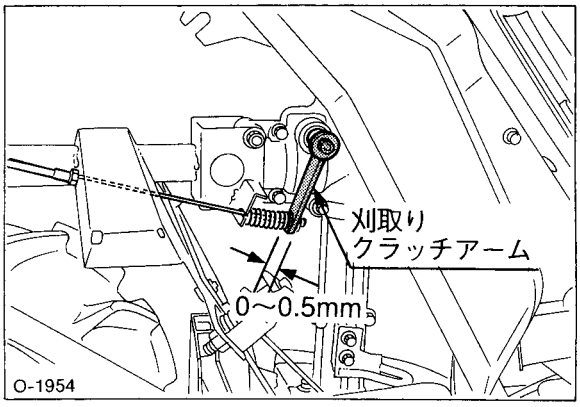


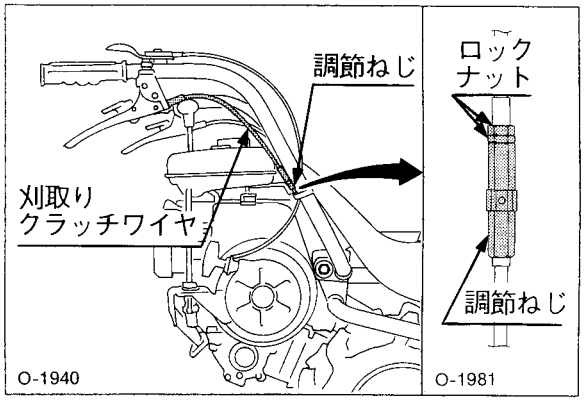
◆刈取りクラッチワイヤの調整

注 意

＊調整の確認は，主変速レバー“N”(中立)で，エンジン回転を“🐢”(低速)で行なってください。

刈取りクラッチレバーを**“切”**にしても，刈取部が停止しない場合は，ワイヤを調整してください。
刈取りクラッチが切れた状態で，刈取りクラッチアームに0～0.5㎜の遊びがあるように，調節ねじの出代を伸縮させて調整してください。





重 要

＊調整後，調節ねじのロックナットは確実に締付けてください。

■【30】のお客様へ

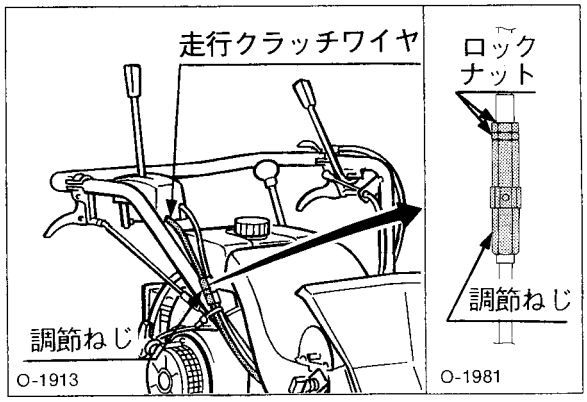
◆走行クラッチワイヤの調整

注 意

＊調整の確認は，エンジン回転を“🐢”(低速)で行なってください。

シャトルシフトレバーを，**“前進”**に入れても動力を伝達しない，または**“N”**(中立)に戻しても動力が伝達される場合は，次のように調整してください。

❶走行クラッチワイヤの調節ねじで，爪クラッチのかみ合い深さを調整してください。
❷シャトルシフトレバーを**“前進”**に入れても動力を伝達しない場合は，調節ねじを短くします。
❸シャトルシフトレバーを**“N”**(中立)に戻しても動力が伝達される場合，調節はミッション内部で**“カチカチ”**と音が発生した状態より，調節ねじを長くする方向に更に４～4.5回まわしてください。
❹調整が終ったら，ロックナットは確実に締付けてください。



◆シャトルワイヤの調整

注 意

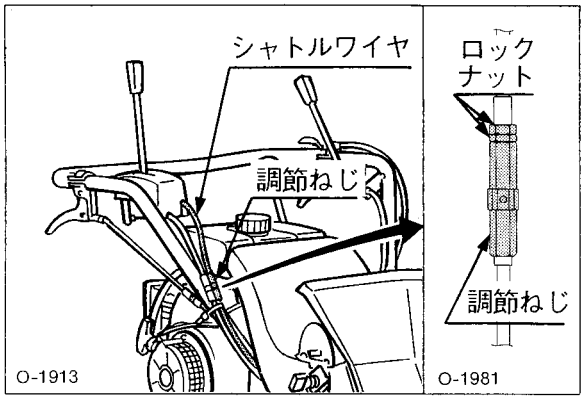
＊調整の確認は，エンジン回転を“🐢”(低速)で行なってください。

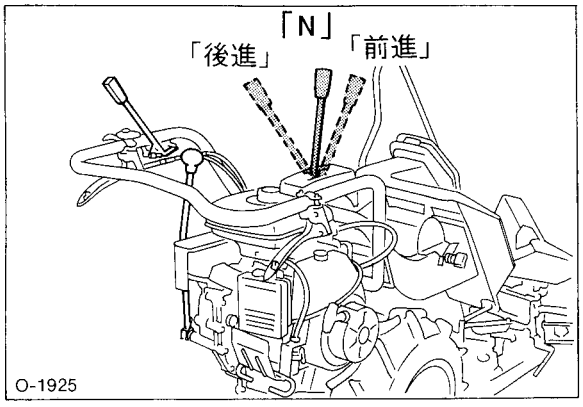
シャトルシフトレバーを，**“後進”**に入れても**“前進”**する場合，また，**“前進”**に入れても**“後進”**する場合は，変速レバーを**“1速”**に入れ次のように調整してください。

(1)**“後進”に入れても前進する場合，**

❶シャトルシフトレバーを**“後進”**側に倒したとき，ミッション内部で**“カチカチ”**と音が出るまで，調節ねじを長くし，

❷シャトルシフトレバーを**“N”**(中立)に戻してから，調節ねじを長くする方向に，更に4～4.5回まわしてください。





(2)**“前進”に入れても後進する場合，**

(1)の逆でワイヤの調節ねじを短くする方向で，(1)と同じ要領で調整してください。

重 要

＊調整ねじを長くしすぎると，“前進”に入れても後進し，短くしすぎると，“後進”に入れても前進します。

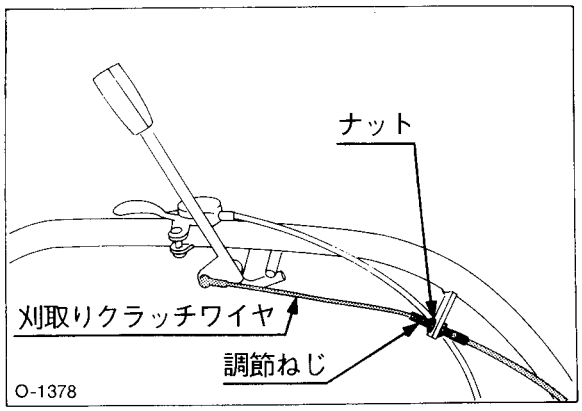
＊調整後は，調整ねじのロックナットを確実に締付けてください。

◆刈取りクラッチワイヤの調整

注 意

＊調整の確認は，主変速レバー“N”(中立)で，エンジン回転を“🐢”(低速)で行なってください。

刈取りクラッチレバーを**“切”**にしても，刈取部が停止しない場合は，ワイヤを調整してください。
刈取りクラッチが切れた状態で，刈取りクラッチアームに0～0.5㎜の遊びがあるように，調節ねじの出代を伸縮させて調整してください。



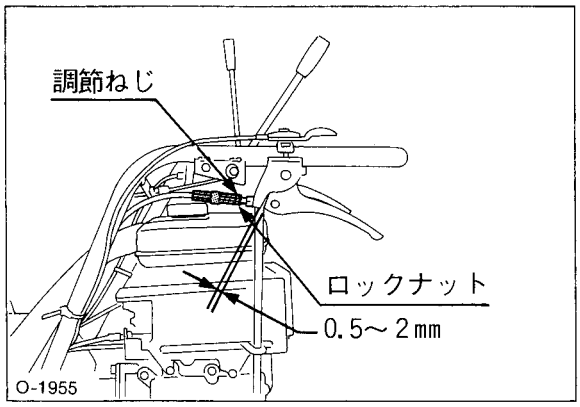
重 要

＊調整後，調節ねじのロックナットは確実に締付けてください。

◆操向クラッチワイヤの調整

操向クラッチレバーを握っても，操向クラッチが切れにくいときは調整してください。

(1)操向クラッチの入った状態で，レバーに0.5～2㎜の遊びがあるようにしてください。



(2)切れにくいときは調節ねじを長くし，入りにくいときは短くします。

重 要

＊調整後，調節ねじのロックナットは確実に締付けてください。

■刈刃の整備

注 意

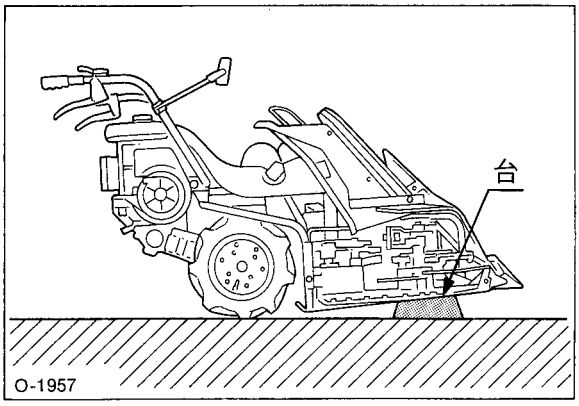
＊手を切らないよう取扱いはじゅうぶん注意してください。

＊１輪仕様は転倒しないよう，特に安定した状態にしてください。

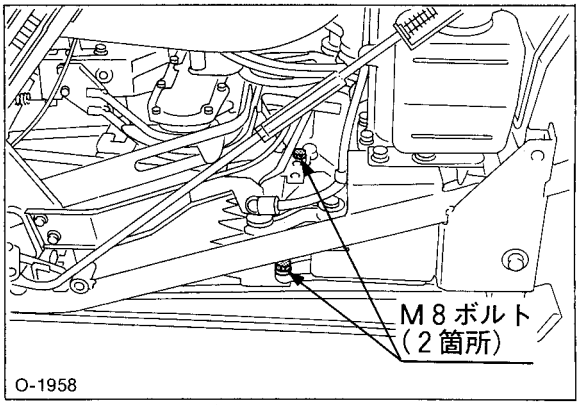
刈刃はいつもよく切れるように整備してください。

◆刈刃の外しかた

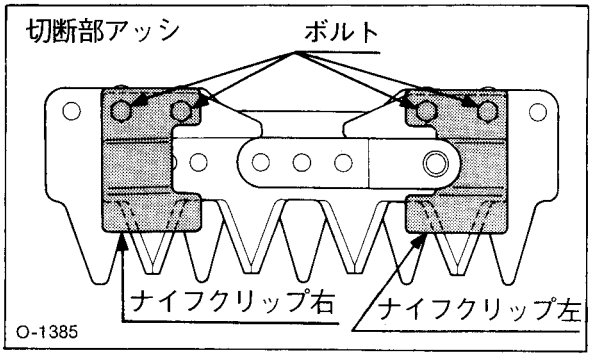
❶バインダーの前方を高くして，結束機又はフレームの下に台をかませます。



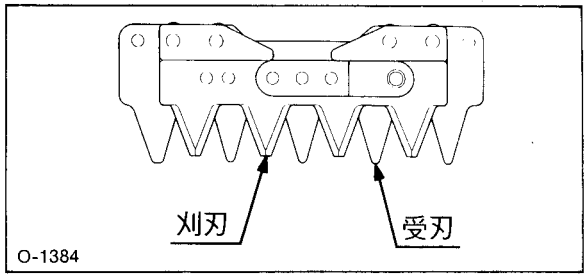
❷受刃の２箇所のM8ボルト，ナットを外して，刈刃・受刃セットで外します。



❸ナイフクリップ左右の取付けボルト，ナットを外します。



❹刈刃と受刃が外れます。



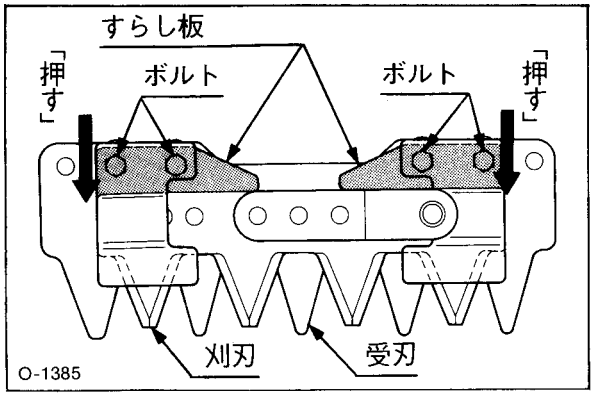
＊取付けは，上記の逆の順序で行なってください。

◆刈刃・受刃の研削

研削は危険ですので，販売店・JA農協に依頼してください。

◆すらし板の調整

(1)刈刃の背面を支えているのがすらし板です。刈刃と受刃の前後方向のガタが発生した場合は，前方向に押して刈刃と接するようにして組付けてください。



(2)1シーズン使用ごとに点検してください。

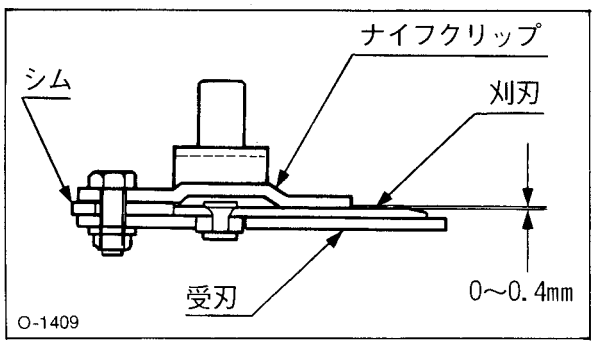
◆刈刃とナイフクリップのすき間調整

刈刃と受刃のすき間がうまく調整できていないと，作物をきれいに刈取ることができません。

(1)すき間が大きいと，刃の切れが悪くなって，刈刃と受刃の間にわらくずや草が詰まります。

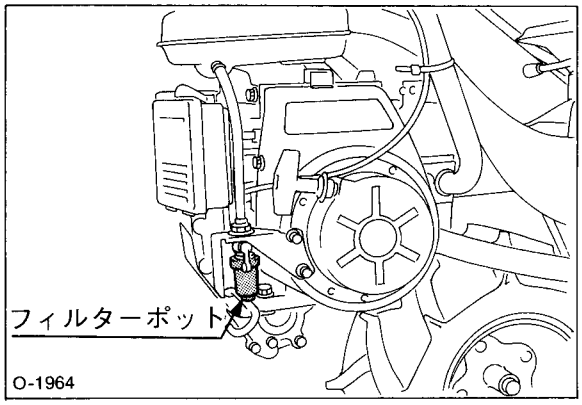
(2)逆に押えすぎると，摩耗が大きくなって，刈刃やナイフクリップのすき間が大きくなります。

(3)ナイフクリップ取付け部のシムの枚数を増減して，刈刃とナイフクリップのすき間が0～0.4mmになるように調節してください。



■フューエルフィルタの掃除

フィルタポットにほこりや水などが溜っている場合は，フィルタポットを外して，中のこしあみをガソリンで洗浄してください。



■電気配線の損傷及び接続部のゆるみの点検

配線の端子部のゆるみは接続不良になり，また配線が損傷していると電気部品の性能をそこなうだけでなくショートまたは焼損など思わぬ事故になることがあります。傷んだ配線は早めに交換，修理してください。

◆点検箇所

○エンジン高圧コード　○プラグコード
○ランプコード，及び接続部【D仕様】

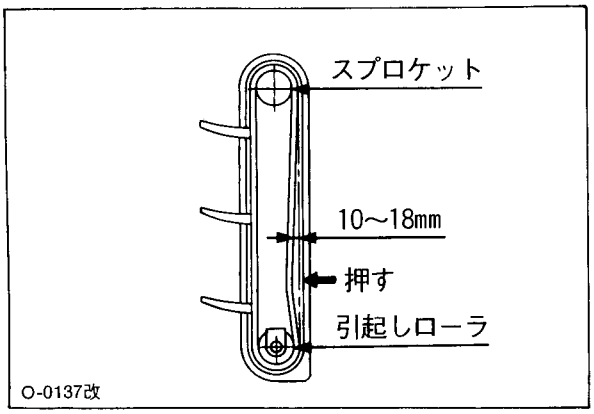
都度の整備

■引起しチェーンの張り調整

チェーンの張りがゆるいと，引起しの効果が低下し，また引起し爪の摩耗や損傷の原因になります。

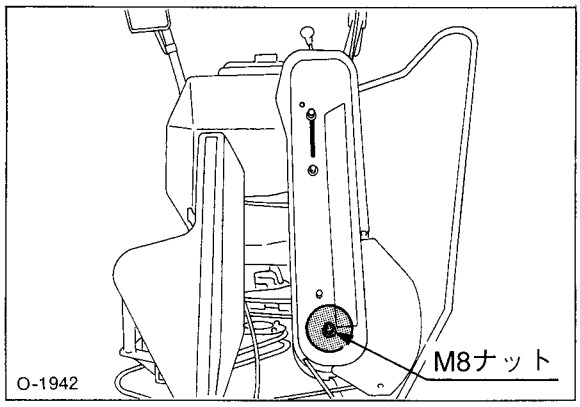
◆張り強さ

図の位置で内側に押して，10～18 mmたわむ程度に調整してください。



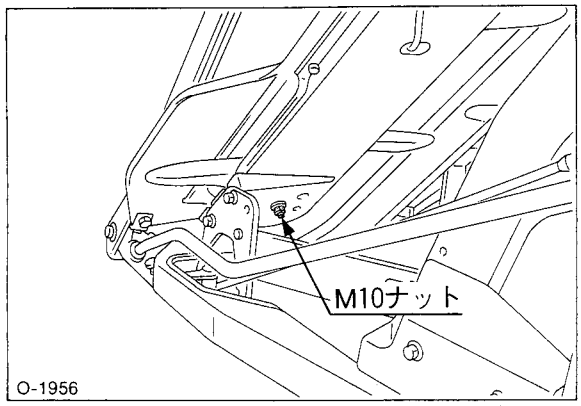
◆張りかた

❶引起し枠カバーのM８ナットをゆるめます。



❷引起し枠下部の，スプロケット軸締付けのM10ナットをゆるめます。

❸スプリングの力でチェーンを張ります。



❹調整後，ゆるめたナットを確実に締付けてください。

重 要

＊チェーンをあまり強く張りすぎると，破損の原因になります。張りすぎないように注意してください。

■安全ピンの交換

注 意

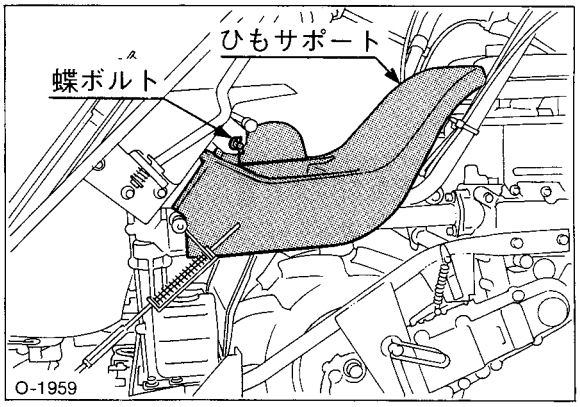
＊安全ピンの交換をする場合は，必ずエンジンを止めて行なってください。

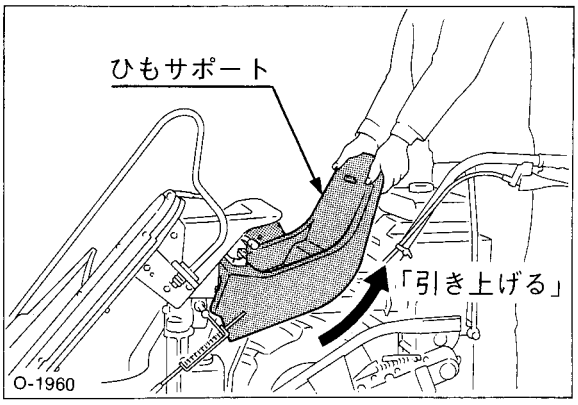
異常な力がかかった場合，部品の破損を防ぐ為に安全ピンを使用しております。
安全ピンは，付属品の予備品と交換してください。

◆交換要領

❶エンジンを**“停止”**し，安全ピンが切れた原因を取除いてください。

❷ひもサポートを取付けている蝶ボルトをゆるめて，ひもサポートを外してください。

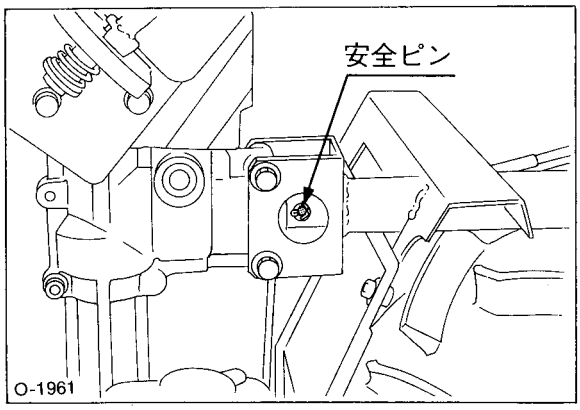




❸切れた安全ピンが残っていれば，取除いてください。

重 要

＊切れた安全ピンの残りが軸穴に残っていないか調べ，取除いてください。

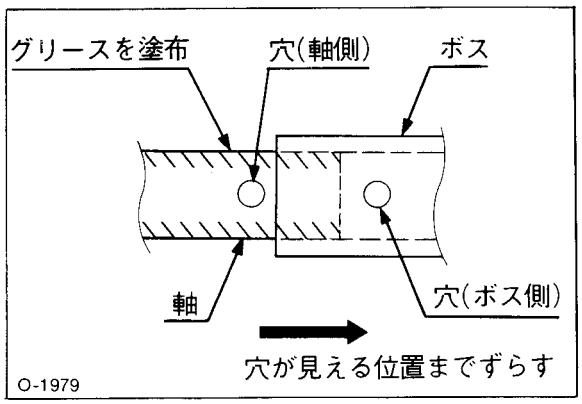


❹**【20】のお客様へ**

走行クラッチレバーを**“入”**にして，軸とボスのピン穴を合わせてください。
軸とボスのピン穴がずれている場合は，刈取りクラッチレバーを**“切”**，走行クラッチレバーを**“切”**にして，ボスを軸側のピン穴が見える位置までずらし，穴位置を合わせた後，ボスを元の位置に動かして，軸とボスのピン穴を合わせてください。

❹**【30】のお客様へ**

シャトルシフトレバーを**“前進”**にして，軸とボスのピン穴を合わせてください。
軸とボスのピン穴がずれている場合は，刈取りクラッチレバーを**“切”**，シャトルシフトレバーを**“N”**(中立)にして，ボスを軸側のピン穴が見える位置までずらし，穴位置を合わせた後，ボスを元の位置に動かして，軸とボスのピン穴を合わせてください。

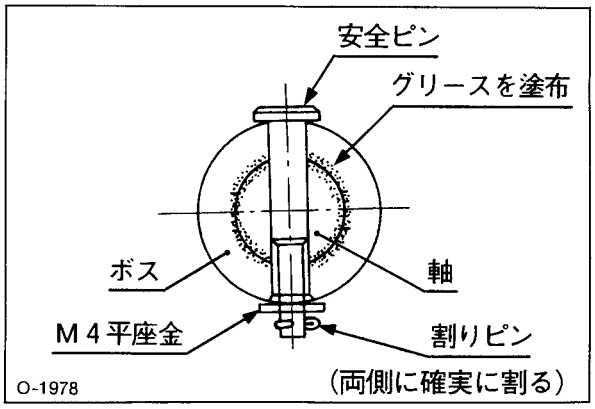


❺軸とボス穴に安全ピンを入れ，M4平座金を組込み，割りピンを両側に確実に割ってください。

重　要

＊安全ピンはヒューズと同じ役目をします。代用品は使わないでください。

＊ボスと軸を分解したときは，ボスの内面及び軸かん合面に，グリースを塗布してください。



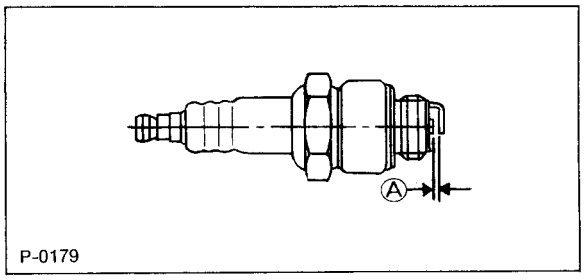
■点火プラグの調整

注　意

＊エンジンの点検，調整，交換，掃除はエンジン“停止”後，冷えた状態で行なってください。

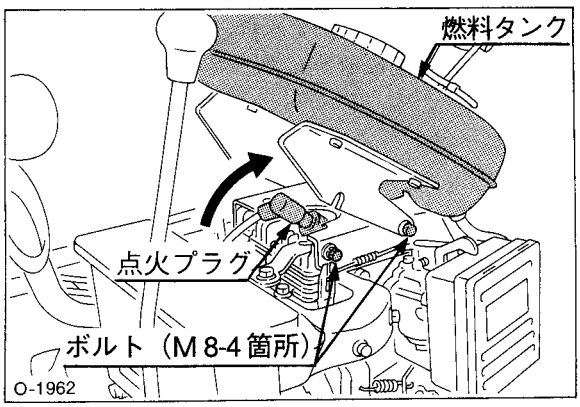
電極すき間が，Ⓐ寸法になるように，調整してください。

品　番	Ⓐ
13742-6771-1	0.9～1.0mm



❶ひもサポートをはずしてください。（47ページ参照）

❷付属工具の12-14ボックススパナでM8ボルト4箇所をゆるめ、燃料タンクを上げ，付属の17-21ボックススパナで，点火プラグを外してください。



❸点火プラグを取付け，燃料タンクを閉じて，M8ボルトを締付けてください。

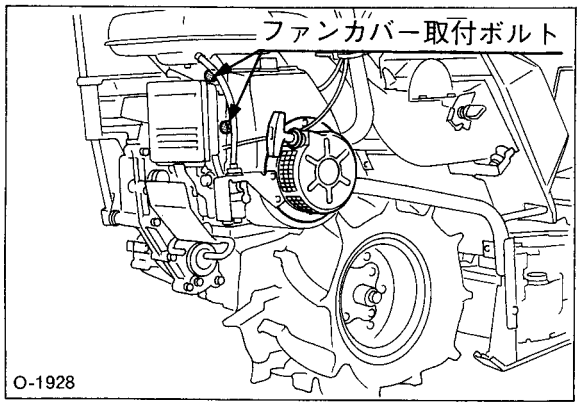
❹ひもサポートを取付けてください。

重　要

＊点火プラグを取付けるとき，はじめ手でねじこんでから，ボックススパナを使用してください。
はじめからボックススパナで締付けると，シリンダヘッドのねじ山をつぶすことがあります。

■冷却フィンの掃除

ファンカバーを外し，シリンダやシリンダフィンに詰まっている，わらくずや泥などを取除いてください。

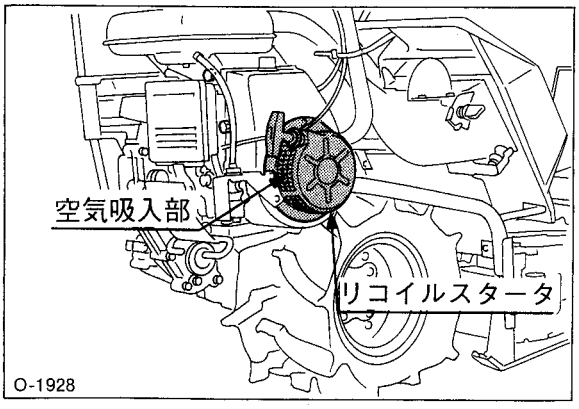


重　要

＊ファンカバーを取付けるとき，コード類をファンカバーで，はさみ込まないように注意してください。

■リコイルスタータの空気吸込み部の掃除

空気吸込み部のあみにわらくずや土が詰まると，エンジンがオーバヒートしますので取除いてください。



使用後の手入れと長期格納

使用後の手入れ

バインダーをいつまでも長持ちさせ，性能を低下させないために，使用後は手入れ，掃除をしてください。特に回転部や刈刃部に付いた雑草，わらくずなどは完全に取除いてください。

長期格納のときの手入れ

注 意

＊本機カバーはエンジンが冷えてから掛けてください。エンジン“停止”直後に掛けると，火災を起こすことがあります。

＊注油するときは，必ずエンジンを止めて行なってください。

重 要

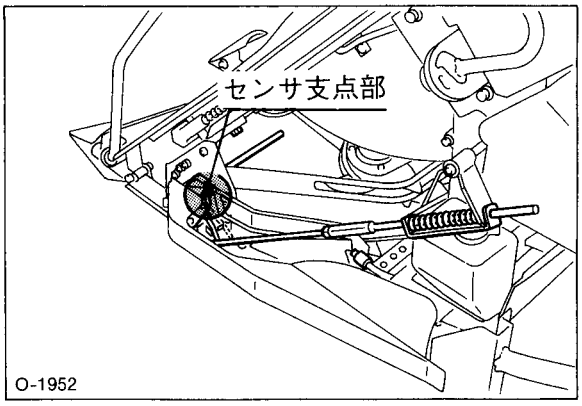
＊スチーム洗車機で洗車する場合は，銘板に直接スチームがあたらないように洗車してください。水圧で銘板がはがれることがあります。

(1)機体の土や泥などの汚れをきれいに水で洗い落とし，そのあと水分が残らないようにふき取ってください。

(2)機体が乾いた後，引起しチェーン，刈刃などは，錆びないようにオイルを注油するか，グリースを塗ってください。
特に各回転部，支点等日頃注油していないところにも注油して，錆びないようにしてください。
また**“クボタキレスガードスプレ”**を吹付けておくとより効果的です。

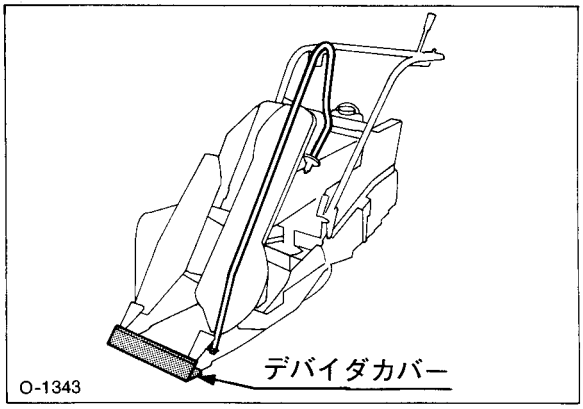
(3)塗料のはがれた箇所には修正塗料などを塗るか，グリースを塗って錆びないようにしてください。

(4)センサ支点部に注油してください。**【D仕様】**

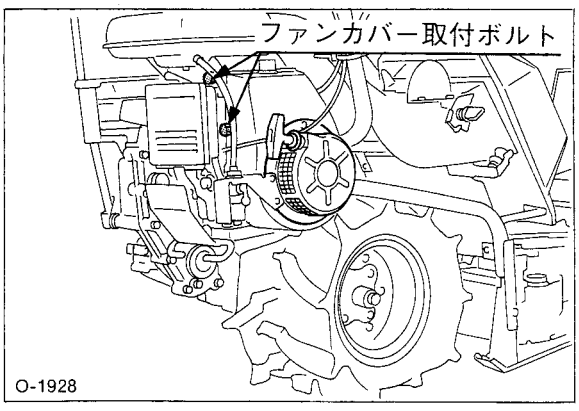


(5)刈取りクラッチレバーは**“切”**にしてください。

(6)デバイダの先端に，デバイダカバーを取付けてください。



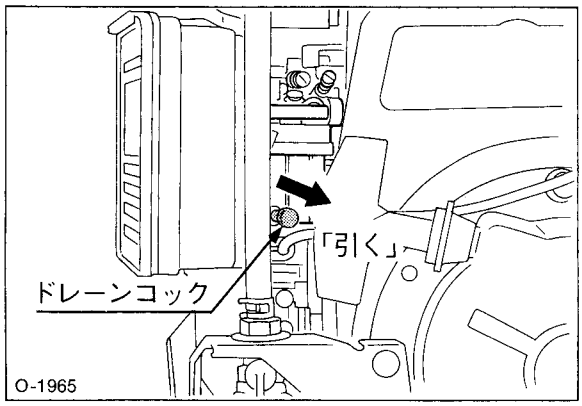
(7)ファンカバーを外し，シリンダヘッドやシリンダフィンに詰まっているわらくずや，泥などを取除いてください。



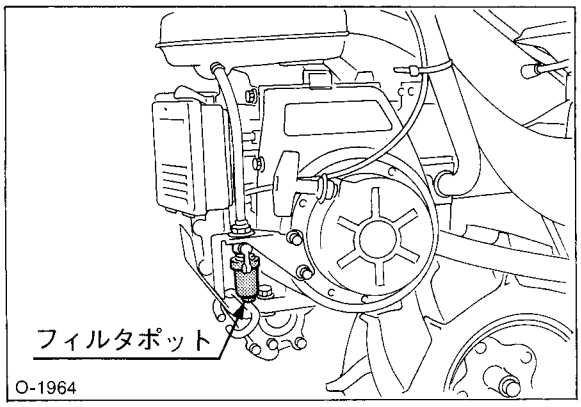
(8)エアクリーナカバーを外して，エレメントのごみを落としてください。すすや油分が付着しているときは，中性洗剤で洗った後，真水ですすぎ洗いし，じゅうぶん自然乾燥させて組付けてください。

(9)点火プラグを抜いて，プラグ穴からエンジンオイルを5～10cc注入し，リコイルスタータを２～３回軽く引っ張った後，点火プラグを元のように取付け，スタータハンドルを引っ張って，重く手ごたえのある位置(圧縮位置)で止めてください。

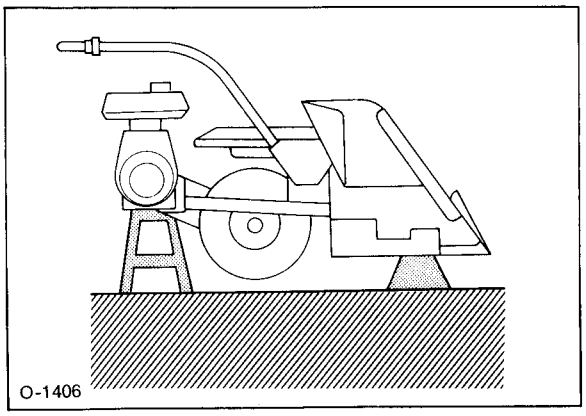
(10)ガソリンを入れたままにしておくと，気化して，次の始動が困難になります。
燃料タンク内はポンプなどで，気化器内のガソリンは，ドレーンコックを引いて全部抜取ってください。



(11)フィルタポットを外し，こしあみをガソリンできれいに洗浄してください。



(12)タイヤの空気圧を規定圧力通り入れ【30】，必ず機体の前後に台などをかませて地面から浮かせて保管してください。 (24ページ参照)



(13)乾燥した場所に，ほこりのかからないように本機カバーをかけて保管してください。

重 要

＊ごみやわらくずを取除くときは，自動注油装置の配管ホースをきずつけないように注意して行なってください。【D仕様】

＊ファンカバーを組付けるときは，コード類をファンカバーではさみ込まないように注意して組付けてください。

使用者が行なってはいけない修理

下記部分に異常があるときは，お買上げの販売店，JA農協に依頼してください。

・エンジン・ミッションケース・動力伝達系統部分・結束部・電気系統

・結節部の部品交換・刈刃，受刃の研削および交換

使用済廃棄物の処分について

機械の廃油をむやみに捨てると環境汚染になります。
機械から廃油を抜く場合は，容器に受けてください。
地面へのたれ流しや川，沼への廃棄は絶対にしないでください。
廃油・燃料・その他有害物を捨てるときは，販売店，又は産業廃棄物処理業者に依頼してください。

結束ミスが出たら・・・

注 意

＊点検・調整・処置は，必ずエンジンを止めて行なってください。

結束ミスが出たときの点検

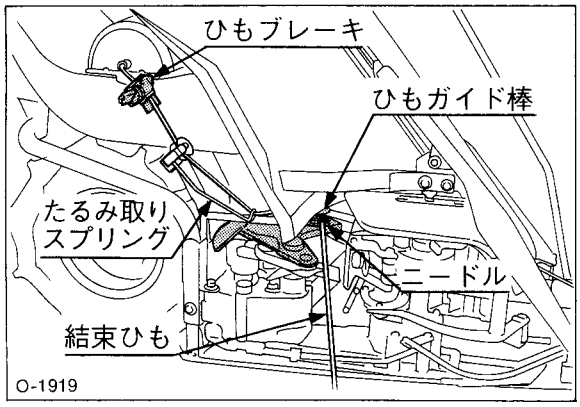
結束しないで放出されたり，連続して3回結束しない状態が起こった場合は，次のことを調べてください。

(1)ひもの取出し方向が，間違っていないかを調べてください。
反対に取出されていると，ひもがからんで，ひもブレーキのところに引っ掛かります。(25ページ参照)

(2)ひもの通し方が間違っていないか、外れているところがないか調べてください。
ひもブレーキや，たるみ取りスプリングから外れていることがあります。

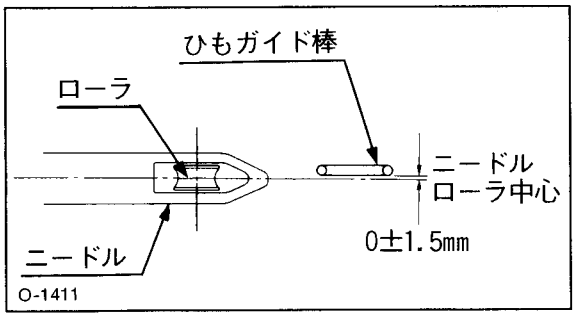
重 要

＊ひもブレーキはあまりさわらないでください。
ひもブレーキが強すぎると，ひも切れ，ホルダ抜け，片結びなどの結束ミスの原因になります。



(3)ひもが切れたり，どこかに引っ掛かっていないか調べてください。

(4)ニードルとひもガイド棒の位置関係がずれていないか調べてください。



(5)ビルに，わら・ひもなどが巻付いていないか調べてください。

(6)ホルダに，わらくずやひもの切れはしがたまっていないか調べてください。

(7)ホルダのひも挟持面にオイルがついていないか調べてください。

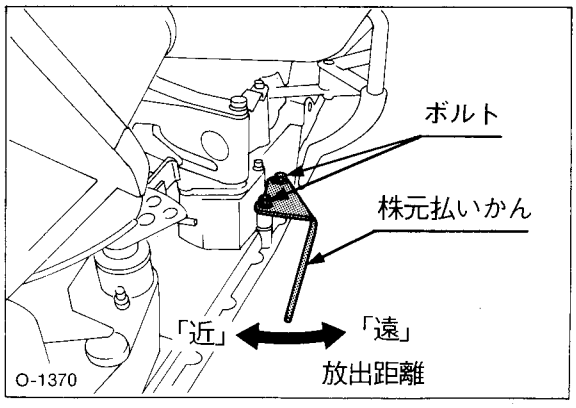
束の放出が悪いとき

束が斜めになって放出しなくなったり，ドアに引っ掛かったりするときは，

(1)一度機体を止めて，放出されなかった束を完全に取除き，搬送部，結束部のわらのたまり場の土やごみを，きれいに掃除してください。

(2)株元払いかんの位置を調節してください。
調節は，ボルト２箇所をゆるめて出し入れしてください。

(3)バインダーを少しバックさせてから，再び刈取りを始めてください。
放出の悪いままで作業を続けると，作物をいためたり，結束部に無理を与え，故障の原因になります。
放出の状態に注意しながら，作業してください。



結束ミスの原因と処置

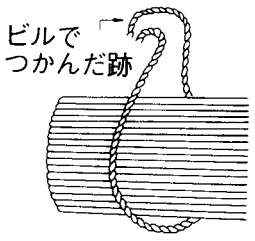
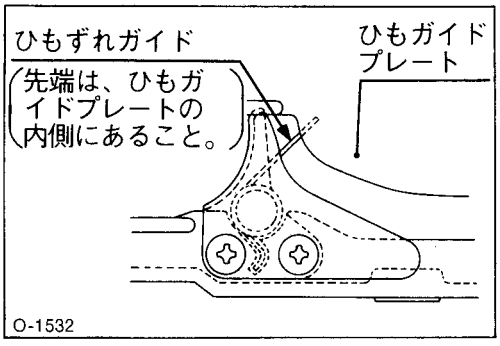
注　意

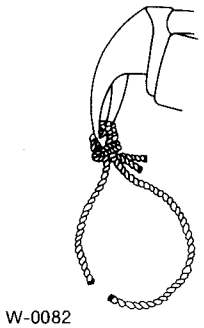
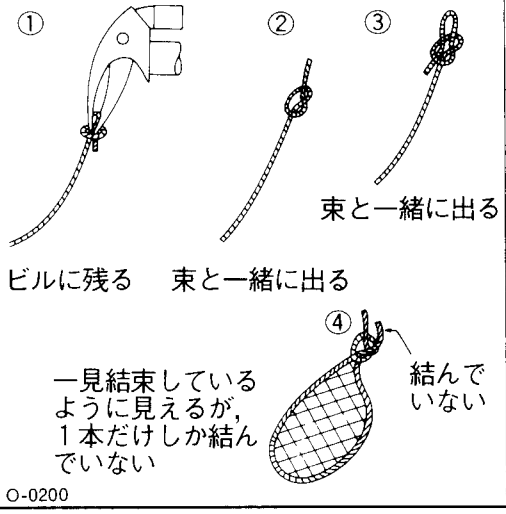
＊点検・調整・処置は，必ずエンジンを止めて行なってください。

結束ミスが３回連続して出たときには，刈取りを中止し，下表を参考にして原因を調べ，正しい処置をとってください。

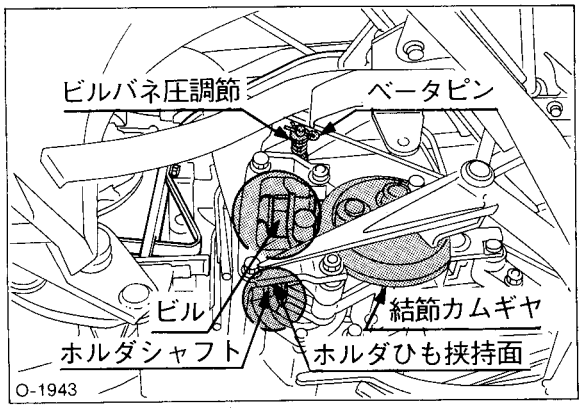
重　要

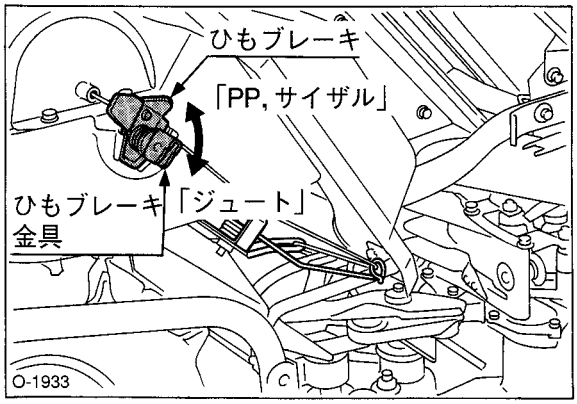
＊印は販売店・JA農協に連絡して，修理してもらってください。

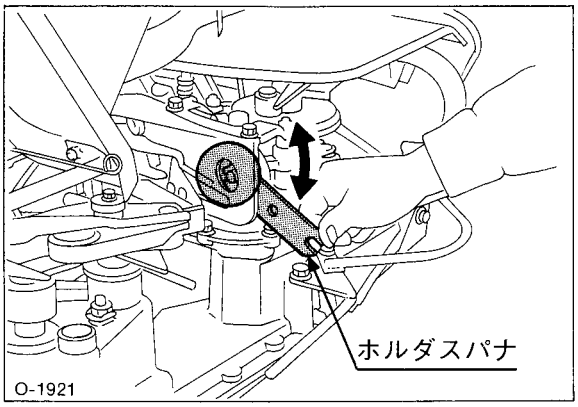
状　態	原　因	処　置
(1)パチンコ ひもは，ビルの先端(鳥の口ばしのような部分)でつかんだ跡があり，作物の上にあります。これは，ビルの先端がひもをつかむとき，口ばしの一番先でつかむために，結び目のループができなくて，そのまま外れて起こるミスです。 **ごくまれに1･2回起こるだけですから，作業を続けてさしつかえありません。**  W-0081	**ビルの先端を開閉するローラを押えているビルバネ圧が弱い。**	**ベータピンを抜き一段下側の穴にセットし，バネ圧を強くする。** (54ページ参照)
	＊ビルの口ばしの先端が摩耗している。	ビルを新品と交換する。
	搬送部の下の部分に，雑草や土泥がたまって，株元の横送りが悪く，ビルがニードルによってひもといっしょに持込まれた作物をつかむ。	搬送部にたまった雑草や土泥をきれいに取除く。
	ひもブレーキの作用が悪い。 ①ひもブレーキから外れている。 ②ひもブレーキに異物がたまっている。	①正規の位置に通す。 ②異物を取る。
	ベベルピニオンと結節カムギヤとのすき間が広く，ビルにがたがある。	結節カムギヤのシムを抜いてがたを少なくする。
 O-1532	**ビルの開閉の作動が悪い。**	**ビル押え支点，ビルローラに注油する。** (11ページ参照)
	ひもずれガイドの先端が，ひもガイドプレートの外側に出ている。	ひもずれガイドの先端を，ひもガイドプレートの内側に入れる。

状　　態	原　　因	処　　置
(2)ひも切れ 結び目は正しくできているのに，ひもが途中で切れて，作物は結束されないまま放出されます。これは，結束の途中でひもが切れて起こるミスで，結んだひもはビルに引掛かったまま残ります。そのまま作業を続けると，ひもがビルに巻付いて故障の原因になるので，すぐ作業を中止して取除いてください。**ひも切れは，連続して起こるので，作業を続けることはできません。**  W-0082	**ひもが弱い。** **(特に水にぬれたジュートひも)**	**クボタ指定ひもかどうか，水ぬれしていないか調べる。** (27ページ参照)
	＊ビル先端の引掛かり形状が悪くてひもが抜けない。	細かい紙やすり等で滑らかにする。
	ホルダバネキャップの切換えが不適。	**ホルダバネキャップを指定のひも位置にセットする。** (24ページ参照)
	ホルダの動きが悪い。	ホルダシャフトのスプライン部に注油する。(54ページ参照)
	ひもブレーキバネの取付け位置が不適。	**ひもブレーキバネを、その時点のセット位置よりゆるめの位置にセットする。** (25ページ参照)
	ビルバネ圧が強すぎて，ビルの先端からひもが抜けない。	**ベータピンを抜き一段上側の穴にセットし，バネ圧を弱くする。** (54ページ参照)
(3)片結び 次のように4種類あります。 ①～③はすぐわかりますが，④は作物が結束された状態で放出されるので，刈取作業中は発見できません。 1本のひもだけで結び目を作っているので束を持上げるときに，ひもを引っ張ると，一方がぬけて作物がばらばらになります。  O-0200	ホルダ部にわらくずや，ひもくずがたまっている。	掃除をする。
	ひもブレーキバネの取付け位置が不適。	**ひもブレーキバネを指定のひも位置にセットする。** (25ページ参照)
	＊ひもガイドプレートのひもガイドから，ひもが外れる。	ひもガイドを交換する。
	＊パッカアームとニードルのタイミングが悪い。	販売店・JA農協に連絡して修理してもらう。
	ベベルブラケットとホルダの挟持面にオイルが付着している。	オイルをふき取る。
	ホルダバネキャップの切換えが不適。	**ホルダバネキャップを指定のひも位置にセットする。** (24ページ参照)

状　　態	原　　因	処　　置
(4)ひも抜け 結束のあと，ホルダにひもが残らず，外れてしまっているために起こるミスです。 ひも抜けになると，次の束から連続して結ばないので，作業を続けることができません。	ひもがひも通し経路中でもつれ，またはどこかに引っ掛かった場合。	ひもの取出し方向が間違っていないか，通し方は間違っていないか確認する。 (24ページ参照)
	ホルダ部分にわらくずや，ひもくずがたまっている。	掃除をする。
	ひもブレーキバネの取付け位置が不適。	**ひもブレーキバネを指定のひも位置にセットする。** (25ページ参照)
	ホルダバネキャップの切換えが不適。	**ホルダバネキャップを指定のひも位置にセットする。** (24ページ参照)
	ホルダの動きが悪い。	ホルダシャフトのスプライン部に注油する。 (54ページ参照)
	ベベルブラケットとホルダの挟持面にオイルが付着している。	オイルをふき取る。







【20−D】のお客様へ　（ランプ・自動刈取りクラッチ・自動注油装置・フィンガーシャトル付）

自動刈取りクラッチの操作のしかた

注　意

＊自動刈取りクラッチは，ほ場でのみ使用してください。
＊センサ切換えレバーの操作は，エンジンを止めて行なってください。
＊エンジン回転中は危険ですから，自動刈取りクラッチ装置（特にセンサ）には，絶対に手を触れないでください。刈取部が動き出します。
＊刈取部に触れるときは，エンジンを必ず止めてください。
＊自動刈取りクラッチ装置の点検・調整・掃除をするときは，エンジンを止めてください。
＊刈取り作業終了後，機械を格納するときは，刈取りクラッチレバーを必ず“切”にしてください。

センサ切替えレバーの位置	使　用　条　件
自　動	普通の刈取り作業(倒伏角度0～45度)
手　動	(1)完全倒伏，湿田作業 (2)不定形ほ場作業 (3)機械を停止し，刈取部のみ動かす場合。 （例：ひもを通すとき，注油するとき）

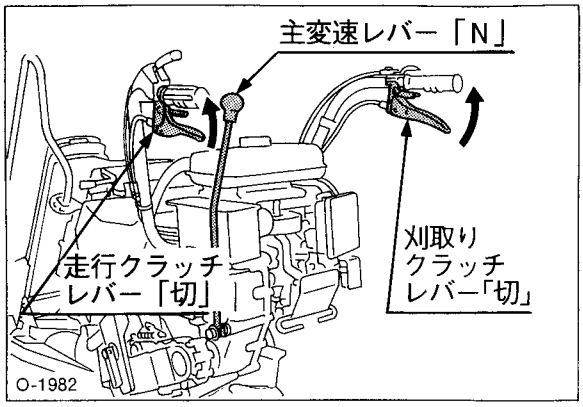
自動刈取りクラッチの調整

注　意

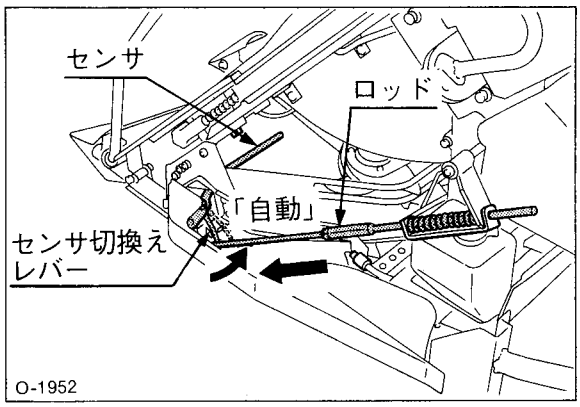
＊刈取部が回りますので，刈刃・引起しチェーン・引起し爪・パッカアーム・放出アームなど，作動部には絶対にさわらないでください。
＊センサには絶対にさわらないでください。

自動刈取りクラッチ装置はさわらないでください。
もし分解した場合は，次の順序で調整してください。

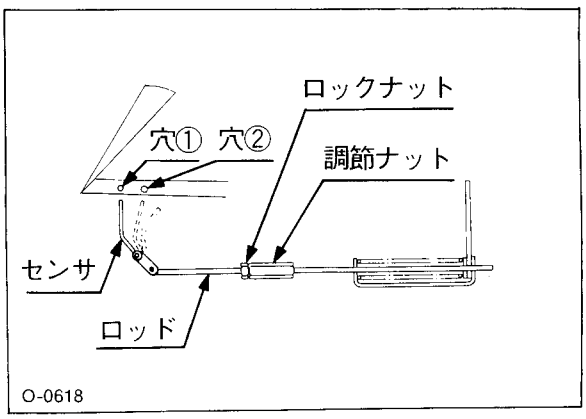
❶走行クラッチレバーが**“切”**，刈取りクラッチレバーが**“切”**，主変速レバーが**“N”**(中立)になっていることを確認してください。



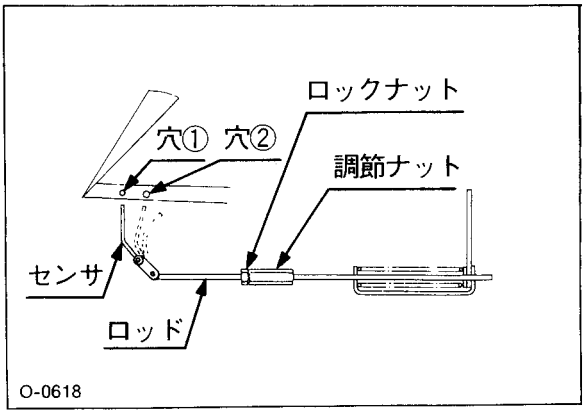
❷センサ切換えレバーを**“自動”**の位置にセットしてください。
❸主変速レバーを**“N”**(中立)の位置にしてください。
❹アクセルレバーは**“始”**位置にし，エンジンを始動してください。
❺刈取りクラッチレバーを**“入”**にしてください。
❻走行クラッチレバーを**“入”**にしてください。
❼ロッドを←の方向にゆっくり押し，刈取部が回り始めるときのセンサの先端位置をみてください。



❽センサの先端が図の**“穴②”**の後で刈取部が回り始める場合は，調節ナットを**“ロッドを短かくする”**方向に調節してください。



❾センサの先端が“穴①”の前で刈取部が回り始める場合は，調節ナットを“ロッドを長くする”方向に調節してください。



❿調節が終ったら，調節ナットをロックナットでロックしてください。

⓫調整が終ったら，走行クラッチレバーと刈取りクラッチレバーを“切”にし，エンジンを“停止”してください。

自動注油装置による注油

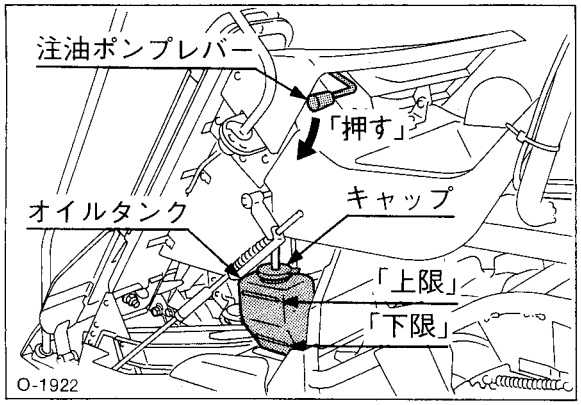
注 意

＊注油するときは，主変速レバーを“N”(中立)にし，エンジン回転を“🐢”(低速)にして，刈取部を回しながら行なってください。

＊刈取部を回すときは，周囲の人に合図し，安全を確認してください。

■オイルタンクへの給油

オイルが“下限”線(LOW)以下になったら，キャップを外して，“上限”線(FULL)まで入れてください。



重 要

＊オイルはクボタ純オイルG30(ガソリン・灯油エンジン用)を使用してください。
M90(ミッション用)や廃油などを使用すると，確実な注油ができなかったり，注油ノズルが詰まったりすることがあります。

■自動注油の操作

(1)初めて使用するとき，又は配管ホースにオイルがなくなったときは，満たされるまでレバーを操作し，満たされた後１～２回押してください。

(2) 注油は，20～30アール使用ごとに，レバーを１～２回押してください。

重 要

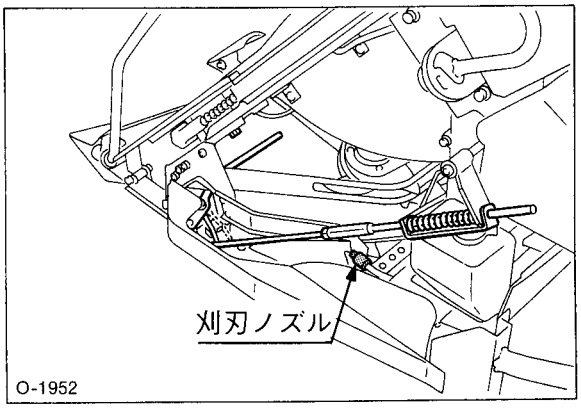
＊レバー操作は２回までにしてください。

＊ノズルの注油口に土やわらくずなどが詰まった場合は，掃除してください。

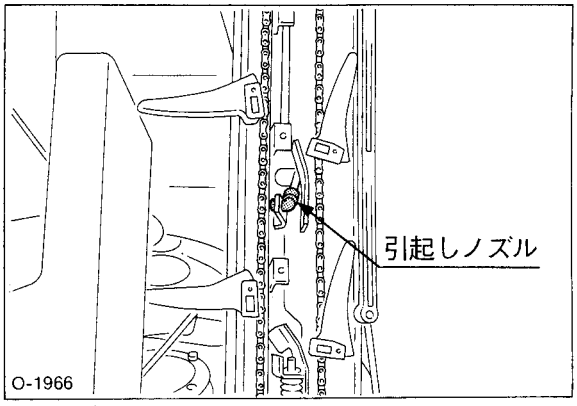
■自動注油による注油箇所

次の箇所に適量のオイルが注油されます。

◆刈刃



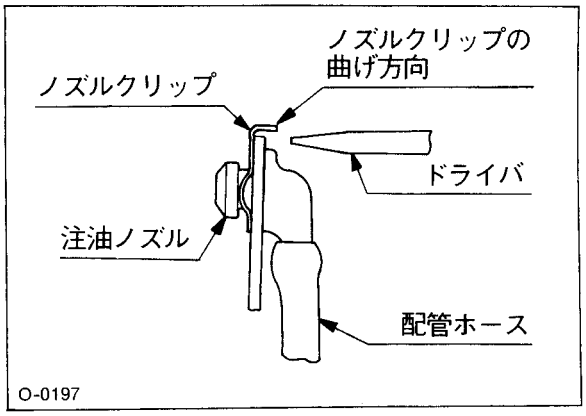
◆引起しチェーン



■注油ノズルの外し方

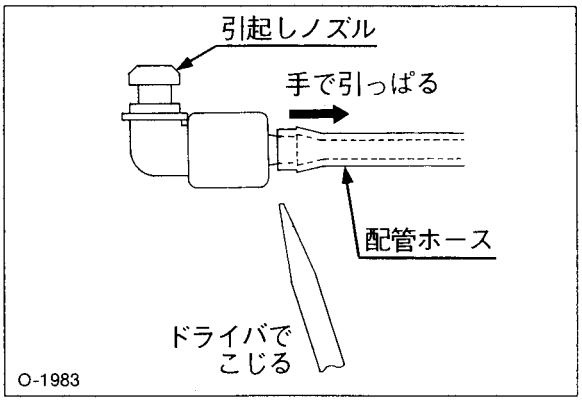
(1)ノズルの詰まりなどで注油ノズルを外すときは，図のようにドライバなどでノズルクリップを外してください。

(2) 取付けのときは，ノズルクリップの曲り部を図の方向にして押込んでください。



■配管ホースの外し方

機械の分解調整や配管ホースの交換などで配管ホースを外すときは，図のように手で配管ホースをまっすぐ引っ張りながらドライバなどで配管ホースの端をこじて外してください。



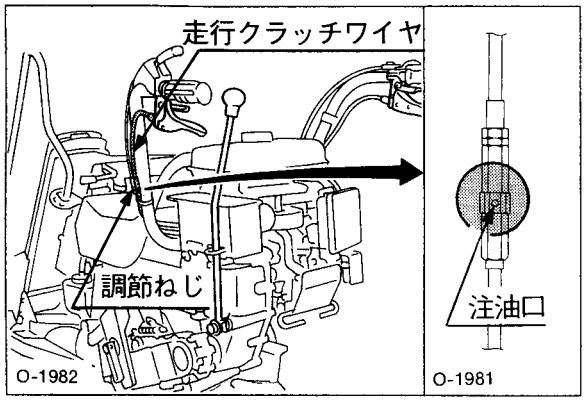
重 要

＊ホースをひねったり横方向に引っ張るとノズルのホースの差込み部が折れることがあります。

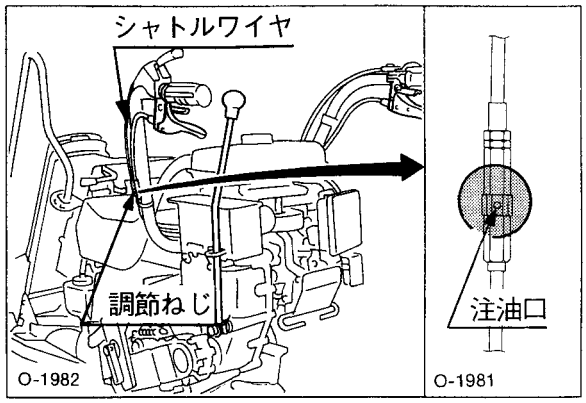
＊配管ホースが古くなったり，傷がついたら，新しいホースと交換してください。ホースは純正部品を使用してください。新しいホースを取付けるときは，ノズルにいっぱい差込んでください。

■手動注油箇所

◆走行クラッチワイヤ

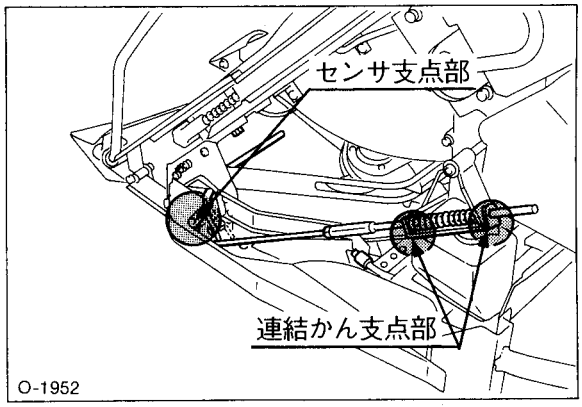


◆シャトルワイヤ



◆センサ支点部

◆連結かん支点部



フィンガーシャトル操作のしかた

注 意

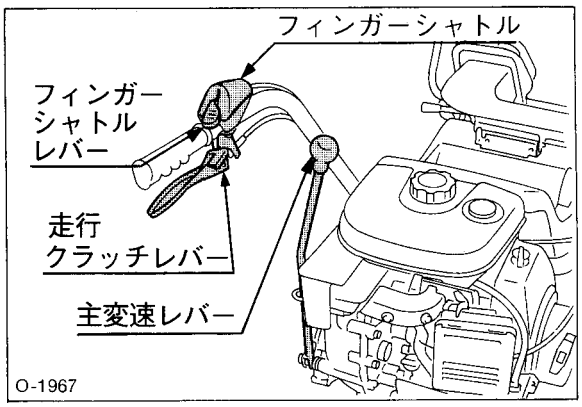
＊フィンガーシャトルレバーの操作は，必ず，走行クラッチレバーを“切”にして行なってください。

■発進のしかた

❶主変速レバーを“1，2速”の希望の位置に入れてください。

❷フィンガーシャトルレバーを“前進”または，“後進”位置に入れてください。

❸走行クラッチレバーのロックレバーを下方に押し，“入”にすると機体は発進します。

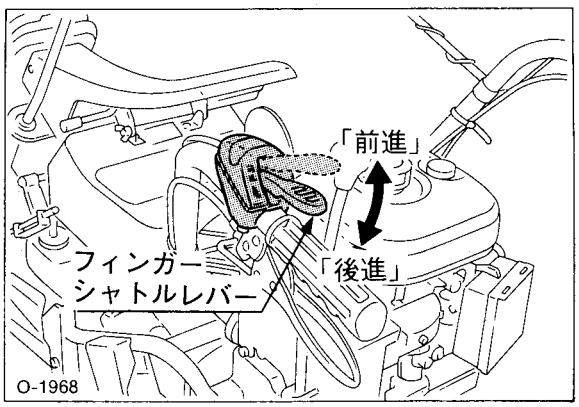


■前・後進変速のしかた

作業，又は移動の途中で，前後進変速する場合は

❶走行クラッチレバーを“切”にし，機体を止めてください。

❷“後進”の場合は，フィンガーシャトルレバーを指で押し下げ“後進”位置の切欠溝部に止めます。“前進”の場合は，フィンガーシャトルレバーを切欠溝より，指で解除すると“前進”位置に戻ります。



重 要

＊走行クラッチレバー“入”の場合は，前進から後進へ変速はできません。

＊主変速レバーが“N”(中立)の場合は，前進から後進へ変速できません。

＊フィンガーシャトルレバーが“後進”の場合は，主変速レバーは“N”(中立)に変速できません。

＊機体が後進している場合は主変速レバーは“N”（中立）に操作しないでください。

重 要

＊主変速レバー，走行クラッチレバーの位置によるフィンガーシャトルレバー操作の可否は次の通りです。

主変速レバー	走行クラッチレバー	フィンガーシャトルレバー	機械の作動
1速または2速	切	前・後進の切換え可	前進又は後進可能
1速または2速	入	前進から後進への切換え不可	前進
N(中立)	切又は入	前進から後進への切換え不可	動かない
N(中立)への変速不可	切	後進	動かない

■走行クラッチワイヤの調整

注 意

＊調整の確認は，エンジン回転を“🐢”(低速)で行なってください。

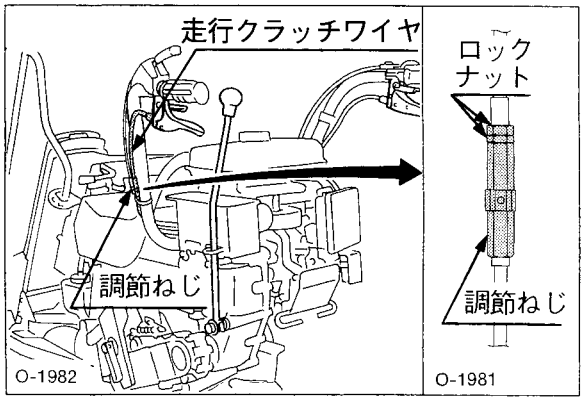
走行クラッチレバーを**“入”**にしても動力を伝達しない，または**“切”**にしても動力が伝達される場合は，次のように調節してください。

❶走行クラッチワイヤの調節ねじで，爪クラッチのかみ合い深さを調整してください。

❷走行クラッチレバーを**“入”**に入れても動力を伝達しない場合は，調節ねじを短くします。

❸走行クラッチレバーを**“切”**に戻しても動力が伝達される場合，調節はミッション内部で**“カチカチ”**と音が発生した状態より，調節ねじを長くする方向に更に４～4.5回まわしてください。

❹調整が終ったら，ロックナットは確実に締付けてください。



■シャトルワイヤの調整

注 意

＊調整の確認は，エンジン回転を“🐢”(低速)で行なってください。

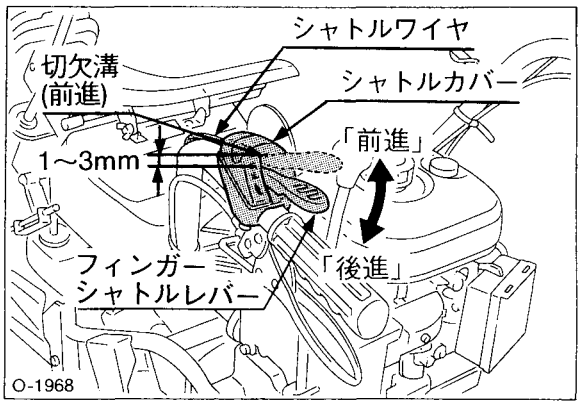
フィンガーシャトルレバーを**“後進”**に入れても**“前進”**する場合，また**“前進”**に入れても**“後進”**する場合は主変速レバーを**“１速”**に入れ，次の様に調整してください。

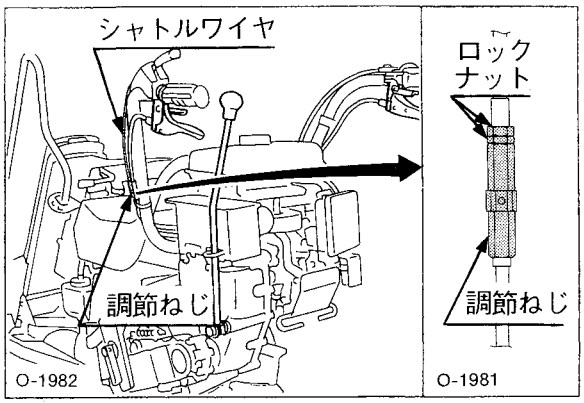
❶主変速レバーを**“１速”**，走行クラッチレバーを**“切”**にし，シャトルレバーを**“前進”**にしてください。

❷フィンガーシャトルレバーの上面と，シャトルカバーの前進側の切欠溝とのすきまが，１～３mmになるまで，シャトルワイヤの調節ねじを長くしてください。

❸ワイヤ調節後，エンジンを始動してください。

❹シャトルレバーを**“後進”**にし，走行クラッチレバーを**“入”**にして，機体が後進することを確認してください。





重 要

＊調節後は，調節ねじのロックナットを確実に締付けてください。

【30−D】のお客様へ

（ランプ・自動刈取りクラッチ・自動注油装置付）

自動刈取りクラッチの操作のしかた

注 意

＊自動刈取りクラッチは，ほ場でのみ使用してください。
＊センサ切換えレバーの操作は，エンジンを止めて行なってください。
＊エンジン回転中は危険ですから，自動刈取りクラッチ装置（特にセンサ）には，絶対に手を触れないでください。“刈取部”が動き出します。
＊“刈取部”に触れるときは，エンジンを必ず止めてください。
＊自動刈取りクラッチ装置の点検・調整・掃除をするときは，エンジンを止めてください。
＊刈取り作業終了後，機械を格納するときは，刈取りクラッチレバーを必ず“切”にしてください。

センサ切替えレバーの位置	使 用 条 件
自 動	普通の刈取り作業(倒伏角度0～45度)
手 動	(1)完全倒伏，湿田作業 (2)不定形ほ場作業 (3)機械を停止し，刈取部のみ動かす場合。 （例：ひもを通すとき，注油するとき）

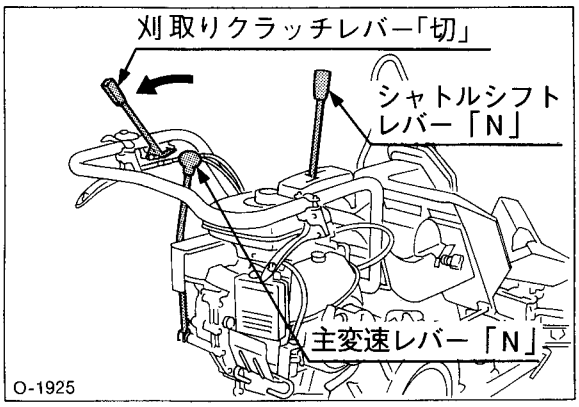
自動刈取りクラッチの調整

注 意

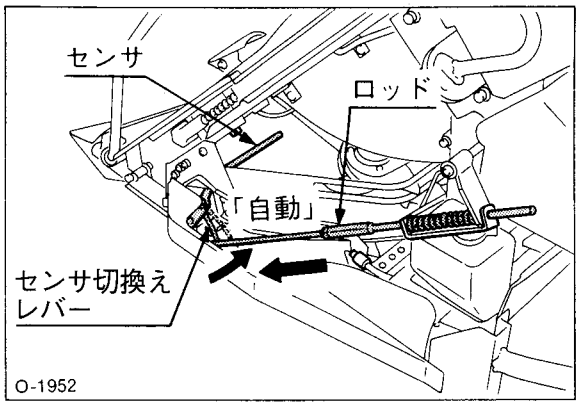
＊刈取部が回りますので，刈刃・引起しチェーン・引起し爪・パッカアーム・放出アームなど，作動部には絶対にさわらないでください。
＊センサには絶対にさわらないでください。

自動刈取りクラッチ装置はさわらないでください。
もし分解した場合は，次の順序で調整してください。

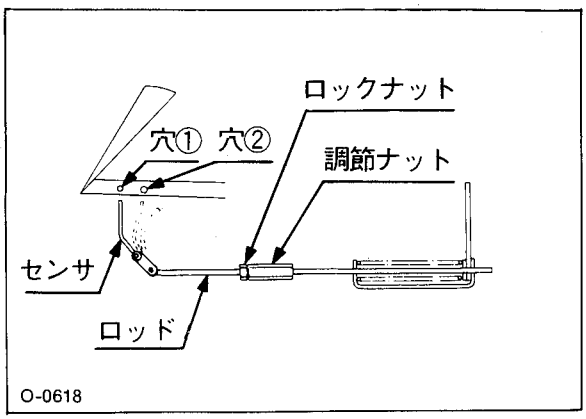
❶シャトルシフトレバーが**“N”**(中立)，刈取りクラッチレバーが**“切”**，主変速レバーが**“N”**(中立)になっていることを確認してください。



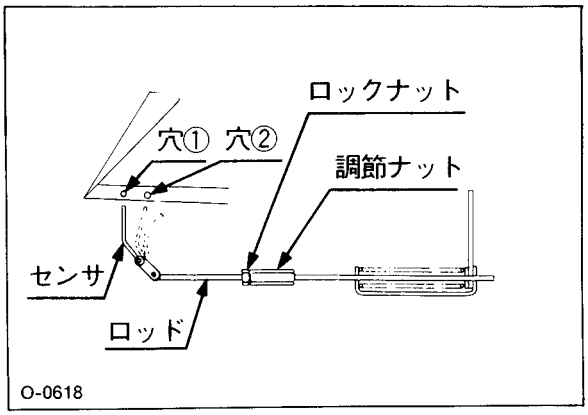
❷センサ切換えレバーを**“自動”**の位置にセットしてください。
❸主変速レバーを**“N”**(中立)の位置にしてください。
❹アクセルレバーは**“始”**位置にし，エンジンを始動してください。
❺刈取りクラッチレバーを**“入”**にしてください。
❻シャトルシフトレバーを**“N”**(中立)にしてください。
❼ロッドを⬅の方向にゆっくり押し，刈取部が回り始めるときのセンサの先端位置をみてください。



❽センサの先端が図の**“穴②”**の後で刈取部が回り始める場合は，調節ナットを**“ロッドを短かくする”**方向に調節してください。



❾センサの先端が**“穴①”**の前で刈取部が回り始める場合は，調節ナットを**“ロッドを長くする”**方向に調節してください。



❿調節が終ったら，調節ナットをロックナットでロックしてください。

⓫調整が終ったら，シャトルシフトレバーを**“N”**(中立)刈取りクラッチレバーを**“切”**にし，エンジンを**“停止”**してください。

自動注油装置による注油

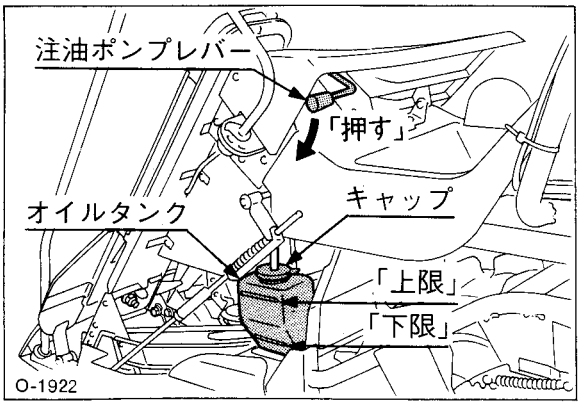
注　意

＊注油するときは，主変速レバーを“N”(中立)にし，エンジン回転を“🐢”(低速)にして，刈取部を回しながら行なってください。

＊刈取部を回すときは，周囲の人に合図し，安全を確認してください。

■オイルタンクへの給油

オイルが**“下限”**線(LOW)以下になったら，キャップを外して，**“上限”**線(FULL)まで入れてください。



重　要

＊オイルはクボタ純オイルG30(ガソリン・灯油エンジン用)を使用してください。
M90(ミッション用)や廃油などを使用すると，確実な注油ができなかったり，注油ノズルが詰まったりすることがあります。

■自動注油の操作

(1)初めて使用するとき，又は配管ホースにオイルがなくなったときは，満たされるまでレバーを操作し，満たされた後１～２回押してください。

(2) 注油は，20～30アール使用ごとに，レバーを１～２回押してください。

重　要

＊初めて使用するとき，タンクからオイルの吸い上げが不十分なときは，レバーを下へ押して上に戻すとき**レバーから手を離す操作**を行なってください。タンクからオイルの吸い上げが良くなります。

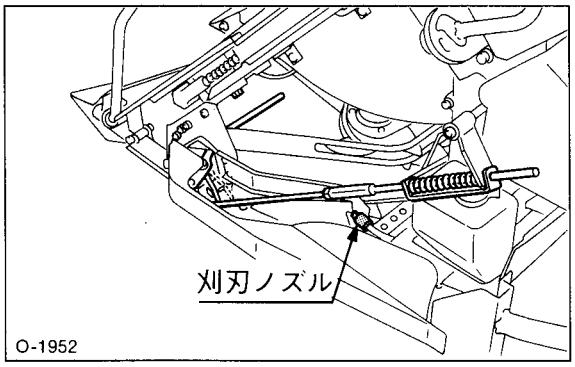
＊レバー操作は２回までにしてください。

＊ノズルの注油口に土やわらくずなどが詰まった場合は，掃除してください。

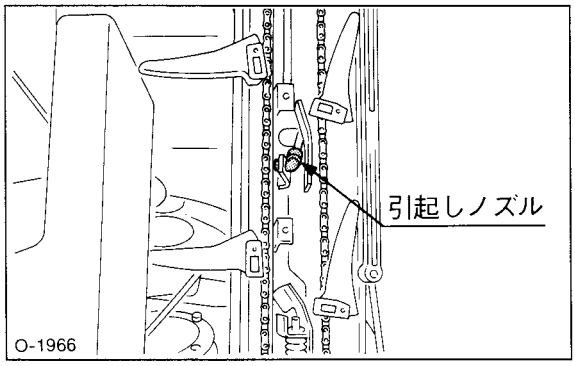
■自動注油による注油箇所

次の箇所に適量のオイルが注油されます。

◆刈刃



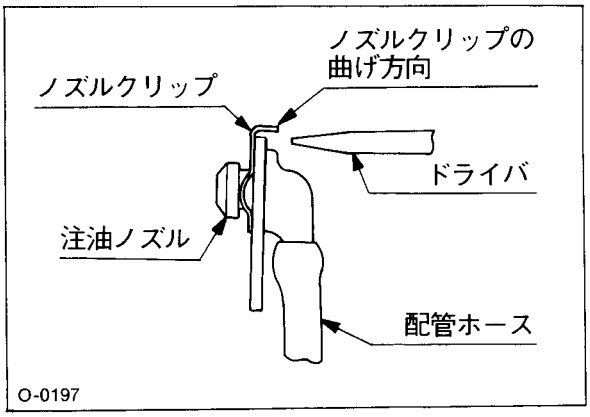
◆引起しチェーン



■注油ノズルの外し方

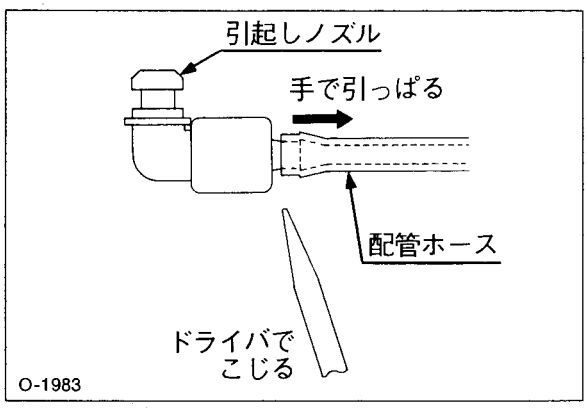
(1)ノズルの詰まりなどで注油ノズルを外すときは，図のようにドライバなどでノズルクリップを外してください。

(2) 取付けのときは，ノズルクリップの曲り部を図の方向にして押込んでください。



■配管ホースの外し方

機械の分解調整や配管ホースの交換などで配管ホースを外すときは，図のように手で配管ホースをまっすぐ引っ張りながらドライバなどで配管ホースの端をこじて外してください。



重 要

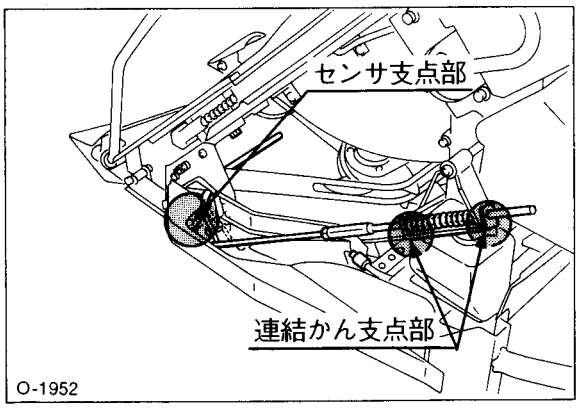
＊ホースをひねったり横方向に引っ張るとノズルのホースの差込み部が折れることがあります。

＊配管ホースが古くなったり，傷がついたら，新しいホースと交換してください。ホースは純正部品を使用してください。新しいホースを取付けるときは，ノズルにいっぱい差込んでください。

■手動注油箇所

◆センサ支点部

◆連結かん支点部



付　表

主要諸元

名称		1輪1条刈バインダー					
型式名		クボタRE20					
区分		RE20	RE20-D	RE20-M	RE20-DM	RE20-E	RE20-DE
機体寸法	全長(mm)	1570					
	全幅(mm)	660(ハンドル)					
	全高(mm)	920(サイドデバイダ)					
機体質量(乾燥)(kg)		82.7【D仕様：83.7】					
エンジン	型式名	クボタGS120-2JB-D					
	種類	空冷4サイクル1気筒SVガソリン					
	総排気量(cc)	121					
	出力/回転速度(kW{PS}/min^{-1})	1.3(1.8)/1600(最大2.2(3.0))					
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン					
	燃料タンク容量(L)	1.8					
	始動方式	リコイルスタータ式(自動減圧付)					
走行部	変速方式	選択かみ合式	選択かみ合式(フィンガーシャトル付)	選択かみ合式	選択かみ合式(フィンガーシャトル付)	選択かみ合式	選択かみ合式(フィンガーシャトル付)
	変速段数(段)	前進2，後進1					
	タイヤ 種類	ゼロプレタイヤ		マッドレスタイヤ		クローリングタイヤ	
	タイヤ サイズ	18×10.0		18×10.0		20×9.0	
	走行速度 前進(m/s)	0.56，0.91					
	走行速度 後進(m/s)	0.58					
	車輪上下調節範囲(mm)	90					
刈取部	刈取り条数	1					
	デバイダ先端間隔(mm)	300					
	刃幅(mm)	200					
	刈高さ範囲(mm)	40～60					
結束部	適用ひもの種類	ジュートひも，合成ひも(PPひも)，サイザルひも					
	束の大きさ調節段数(段)	3					
その他の装置		——	自動刈取りクラッチ，自動注油装置，ランプ	——	自動刈取りクラッチ，自動注油装置，ランプ	——	自動刈取りクラッチ，自動注油装置，ランプ
適応作物		稲・麦					
適応作物全長(mm)		550～1150					
倒伏適応性(度)		左倒伏，追い刈り　85，右倒伏，向い刈り　60					
作業能率(計算値)(分/10a)		65～115					
安全鑑定番号		19088					

■自動刈取りクラッチ【D仕様】

方式	機械式，作物感知
センサ	株元感知式
操作	手動，自動，切換え式

性能	感知範囲	1株10本以上
	倒伏感知範囲(倒伏角度)	0～45度
	湿度性能	半湿田まで
	湿田，又は45度以上の倒伏は手動で使用する。	

名称		2輪1条刈バインダー						
型式名		クボタRE30						
区分		RE30	RE30-G	RE30-D	RE30-L	RE30-W	RE30-GW	RE30-DW
機体寸法	全長(mm)	1600						
	全幅(mm)	600(ハンドル)						
	全高(mm)	1050(シャトルシフトレバー)						
機体質量(乾燥)(kg)		93.7【**D仕様**：94.7】						
エンジン	型式名	クボタGS120-2JB-D【**G仕様**：クボタGS120-2JB-GD】						
	種類	空冷4サイクル1気筒SVガソリン						
	総排気量(cc)	121						
	出力/回転速度(kW{PS}/min^{-1})	1.3(1.8)/1600(最大2.2(3.0))						
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン						
	燃料タンク容量(L)	1.8						
	始動方式	リコイルスタータ式(自動減圧付)						
走行部	変速方式	選択かみ合式(シャトルシフト付)						
	変速段数(段)	前進3，後進1						
	タイヤ 種類	標準タイヤ				広幅低ラグタイヤ		
	タイヤ サイズ	18×7.0				18×9.0		
	走行速度 前進(m/s)	0.55，0.92，1.44						
	走行速度 後進(m/s)	0.52						
刈取部	刈取条数	1						
	デバイダ先端間隔(mm)	300						
	刃幅(mm)	200						
	刈高さ範囲(mm)	40～60			20～40	40～60		
結束部	適用ひもの種類	ジュートひも，合成ひも(PPひも)，サイザルひも						
	束の大きさ調節段数(段)	3						
その他の装置		——		自動刈取りクラッチ 自動注油装置，ランプ		——		自動刈取りクラッチ 自動注油装置，ランプ
適応作物		稲・麦						
適応作物全長(mm)		550～1150						
倒伏適応性(度)		左倒伏，追い刈り　85，右倒伏，向い刈り　60						
作業能率(計算値)(分/10a)		65～115						
安全鑑定番号		19089						

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

＊保証書	1
＊取扱説明書	1
＊本機カバー	1
＊製品取付エフ	1

＊工具	
工具袋	1
17—21ボックススパナ	1
12—14ボックススパナ	1
＊油差し	1
＊ピン（安全ピン）	1
＊M４平座金	1
＊割りピン	1
＊車軸ピン【20】	1
＊エアクリーナエレメントアッシ【30-G】	1

クボタ純オイル

オイルはクボタ純オイルをお使いください

●オイルはバインダーの開発研究から生まれたクボタ純オイルをお使いください。

●エンジンには

クボタ純オイル

G30又はG20W20

(ガソリン・灯油エンジン用)

Z-1022

●バインダーには

クボタ純オイル

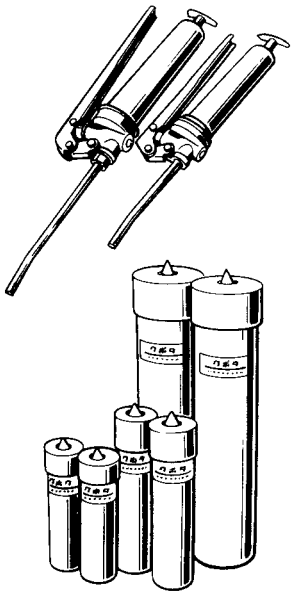
M90

(ミッション用)

Z-1023

●グリースアップには

クボタスペアグリース



Z-1026

いずれもクボタが品質保証する最も適したオイルです。
お買い求めは販売店又はJA農協へご用命ください。

アタッチメント

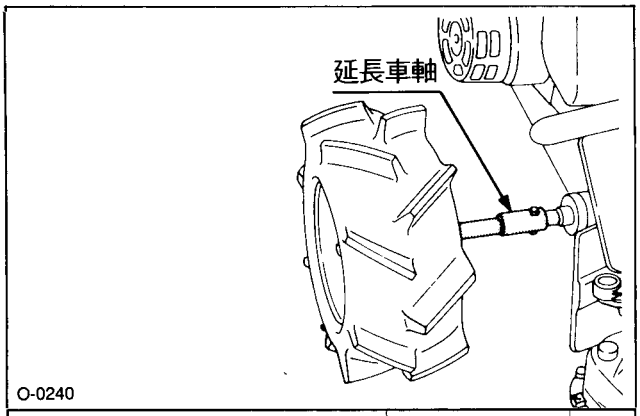
このバインダーには，次のアタッチメントがありますので，最寄の販売店・JA農協でお求めの上ご使用ください。

■麦用部品

麦用セット（50140 - 9220-1）

品　　名	品　　番	個数
麦用デバイダ左	50140-9221-1	1
麦用デバイダ右	50140-9222-1	1

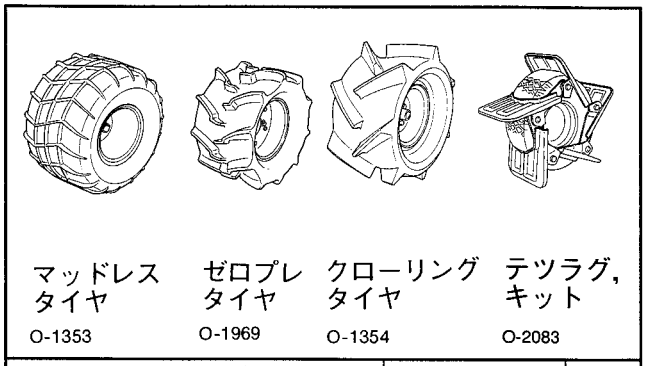
■延長車軸関係【30】



品　　名	品　　番	個数
延長車軸	50530-9211-1	1
車軸ピン	50530-1517-2	1
スナップピン	05516-50100	1
平座金	04011-50100	1

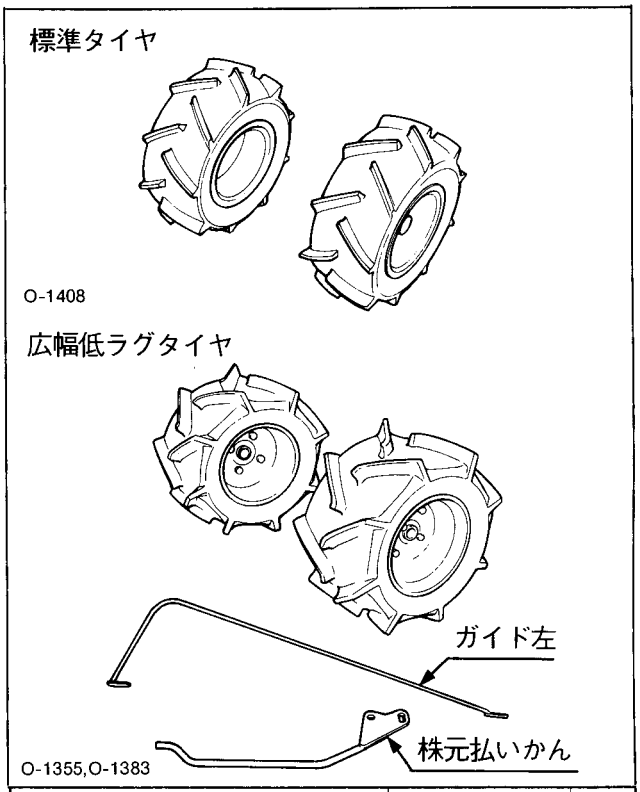
■車輪関係

【20】



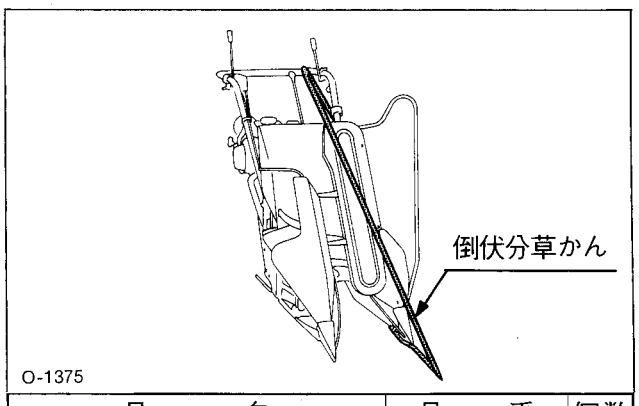
品　　名	品　　番	個数
Mタイヤ完備サービス	50140-9320-2	1
タイヤアッシ(クローリング)	50143-2410-2	1
タイヤアッシ(ゼロプレ)	50030-2410-2	1
テツラグ，キット(ヒョウジュン)	50032-9960-2	1
テツラグ，キット(デラックス)	50033-9960-2	1

【30】



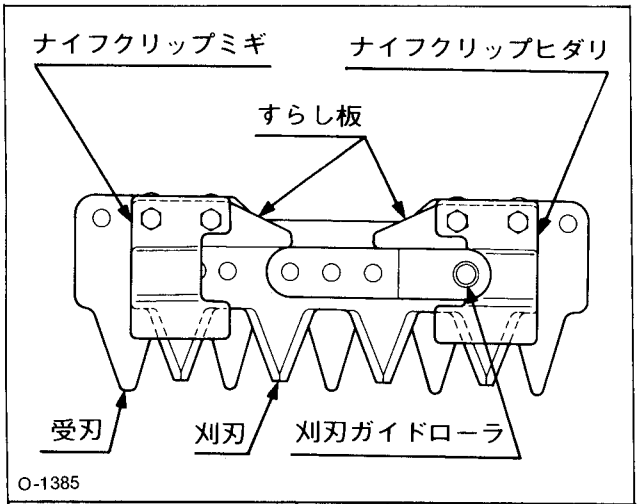
品　　名	品　　番	個数
タイヤ完備セットサービス	50201-9303-1	1
広幅タイヤ完備セットサービス	50160-9330-1	1

■その他



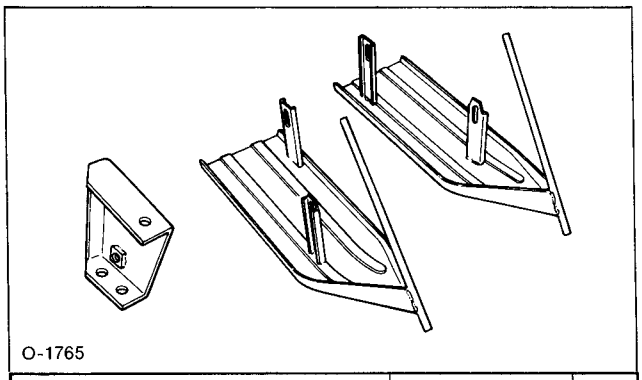
品　　名	品　　番	個数
倒伏分草かんセット	50030-9610-1	1

切断部アッシサービス（50140-9930-1）
切断部アッシサービス（L形）（50164-9930-1）



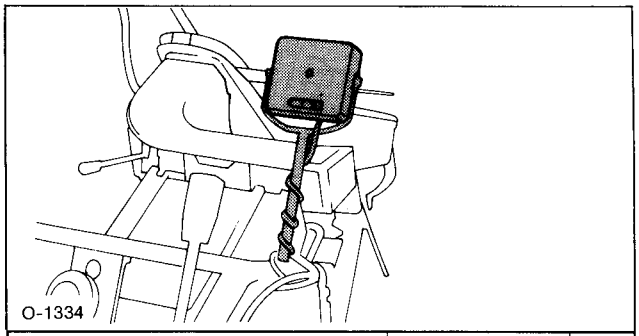
O-1385

品　　名	品　　番	個数
刈刃コンプ	50140-5540-1	1
刈刃コンプ(L形)	50164-5540-2	1
受刃	50140-5561-2	1
受刃(L形)	50164-5561-2	1
ナイフクリップヒダリ	50140-5581-2	1
ナイフクリップミギ	50140-5582-1	1
すらし板	50140-5583-1	2
刈刃ガイドローラ	50140-1794-2	1


O-1765

品　　名	品　　番	個数
ソリ(湿田サービス)	50181-9950-1	1

ライト完備（50790-9940-1）


O-1334

品　　名	品　　番	個数
ランプコンプ	50800-3710-3	1
ランプ取付けステー	50800-3721-2	1
ランプステーバンド	50530-1127-4	1

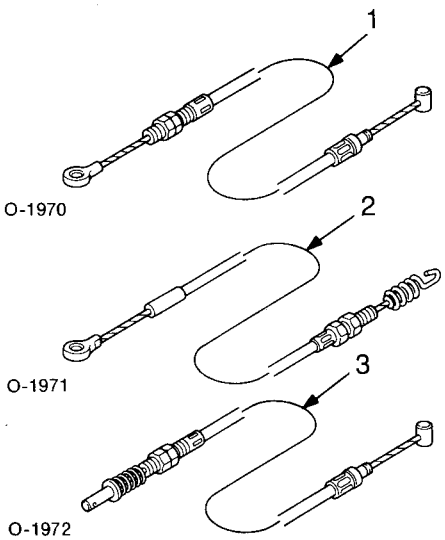
◆アタッチメント一覧表

No.	品　　名	品　　番	適用型式		備　考
			【20】	【30】	
①	麦用セット	50140-9220-1	○	○	
②	延長車軸関係	50530-9211-1 50530-1517-2 05516-50100 04011-50100	－	○	
③	Mタイヤ完備サービス	50140-9320-2	○	－	
④	タイヤアッシ(クローリング)	50143-2410-2	○	－	
⑤	タイヤ完備セットサービス	50201-9303-1	－	○	
⑥	広幅タイヤ完備セットサービス	50160-9330-1	－	○	
⑦	倒伏分草かんセット	50030-9610-1	○	○	
⑨	切断部アッシサービス	50140-9930-1	○	○	
⑩	切断部アッシサービス(L形)	50164-9930-1	－	○	
⑪	ライト完備	50790-9940-1	○	○	
⑫	タイヤアッシ(ゼロプレ)	50030-2410-2	○	－	
⑬	ソリ(湿田サービス)	50181-9950-1	○	－	
⑭	テツラグ，キット(ヒョウジュン)	50032-9960-2	○	－	RE 20用
⑮	テツラグ，キット(デラックス)	50033-9960-2	○	－	RE 20-D用

主な消耗部品一覧表

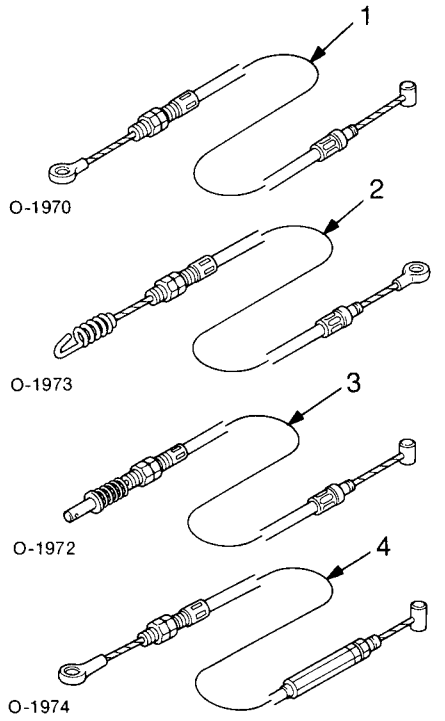
◆ワイヤ関係

【20】



図番	品　名	品　番	個数
1	ケーブル(主クラッチ)	50030-3216-3	1
2	ケーブル(シャトル)【20-D】	50035-3227-3	1
3	ケーブル(刈取りクラッチ)【20】	50030-3236-3	1
	ケーブル(刈取りクラッチ)【20-D】	50035-3236-3	1

【30】



図番	品　名	品　番	個数
1	ケーブル(主クラッチ)	50040-3216-4	1
2	ケーブル(シャトル)	50040-3224-3	1
3	ケーブル(刈取りクラッチ)【30】	50040-3236-3	1
	ケーブル(刈取りクラッチ)【30-D】	50045-3236-2	1
4	ケーブル(ソウコウ)	50040-3351-1	2

◆車軸ピン

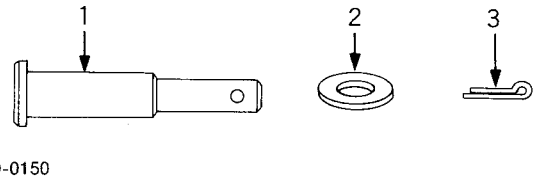
【20】

図番	品　名	品　番	個数
1	車軸ピン	50140-2451-3	1
2	スナップピン	05516-50800	1
3	平座金	04012-50080	1

【30】

図番	品　名	品　番	個数
1	車軸ピン	50530-1517-2	2
2	スナップピン	05516-51000	2
3	平座金	04011-50100	2

◆安全ピン



図番	品　名	品　番	個数
1	ピン	50140-1789-2	1
2	平座金	04013-50040	1
3	割りピン	05511-51612	1

◆引起しチェーン

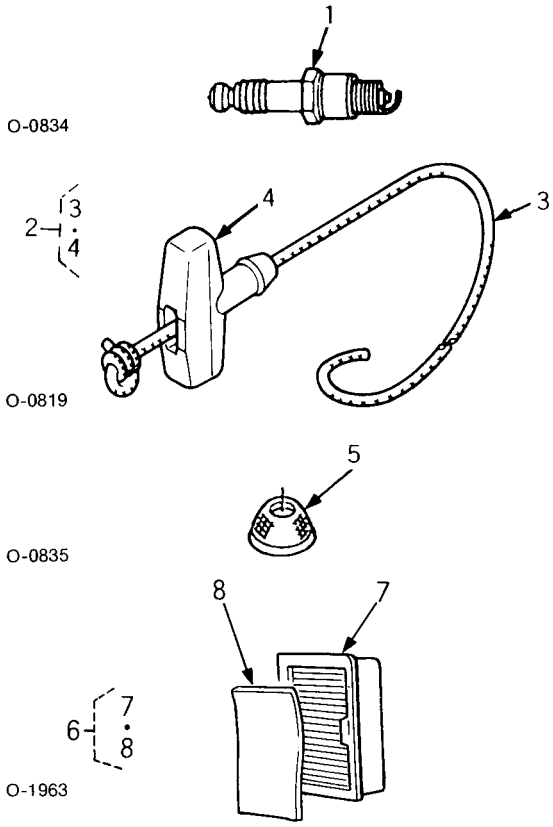
品　名	品　番	個数
引起しチェーン爪完備	50140-5380-1	1
引起し爪	50140-5381-2	6
引起しチェーン	50140-5382-1	1
引起し爪ピン	50140-5383-1	6

品　名	品　番	個数
カンショウゴム	50140-6723-1	1
回転羽根	50140-6458-1	1

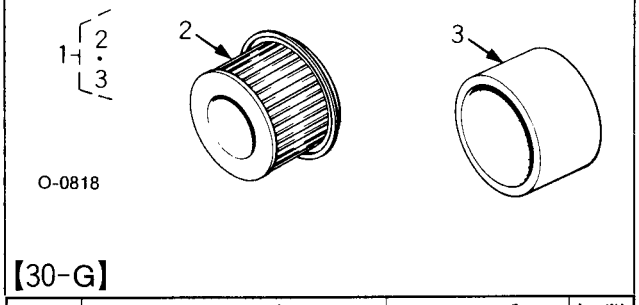
◆ひもナイフ

品　名	品　番	個数
ナイフ(ヒモ)	50080-6338-1	1

◆エンジン関係



図番	品　名	品　番	個数
1	スパークプラグ	13742-6771-1	1
2	ロープアッシ	13901-6109-1	1
3	ロープ	13901-6165-1	1
4	ハンドル	13901-6167-1	1
5	フューエルフィルタエレメント	12866-4316-1	1
6	エレメントアッシ	12812-1121-1	1
7	ペーパエレメント	12812-1118-1	1
8	ウレタンエレメント	12812-1122-1	1



【30-G】

図番	品　名	品　番	個数
1	エレメントアッシ	12398-1108-1	1
2	ペーパエレメント	12398-1121-1	1
3	ウレタンエレメント	13582-1122-1	1

■結束ひも

ひもの種類	品番	品名	製造元	ひも1巻きでの刈取り面積(中束で)
ジュートひも	50080-9441-1	ヒモ(ジュート・テザック)	㈱テザック	約12アール
	50080-9442-1	ヒモ(ジュート・コイズミ)	小泉製麻㈱	
合成ひも(PPひも)	50080-9412-1	ヒモ(フィルム・コイズミ)	小泉製麻㈱	約15アール
	50080-9421-1	ヒモ(ハッポウ・テザック)	㈱テザック	
	50080-9422-1	ヒモ(ハッポウ・コイズミ)	小泉製麻㈱	
	50080-9423-1	ヒモ(ハッポウ・ツカサ)	司化成工業㈱	
	50080-9424-1	ヒモ(ハッポウ・ダイニチ)	大日製缶㈱	
サイザルひも	50080-9431-1	ヒモ(サイザル・テザック)	㈱テザック	約12アール

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後９年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

株式会社クボタ

本　　社：	大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	〒556	電(06)	648-2111
東京本社：	東京都中央区日本橋室町３丁目１番３号	〒103	電(03)	3245-3111
北海道支社：	札幌市中央区北３条西３丁目１番地44(札幌富士ビル)	〒060	電(011)	214-3111
東北支社：	仙台市青葉区本町２丁目15番11号	〒980	電(022)	267-9000
中部支社：	名古屋市中村区名駅３丁目22番８号(大東海ビル)	〒450	電(052)	564-5111
九州支社：	福岡市博多区博多駅前３丁目２番８号(住友生命博多ビル)	〒812	電(092)	473-2401
札幌支店：	札幌市西区西町北16丁目１番１号	〒063	電(011)	662-2121
仙台支店：	名取市田高字原182番地の１	〒981-12	電(022)	384-5151
東京支店：	浦和市西堀５丁目２番36号	〒338	電(048)	862-1121
大阪支店：	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722)	41-8506
岡山支店：	岡山市宍甘275番地	〒703	電(0862)	79-4511
福岡支店：	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-02	電(092)	606-3161
堺製造所：	堺市石津北町64番地	〒590	電(0722)	41-1121
宇都宮工場：	宇都宮市平出工業団地22番地２	〒321	電(0286)	61-1111
筑波工場：	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(0297)	52-5112
枚方製造所：	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720)	40-1121
西日本総合部品センター：	堺市築港新町３丁８番	〒592	電(0722)	45-8601
東日本総合部品センター：	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(0297)	52-0510
北海道部品センター：	北海道北広島市大曲工業団地３丁目１番地	〒061-12	電(011)	376-2335
九州部品センター：	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)	606-3161
株式会社クボタアグリ東北				
秋田事業所：	秋田市寺内字大小路207-54	〒011	電(0188)	45-1601
仙台事業所：	宮城県名取市田高字原182-１	〒981-12	電(022)	384-5151
株式会社クボタアグリ東京				
東京事業所：	浦和市西堀５-２-36	〒338	電(048)	862-1121
新潟事業所：	新潟市上所上１-14-15	〒950	電(025)	285-1261
株式会社クボタアグリ大阪				
金沢事業所：	石川県松任市下柏野町956-１	〒924	電(0762)	75-1121
名古屋事業所：	愛知県一宮市観音町１-１	〒491	電(0586)	24-5111
大阪事業所：	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722)	41-8550
株式会社クボタアグリ中四国				
米子事業所：	米子市米原７丁目１番１号	〒683	電(0859)	33-5011
岡山事業所：	岡山市宍甘275	〒703	電(0862)	79-4511
高松事業所：	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３	〒769-01	電(0878)	74-5091
株式会社クボタアグリ九州				
福岡事業所：	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092)	606-3161
熊本事業所：	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１	〒861-41	電(096)	357-6181

品番　50030－8181－8

Kubota